別記様式第２号（その１の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

基　本　計　画　書

基　本　計　画		
事　項	記　入　欄	備　考
計画の区分	大学の収容定員に係る学則変更	
フリガナ 設置者	ｶﾞｯｺｳﾎｳｼﾞﾝ　ｼｭｳﾄﾞｳｶﾞｸｴﾝ 学校法人　修道学園	
フリガナ 大学の名称	ﾋﾛｼﾏｼｭｳﾄﾞｳﾀﾞｲｶﾞｸ 広島修道大学	
大学本部の位置	広島県広島市安佐南区大塚東一丁目１番１号	
大学の目的	本学は、「道を修める」という建学の精神に基づき、「地球的視野を持って、地域社会の発展に貢献できる人材の養成」を理念、教育目標として掲げ、広く知識を授けるとともに、深く専門の学術を教授研究し、知的、道徳的及び応用能力を涵養することを目的とする。	
新設学部等の目的	人文学部人間関係学科社会学専攻は、これまで安定した志願者数及び多岐にわたる就職実績を維持している。今後もさらなる地域の要請に応えるため、専攻から学科とし、定員を35名増員する。 併せて、入学定員・収容定員の適正な管理および少人数教育のさらなる充実のため、人文学部英語英文学科の定員を10名減員し、大学全体の入学定員1,440名、収容定員5,760名に変更する。	

新設学部等の概要

新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地	備考
	年	人	年次 人	人		年　月 第　年次		
商学部								
商学科	4	155	－	620	学士（商学）	昭和35年4月 第1年次	広島県広島市安佐南区大塚東一丁目1番1号	
経営学科	4	140	－	560	学士（経営学）	昭和38年4月 第1年次	同上	
経済科学部								
現代経済学科	4	115	－	460	学士（経済科学）	平成9年4月 第1年次	同上	
経済情報学科	4	115	－	460	学士（経済科学）	平成9年4月 第1年次	同上	
人文学部								
人間関係学科 社会学専攻	4	0 (60)	－	0 (240)	学士（文学）	令和6年4月 第1年次	同上	
社会学科	4	95 (0)	－	380 (0)	学士（社会学）	令和6年4月 第1年次	同上	※令和5年4月設置届出予定
教育学科	4	100	－	400	学士（教育学）	平成28年4月 第1年次	同上	
英語英文学科	4	100 (110)	－	400 (440)	学士（文学）	令和6年4月 第1年次	同上	
法学部								
法律学科	4	195	－	780	学士（法学）	昭和51年4月 第1年次	同上	
人間環境学部								
人間環境学科	4	115	－	460	学士（人間環境学）	平成14年4月 第1年次	同上	
健康科学部								
心理学科	4	80	－	320	学士(心理学)	平成29年4月 第1年次	同上	
健康栄養学科	4	80	－	320	学士(栄養学)	平成29年4月 第1年次	同上	

新設学部等の概要	国際コミュニティ学部								
	国際政治学科	4	75	—	300	学士（国際政治学）	平成30年4月 第1年次	同上	
	地域行政学科	4	75	—	300	学士（地域行政学）	平成30年4月 第1年次	同上	
	計		1,440 (1,415)	— —	5,760 (5,660)				

同一設置者内における変更状況（定員の移行，名称の変更等）	人文学部人間関係学科社会学専攻（廃止）（△60） ※令和6年4月学生募集停止 人文学部社会学科　(95)　（令和5年4月届出予定） 人文学部英語英文学科〔定員減〕　（△10）　（令和6年4月）	

教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数	
		講義	演習	実験・実習	計		
	—	— 科目	— 科目	— 科目	— 科目	— 単位	

教員組織の概要	学部等の名称			専任教員等 教授	准教授	講師	助教	計	助手	兼任教員等
				人	人	人	人	人	人	人
	新設分	商学部	商学科	8 (8)	4 (2)	0 (0)	0 (2)	12 (12)	0 (0)	72 (72)
			経営学科	7 (8)	4 (3)	0 (0)	1 (1)	12 (12)	0 (0)	72 (72)
			全学共通教育担当 （教養・外国語・保健体育科目）	5 (6)	4 (4)	2 (2)	1 (0)	12 (12)	0 (0)	147 (147)
			教職課程担当	0 (0)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	9 (9)
		経済科学部	現代経済学科	6 (7)	4 (3)	0 (0)	0 (0)	10 (10)	0 (0)	16 (16)
			経済情報学科	6 (6)	4 (4)	0 (0)	0 (0)	10 (10)	0 (0)	16 (16)
			全学共通教育担当 （教養・外国語・保健体育科目）	5 (4)	3 (4)	3 (3)	0 (0)	11 (11)	0 (0)	147 (147)
			教職課程担当	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	9 (9)
		人文学部	社会学科	8 (8)	3 (1)	0 (0)	1 (0)	12 (9)	0 (0)	153 (123)
			教育学科	8 (8)	2 (3)	0 (0)	1 (0)	11 (11)	0 (0)	105 (105)
			英語英文学科	7 (7)	3 (3)	0 (0)	0 (0)	10 (10)	0 (0)	105 (105)
			全学共通教育担当 （教養・外国語・保健体育科目）	4 (4)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	5 (5)	0 (0)	147 (147)
			教職課程担当	4 (4)	1 (0)	0 (0)	0 (1)	5 (5)	0 (0)	9 (9)
		法学部	法律学科	7 (7)	7 (5)	0 (0)	0 (2)	14 (14)	0 (0)	28 (28)
			全学共通教育担当 （教養・外国語・保健体育科目）	5 (5)	3 (3)	1 (1)	0 (0)	9 (9)	0 (0)	147 (147)
			教職課程担当	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	9 (9)
		人間環境学部	人間環境学科	9 (9)	4 (4)	0 (0)	1 (1)	14 (14)	0 (0)	26 (26)
			全学共通教育担当 （教養・外国語・保健体育科目）	2 (2)	2 (2)	1 (1)	0 (0)	5 (5)	0 (0)	147 (147)
			教職課程担当	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	9 (9)
		健康科学部	心理学科	11 (12)	0 (0)	1 (1)	1 (0)	13 (13)	0 (0)	19 (19)
			健康栄養学科	7 (7)	3 (4)	0 (0)	1 (0)	11 (11)	5 (5)	19 (19)
			全学共通教育担当 （教養・外国語・保健体育科目）	1 (2)	1 (0)	0 (0)	0 (0)	2 (2)	0 (0)	147 (147)
			教職課程担当	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	9 (9)

教員組織の概要	新設分	国際コミュニティ学部 国際政治学科	6 (6)	1 (2)	0 (0)	1 (0)	8 (8)	0 (0)	16 (16)	
		地域行政学科	5 (5)	2 (1)	0 (0)	1 (2)	8 (8)	0 (0)	16 (16)	
		全学共通教育担当 (教養・外国語・保健体育科目)	3 (5)	0 (0)	1 (1)	2 (0)	6 (6)	0 (0)	147 (147)	
		教職課程担当	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	9 (9)	
		計	124 (130)	56 (49)	10 (10)	11 (9)	201 (198)	5 (5)	－ (－)	
	既設分	該当なし	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	
		計	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	
	合計		124 (130)	56 (49)	10 (10)	11 (9)	201 (198)	5 (5)	－ (－)	

教員以外の職員の概要	職種	専任	兼任	計
	事務職員	106 人 (106)	62 人 (65)	168 人 (171)
	技術職員	0 (0)	0 (0)	0 (0)
	図書館専門職員	7 (7)	12 (12)	19 (19)
	その他の職員	0 (0)	0 (0)	0 (0)
	計	113 (113)	74 (77)	187 (190)

校地等	区分	専用	共用	共用する他の学校等の専用	計	完成年度までに実施予定の建設工事
	校舎敷地	37,146㎡	0㎡	0㎡	37,146㎡	【令和5年】 ・ﾃﾆｽ・ﾊﾞﾚｰｺｰﾄ竣工 ・新体育館建設開始 【令和7年前期】 ・新体育館竣工 【令和7年後期】 ・旧体育館解体 【令和8年前期】 ・旧体育館跡地に駐車場整備
	運動場用地	91,774㎡	0㎡	0㎡	91,774㎡	
	小計	128,920㎡	0㎡	0㎡	128,920㎡	
	その他	209,955㎡	0㎡	0㎡	209,955㎡	
	合計	338,875㎡	0㎡	0㎡	338,875㎡	

校舎	専用	共用	共用する他の学校等の専用	計	
	70,640㎡ (70,640㎡)	0㎡ (0㎡)	0㎡ (0㎡)	70,640㎡ (70,640㎡)	

教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	大学全体
	97室	16室	64室	18室 (補助職員－人)	7室 (補助職員－人)	

専任教員研究室	新設学部等の名称	室数	大学全体
	人文学部社会学科	12 室	

図書・設備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点	
	大学全体	942,073〔244,733〕 (921,073〔241,493〕)	24,091〔15,333〕 (24,091〔15,333〕)	12,726〔12,651〕 (12,726〔12,651〕)	24,911 (24,491)	— (—)	— (—)	
	計	942,073〔244,733〕 (921,073〔241,493〕)	24,091〔15,333〕 (24,091〔15,333〕)	12,726〔12,651〕 (12,726〔12,651〕)	24,911 (24,491)	— (—)	— (—)	

図書館	面積	閲覧座席数	収納可能冊数	大学全体 完成年度までに実施予定の建設工事 【令和5年】 ・ﾃﾆｽ・ﾊﾟﾚｰｺｰﾄ竣工 ・新体育館建設開始 【令和7年前期】 ・新体育館竣工 【令和7年後期】 ・旧体育館解体 【令和8年前期】 ・旧体育館跡地に駐車場整備
	11,700㎡	922	1,200,000	

体育館	面積	体育館以外のスポーツ施設の概要			
	10,525㎡	屋内プール1面	野球場1面	陸上競技場1面	アーチェリー場1面

経費の見積り

区分	開設前年度	第１年次	第２年次	第３年次	第４年次	第５年次	第６年次
教員１人当り研究費等		676千円	676千円	676千円	676千円	－千円	－千円
共同研究費等		6,000千円	6,000千円	6,000千円	6,000千円	－千円	－千円
図書購入費	190,303千円	191,564千円	192,516千円	193,277千円	194,038千円	－千円	－千円
設備購入費	121,909千円	122,397千円	123,006千円	123,494千円	123,981千円	－千円	－千円

経費の見積り及び維持方法の概要

学生１人当り納付金	第１年次	第２年次	第３年次	第４年次	第５年次	第６年次
商学部	1,000千円	1,000千円	1,000千円	1,000千円	－千円	－千円
人文学部社会学科	1,000千円	1,000千円	1,000千円	1,000千円	－千円	－千円
人文学部教育学科	1,030千円	1,030千円	1,030千円	1,030千円	－千円	－千円
人文学部英語英文学科	1,000千円	1,000千円	1,000千円	1,000千円	－千円	－千円
法学部	1,000千円	1,000千円	1,000千円	1,000千円	－千円	－千円
経済科学部現代経済学科	1,000千円	1,000千円	1,000千円	1,000千円	－千円	－千円
経済科学部経済情報学科	1,030千円	1,030千円	1,030千円	1,030千円	－千円	－千円
人間環境学部	1,000千円	1,000千円	1,000千円	1,000千円	－千円	－千円
健康科学部心理学科	1,040千円	1,040千円	1,040千円	1,040千円	－千円	－千円
健康科学部健康栄養学科	1,120千円	1,120千円	1,120千円	1,120千円	－千円	－千円
国際ｺﾐｭﾆﾃｨ学部国際政治学科	1,000千円	1,000千円	1,000千円	1,000千円	－千円	－千円
国際ｺﾐｭﾆﾃｨ学部地域行政学科	1,000千円	1,000千円	1,000千円	1,000千円	－千円	－千円
学生納付金以外の維持方法の概要	私立大学等経常費補助金、資産運用収入、雑収入　等					

大学全体

図書費には電子ジャーナル・データベース整備費（運用コスト含む）を含む

既設大学等の状況

大学の名称：広島修道大学

学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地
	年	人	年次人	人		倍		
商学部						1.11		広島市安佐南区大塚東一丁目1番1号
商学科	4	155	－	620	学士（商学）	1.12	昭和35年度	
経営学科	4	140	－	560	学士（経営学）	1.10	昭和38年度	
経済科学部						1.10		
現代経済学科	4	115	－	460	学士（経済科学）	1.11	平成9年度	
経済情報学科	4	115	－	460	学士（経済科学）	1.09	平成9年度	
人文学部						1.05		
人間関係学科 社会学専攻	4	60		240	学士（文学）	1.01	昭和48年度	
教育学科	4	100	－	400	学士（教育学）	1.10	平成28年度	
英語英文学科	4	110	－	440	学士（文学）	1.04	昭和48年度	
法学部						1.11		
法律学科	4	195	－	780	学士（法学）	1.11	昭和51年度	
人間環境学部						1.11		
人間環境学科	4	115	－	460	学士（人間環境学）	1.11	平成14年度	
健康科学部						1.07		
心理学科	4	80	－	320	学士(心理学)	1.17	平成29年度	
健康栄養学科	4	80	－	320	学士(栄養学)	0.96	平成29年度	
国際コミュニティ学部						1.09		
国際政治学科	4	75	－	300	学士(国際政治学)	1.04	平成30年度	
地域行政学科	4	75	－	300	学士(地域行政学)	1.14	平成30年度	

既設大学等の状況	商学研究科									
	商学専攻						0.04			
	博士前期課程	2	8	ー	16	修士（商学）	0.00	昭和46年度		
	博士後期課程	3	2	ー	6	博士（商学）	0.16	昭和48年度		
	経営学専攻						0.24			
	博士前期課程	2	12	ー	24	修士（経営学）	0.33	昭和52年度		
	博士後期課程	3	3	ー	9	博士（経営学）	0.00	昭和52年度		
	経済科学研究科									
	現代経済システム専攻						0.13			
	博士前期課程	2	8	ー	16	修士（経済学又は経済情報）	0.18	平成13年度		
	博士後期課程	3	2	ー	6	博士（経済学）	0.00	平成15年度		
	経済情報専攻						0.04			
	博士前期課程	2	8	ー	16	修士（経済学又は経済情報）	0.00	平成13年度		
	博士後期課程	3	2	ー	6	博士（経済情報）	0.16	平成15年度		
	人文科学研究科									
	心理学専攻						0.47			
	博士前期課程	2	14	ー	28	修士（心理学）	0.50	昭和53年度		
	博士後期課程	3	2	ー	6	博士（心理学）	0.33	昭和56年度		
	社会学専攻　修士課程	2	5	ー	10	修士（社会学）	0.60	昭和59年度		
	教育学専攻　修士課程	2	5	ー	10	修士（教育学）	0.20	昭和59年度		
	英文学専攻						0.31			
	博士前期課程	2	5	ー	10	修士（文学）	0.60	昭和53年度		
	博士後期課程	3	3	ー	9	博士（文学）	0.00	昭和56年度		
	法学研究科									
	法律学専攻　修士課程	2	5	ー	10	修士（法学）	1.20	昭和56年度		
	国際政治学専攻 修士課程	2	10	ー	20	修士（国際政治学）	0.10	平成6年度		
附属施設の概要	該当なし									

（注）
1　共同学科等の認可の申請及び届出の場合，「計画の区分」，「新設学部等の目的」，「新設学部等の概要」，「教育課程」及び「教員組織の概要」の「新設分」の欄に記入せず，斜線を引くこと。
2　「教員組織の概要」の「既設分」については，共同学科等に係る数を除いたものとすること。
3　私立の大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科又は高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の届出を行おうとする場合は，「教育課程」，「教室等」，「専任教員研究室」，「図書・設備」，「図書館」及び「体育館」の欄に記入せず，斜線を引くこと。
4　大学等の廃止の認可の申請又は届出を行おうとする場合は，「教育課程」，「校地等」，「校舎」，「教室等」，「専任教員研究室」，「図書・設備」，「図書館」，「体育館」及び「経費の見積もり及び維持方法の概要」の欄に記入せず，斜線を引くこと。
5　「教育課程」の欄の「実験・実習」には，実技も含むこと。
6　空欄には，「ー」又は「該当なし」と記入すること。

学校法人修道学園　設置認可等に関わる組織の移行表

令和5年度	入学定員	編入学定員	収容定員
広島修道大学			
商学部　商学科	155	―	620
商学部　経営学科	140	―	560
経済科学部　現代経済学科	115	―	460
経済科学部　経済情報学科	115	―	460
人文学部　人間関係学科　社会学専攻	60	―	240
人文学部　教育学科	100	―	400
人文学部　英語英文学科	110	―	440
法学部　法律学科	195	―	780
人間環境学部　人間環境学科	115	―	460
健康科学部　心理学科	80	―	320
健康科学部　健康栄養学科	80	―	320
国際コミュニティ学部　国際政治学科	75	―	300
国際コミュニティ学部　地域創造学科	75	―	300
計	1,415	―	5,660
広島修道大学大学院			
商学研究科　商学専攻（M）	8	―	16
商学研究科　商学専攻（D）	2	―	6
商学研究科　経営学専攻（M）	12	―	24
商学研究科　経営学専攻（D）	3	―	9
経済科学研究科　現代経済システム専攻（M）	8	―	16
経済科学研究科　現代経済システム専攻（D）	2	―	6
経済科学研究科　経済情報専攻（M）	8	―	16
経済科学研究科　経済情報専攻（D）	2	―	6
人文科学研究科　心理学専攻（M）	14	―	28
人文科学研究科　心理学専攻（D）	2	―	6
人文科学研究科　社会学専攻（M）	5	―	10
人文科学研究科　教育学専攻（M）	5	―	10
人文科学研究科　英文学専攻（M）	5	―	10
人文科学研究科　英文学専攻（D）	3	―	9
法学研究科　法律学専攻（M）	5	―	10
法学研究科　国際政治学専攻（M）	10	―	20
計	94	―	202

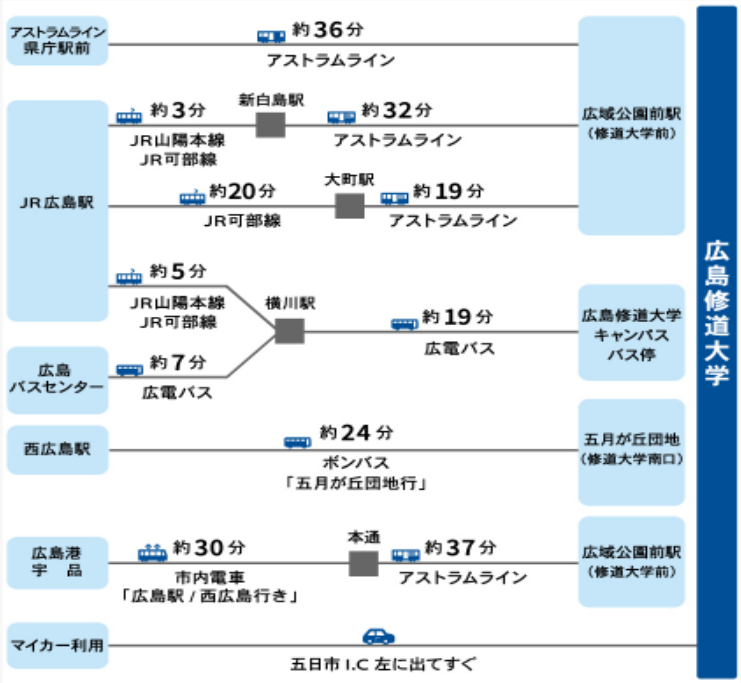
令和6年度	入学定員	編入学定員	収容定員	変更の事由
広島修道大学				
商学部　商学科	155	―	620	
商学部　経営学科	140	―	560	
経済科学部　現代経済学科	115	―	460	
経済科学部　経済情報学科	115	―	460	
人文学部　人間関係学科　社会学専攻	0	―	0	令和6年4月学生募集停止
人文学部　社会学科	95	―	380	学科の設置(届出)
人文学部　教育学科	100	―	400	
人文学部　英語英文学科	100	―	400	定員変更（△10）
法学部　法律学科	195	―	780	
人間環境学部　人間環境学科	115	―	460	
健康科学部　心理学科	80	―	320	
健康科学部　健康栄養学科	80	―	320	
国際コミュニティ学部　国際政治学科	75	―	300	
国際コミュニティ学部　地域創造学科	75	―	300	
計	1,440	―	5,760	
広島修道大学大学院				
商学研究科　商学専攻（M）	8	―	16	
商学研究科　商学専攻（D）	2	―	6	
商学研究科　経営学専攻（M）	12	―	24	
商学研究科　経営学専攻（D）	3	―	9	
経済科学研究科　現代経済システム専攻（M）	8	―	16	
経済科学研究科　現代経済システム専攻（D）	2	―	6	
経済科学研究科　経済情報専攻（M）	8	―	16	
経済科学研究科　経済情報専攻（D）	2	―	6	
人文科学研究科　心理学専攻（M）	14	―	28	
人文科学研究科　心理学専攻（D）	2	―	6	
人文科学研究科　社会学専攻（M）	5	―	10	
人文科学研究科　教育学専攻（M）	5	―	10	
人文科学研究科　英文学専攻（M）	5	―	10	
人文科学研究科　英文学専攻（D）	3	―	9	
法学研究科　法律学専攻（M）	5	―	10	
法学研究科　国際政治学専攻（M）	10	―	20	
計	94	―	202	

都道府県内における位置関係の図面

① 広島修道大学中心校地
（広島市安佐南区大塚東一丁目1番1号）

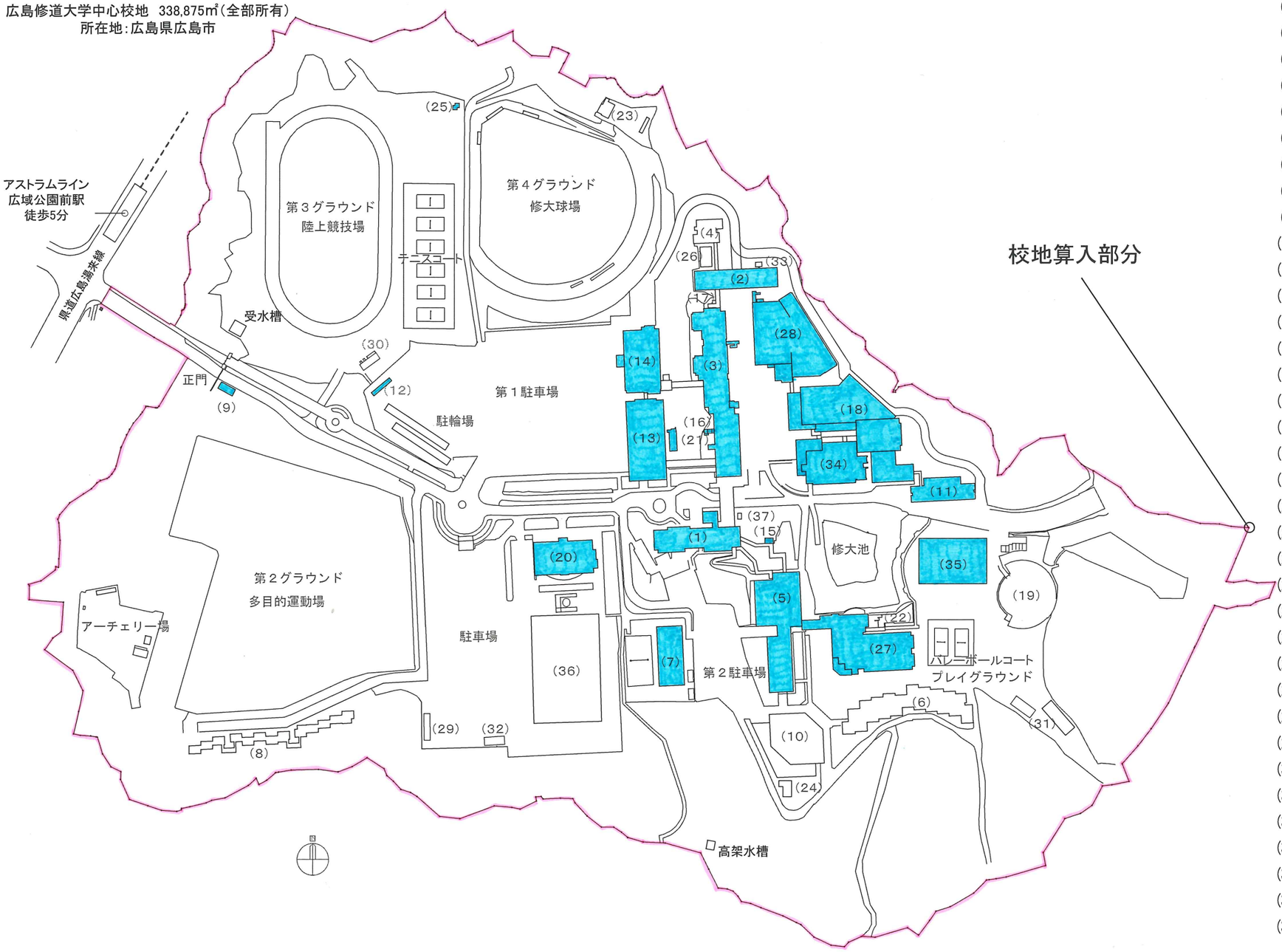
最寄り駅からの距離や交通機関がわかる図面

公共交通機関の場合



校舎、運動場等の配置図

広島修道大学中心校地　338,875㎡（全部所有）
所在地：広島県広島市



(1)	本館	所有	校	舎	鉄筋・７階建	5,797.27 ㎡
(2)	１号館	所有	校	舎	鉄筋・３階建	2,253.50 ㎡
(3)	２号館	所有	校	舎	鉄筋・３階建	6,101.66 ㎡
(4)	臨床心理相談センター	所有	校	舎	鉄筋・３階建	681.17 ㎡
(5)	食堂棟	所有	校	舎	鉄筋・３階建	3,688.89 ㎡
(6)	文化クラブハウス	所有	附属施設		鉄筋・２階建	2,822.00 ㎡
(7)	エネルギーセンター	所有	校	舎	鉄筋・２階建	943.61 ㎡
(8)	体育クラブハウス	所有	附属施設		鉄筋・３階建	1,892.00 ㎡
(9)	守衛所	所有	校	舎	鉄筋・平家建	56.00 ㎡
(10)	講堂	所有	講	堂	鉄筋・３階建	3,051.55 ㎡
(11)	第２研究棟	所有	校	舎	鉄骨鉄筋・７階建	3,932.60 ㎡
(12)	第一駐車場便所	所有	校	舎	鉄筋・平家建	48.00 ㎡
(13)	５号館	所有	校	舎	鉄骨鉄筋・５階建	5,303.19 ㎡
(14)	６号館	所有	校	舎	鉄筋・４階建	4,754.92 ㎡
(15)	ＥＶ塔（食堂棟）	所有	校	舎	鉄筋・平家建	11.87 ㎡
(16)	２号館ＥＶ塔（南）	所有	校	舎	鉄筋・平家建	15.49 ㎡
(17)	２号館ＥＶ塔（北）	所有	校	舎	鉄筋・平家建	15.49 ㎡
(18)	図書館／第１研究棟	所有	校舎・図書館		鉄骨鉄筋・８階建	13,574.28 ㎡
(19)	セミナーハウス	所有	附属施設		鉄筋・２階建	1,298.78 ㎡
(20)	７号館	所有	校	舎	鉄筋・４階建	3,822.92 ㎡
(21)	５号館号館東側女子便所	所有	校	舎	鉄筋・平家建	63.77 ㎡
(22)	音楽実習棟	所有	校	舎	鉄筋・平家建	198.88 ㎡
(23)	弓道場	所有	附属施設		鉄骨・平家建	117.73 ㎡
(24)	サークル練習棟	所有	附属施設		軽量・平家建	193.59 ㎡
(25)	便所（サブグラウンド）	所有	校	舎	鉄筋・平家建	55.66 ㎡
(26)	小学校課程実習棟	所有	校	舎	鉄骨・平家建	157.41 ㎡
(27)	修大フォーラム	所有	校舎・ﾌﾟｰﾙ		鉄筋・２階建	2,759.21 ㎡
(28)	３号館	所有	校	舎	鉄骨鉄筋・４階建	7,064.31 ㎡
(29)	体育館南倉庫	所有	附属施設		鉄筋・平家建	90.75 ㎡
(30)	体育館北倉庫	所有	附属施設		鉄筋・平家建	89.24 ㎡
(31)	文化クラブ倉庫	所有	附属施設		鉄骨・平家建	248.43 ㎡
(32)	自動車車庫	所有	附属施設		鉄骨・平家建	94.24 ㎡
(33)	１号館北倉庫	所有	校	舎	鉄骨・平家建	12.82 ㎡
(34)	協創館	所有	校	舎	鉄骨鉄筋・５階建	5,823.41 ㎡
(35)	９号館	所有	校	舎	鉄骨鉄筋・３階建	4,684.92 ㎡
(36)	体育館（建設予定－未着手）	所有	体育館		鉄骨・３階建	10,525.00 ㎡

○広島修道大学学則

第１章　総則

（目的）

第１条　本学は、「道を修める」という建学の精神に基づき、「地球的視野を持って、地域社会の発展に貢献できる人材の養成」を理念に掲げ、広く知識を授けるとともに、深く専門の学術を教授研究し、知的、道徳的及び応用能力を涵養することを目的とする。

２　本学は、前項の目的を達成するために、「地球的視野を持って、地域社会の発展に貢献できる人材の養成」を全学の教育目標として掲げ、地域社会と連携しながら、この目標の実現に努めるものとする。

（自己点検・評価）

第１条の２　本学は、その教育研究水準の向上を図り、大学の目的及び社会的使命を達成するため、大学における教育研究活動等の状況について自己点検・評価を行い、その結果を公表するものとする。

２　本学は、前項の点検及び評価の結果について、本学教職員以外の者による検証を行うよう努めるものとする。

３　自己点検・評価及び公表に関する必要な事項は、別に定める。

（情報の積極的な公表）

第１条の３　本学は、その教育研究活動等の状況について、刊行物への掲載その他広く周知を図ることができる方法によって、積極的に情報を公表するものとする。

２　情報公表に関する規程は別に定める。

（教育内容等の改善のための組織的な研修等）

第１条の４　本学は、授業の内容及び方法の改善を図るための組織的な研修及び研究を実施するものとする。

（学部学科の組織）

第２条　本学に次の学部及び学科を置く。

学部	学科
商学部	商学科 経営学科
経済科学部	現代経済学科 経済情報学科
人文学部	社会学科 教育学科 英語英文学科

法学部	法律学科
人間環境学部	人間環境学科
健康科学部	心理学科 健康栄養学科
国際コミュニティ学部	国際政治学科 地域行政学科

（学部、学科の教育研究上の目的）

第２条の２　本学の学部、学科の教育研究上の目的は次項以下のとおりとする。

２　商学部は、商学及び経営学の理論的分野と実践的分野の教育研究を行い、地域社会及び国際社会に貢献できる専門的知識と高度の教養を備え、社会に生じる諸問題の解決能力を有する人材を養成することを目的とする。

(1)　商学科は、商学について理論的分野と実務的分野の教育研究を行い、地域社会及び国際社会に貢献できる専門的知識と高度の教養を備え、かつ実社会で活躍できる個性的で自主的・自律的、そして自由闊達な人材を養成することを目的とする。

(2)　経営学科は、経営と会計について理論的分野と実務的分野の教育研究を行い、地域社会及び国際社会に貢献できる専門的知識と高度の教養を備え、かつ経営・会計的能力をもった個性的で自主的・自律的、そして自由闊達な人材を養成することを目的とする。

３　経済科学部は、情報科学等の現代的諸科学を大幅に導入し、実際の経済現象や経済問題について、さらには経営・社会・環境等に関する諸現象や諸問題について、体系的に教育研究を行い、現代の経済社会・情報社会に求められる高度な知識と技術を有する人材を養成することを目的とする。

(1)　現代経済学科は、伝統的な経済学の成果を取り入れつつ、最新の経済現象や経済問題を学問対象とし、最新の統計的・数量的手法等を学問方法として教育研究を行うことによって、現代の経済社会を体系的に把握かつ科学的に分析する能力を有する人材を養成することを目的とする。

(2)　経済情報学科は、経済・経営・社会・環境等をシステムとして把握し、それらに対してコンピュータを駆使した科学的かつ論理的な教育研究を行うことによって、経済社会の発展に貢献しうる情報処理能力及び論理的思考力を有する人材を養成することを目的とする。

４　人文学部は、現代社会の課題を理解する能力の育成、コミュニケーション能力の育成、そして情報リテラシーの習得を通して、地球的視野を持つ人材の養成と個性的、自律的な人間を育成することを目的とする。

(1)　社会学科は、「社会に生起する問題を発見」し、多様な価値観や文化・属性を有する人々の「多様性を理解」し、社会的現実を解明するために「社会調査による実証研究を実施」し、社会学が蓄積した理論的枠組みや方法に基づき「理論的に思考」し、社会に生起する問題を解決に導くために「社会を構想し提言する」能力をもつ人材の養成を目的とする。

(2)　教育学科は、「人間の発達と形成」に関して誕生・成熟・死に至る時間的連なりと、家庭・学校・社会に関わる空間的広がりにおいて理解する学際的・総合的視点からの教育を行い、現代の教育と人間形成に関する諸問題に対応した教育観と教育実践力を備えた人材を養成することを目的とする。

(3)　英語英文学科は、高度な英語運用能力を育成するとともに、英語圏の言語、文学についての幅広い教育を行うことによって、広い教養と国際的視野及び高度なコミュニケーション能力を備えた人材の養成を目的とする。

5　法学部法律学科は、法に関する知識や論理的な思考の修得・涵養、多様な価値観から合理的なものを選択する判断力の養成を通じて、新たな問題に対処できる能力を持つ良識ある市民の育成を目的とする。

6　人間環境学部人間環境学科は、持続可能な社会を構築するために、社会・文化・経済・政治・法律・自然などが複合的に関連する領域において、環境問題を総合的に把握・分析し、有効な解決策を見出すことのできる社会科学系の環境の専門家を養成することを目的とする。

7　健康科学部は、「こころ」と「からだ」及びそれらの相互作用に関する生物学的・生理学的基礎に関する知識を習得し、人間の精神と行動を科学的に数量化し分析する能力を修め、自己及び他者を健康に導くための実践力を備えた人材の養成を目的とする。

(1)　心理学科は、「こころ」と「からだ」に関する科学的知識を、乳幼児から高齢者に至る各年齢段階に沿って基礎と応用の側面から体系的に学修し、日常の心理学的諸問題の解決に向けて自己及び他者の行動を変容させうる実践力を備えた人材の養成を目的とする。

(2)　健康栄養学科は、幅広い年齢層の健康な人から傷病者までを対象とした「健康と栄養」に関する専門知識と技能を、基礎と応用の両面から体系的に学修し、実践を通じて地域の人々の健康維持・増進に貢献することのできる管理栄養士の資格を有する人材の養成を目的とする。

8　国際コミュニティ学部は、Think Globally,Act Locallyを念頭に、地域社会と国際社会における多様性とダイナミズムを理解できる思考力と知性を身につけ、良識と教養ある判断力を備えた市民の育成を目的とする。

(1)　国際政治学科は、日本と世界のさまざまな問題に対する知識と理解力を持ち、深い教養と良識、多言語多文化社会におけるコミュニケーション力を備えた市民の育成を目的とする。

(2)　地域行政学科は、地域社会のさまざまな課題に関する知識と理解力を持ち、多様な人々と協働して課題を解決するコミュニケーション力を備えた市民の育成を目的とする。

（入学定員及び収容定員）

第３条　本学の学部別及び学科別の入学定員並びに収容定員は、次のとおりとする。

学部	学科	入学定員	収容定員
商学部	商学科	155名	620名
	経営学科	140名	560名
経済科学部	現代経済学科	115名	460名
	経済情報学科	115名	460名
人文学部	社会学科	95名	380名
	教育学科	100名	400名
	英語英文学科	100名	400名
法学部	法律学科	195名	780名
人間環境学部	人間環境学科	115名	460名
健康科学部	心理学科	80名	320名
	健康栄養学科	80名	320名
国際コミュニティ学部	国際政治学科	75名	300名
	地域行政学科	75名	300名

（修業年限）

第４条　本学学部の修業年限は、４年とする。ただし、８年を超えて在学することはできない。

（長期履修学生の修業年限）

第４条の２　前条の規定にかかわらず、学生が職業を有している等の事情により、修業年限を超えて一定の期間にわたり計画的に教育課程を履修し卒業することを希望する旨申し出たときは、その計画的な履修を認めることがある。

２　前項の学生（以下「長期履修学生」という。）の取り扱いに関し必要な事項は別に定める。

（大学院）

第５条　本学に大学院を置く。

２　大学院学則は、別にこれを定める。

第２章　学年、学期及び休日

（学年）

第６条　本学の学年は、４月１日に始まり翌年３月末日に終る。

（学期及び授業週数）

第７条　１学年の授業は、35週を基準とし、１学年を分けて次の２学期とする。

(1)　前期　４月１日から９月25日まで

(2)　後期　９月26日から翌年３月末日まで

２　前項に定める前期を第１学期及び第２学期、後期を第３学期及び第４学期に分けることができるものとし、期間については当該年度の学年暦において定める。

（休日）

第８条　本学の休日は、次のように定める。

(1)　日曜日

(2)　国民の祝日に関する法律（昭和23年法律第178号）に規定する休日

(3)　開学記念日　11月４日

(4)　夏季休日　８月１日から９月25日まで

(5)　冬季休日　12月25日から翌年１月７日まで

(6)　春季休日　３月１日から３月末日まで

２　学長は、大学評議会の議を経て休日を変更し、また臨時の休日を定めることができる。

３　休日の期間中においても必要な授業を行うことができる。

第３章　授業科目、単位数、履修方法及び授業期間

（授業科目区分、修得単位数及び卒業所要単位数）

第９条　本学学部・学科の授業科目の区分、修得単位数及び卒業所要単位数を別表１のとおり定める。

２　前項に定める修得単位数の詳細については、各学部の履修細則に定める。

（開設授業科目及び単位数）

第10条　本学学部・学科の授業科目の名称及び単位数は、別表２のとおりとする。

２　前項に定める授業科目の分類、配当年次、履修方法等については、各学部の履修細則に定める。ただし、第16条に定める教職課程に関する授業科目、第16条の２に定める資格課程に関する授業科目の履修方法等については除く。

（単位の計算方法）

第11条　各授業科目の単位数は、１単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をも

って構成することを標準とし、授業の方法に応じ、当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して、次の基準により計算するものとする。

(1)　講義及び演習については、15時間の授業をもって１単位とする。ただし、別に定める授業科目については、30時間の授業をもって１単位とする。

(2)　実験、実習及び実技については、30時間から45時間の授業をもって１単位とする。

(3)　一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、その組み合わせに応じ、前２号に規定する基準を考慮して別に定める時間の授業をもって１単位とする。

２　前項の規定にかかわらず、卒業論文及び卒業研究の授業科目については、これらの学修の成果を評価して単位を授与することが適切と認められる場合には、これらに必要な学修等を考慮して、その単位数を別に定めることができる。

（授業の方法）

第11条の２　授業は、講義、演習、実験、実習若しくは実技のいずれかにより又はこれらの併用により行うものとする。

２　前項の授業は、文部科学大臣が別に定めるところにより、多様なメディアを高度に利用して、当該授業を行う教室等以外の場所で履修させることができる。

３　第１項の授業は、外国において履修させることができる。前項の規定により、多様なメディアを高度に利用して、当該授業を行う教室等以外の場所で履修させる場合についても、同様とする。

（授業期間）

第12条　各授業科目の授業は、15週にわたる期間を単位として行うものとする。ただし、教育上必要があると認められる場合には、この期間より短い特定の期間において授業を行うことができる。

（他学部、他学科での履修）

第13条　学生は、他学部、他学科の授業科目を履修することができる。

２　他学部の授業科目を履修する場合は、所属学部長を経て当該学部長の許可を受けなければならない。

３　所属学部他学科の授業科目を履修する場合は、所属学部長の許可を受けなければならない。

４　前３項に定める他学部、他学科の履修方法等については、各学部の履修細則に定める。

（他の大学又は短期大学における授業科目の履修等）

第14条　本学が教育上有益と認めるときは、学生に他の大学又は短期大学の授業科目を履修させることができる。

２　前項の規定により履修した授業科目について修得した単位は、60単位を限度として本学における授業科目の履修により修得したものとみなすことがある。

３　前２項の実施に関して必要な事項については、別にこれを定める。

（外国の大学又は短期大学における授業科目の履修等）

第14条の２　前条第１項及び第２項の規定は、学生が外国の大学又は短期大学に留学する場合に準用する。

２　前項の実施に関して必要な事項については、別にこれを定める。

（大学以外の教育施設等における学修）

第14条の３　本学が教育上有益と認めるときは、学生が行う短期大学又は高等専門学校の専攻科における学修その他文部科学大臣が別に定める学修を本学における授業科目の履修とみなし、単位を与えることがある。

２　前項の規定により与える単位数は、60単位を限度とする。

３　前２項の実施に関して必要な事項については、別にこれを定める。

（入学前の既修得単位等の取扱）

第15条　本学が教育上有益と認めるときは、学生が本学に入学する前に大学又は短期大学において履修した授業科目について修得した単位（科目等履修生として修得した単位を含む。）を、本学に入学した後の本学における授業科目の履修により修得したものとみなすことがある。

２　本学が教育上有益と認めるときは、学生が本学に入学する前に行った前条第１項に規定する学修を、本学における授業科目の履修とみなし、単位を与えることがある。

３　前２項により修得したものとみなし、又は与える単位数は、編入学、学士入学の場合を除き、本学において修得した単位以外のものについては、60単位を限度とする。

４　前３項の実施に関して必要な事項については、これを別に定める。

（他の大学等において修得した単位の認定限度）

第15条の２　前４条の規定により、本学において修得したものとみなし、又は与える単位数は、すべてを合わせて、60単位を限度とする。

（教職課程）

第16条　教育職員の免許状の授与を受けようとする者は、所定の授業科目を修得しなければならない。

２　本学において取得できる教育職員免許状の種類及び教科は、次のとおりである。

学部	学科	免許状の種類及び教科
商学部	商学科	高等学校教諭一種免許状　商業
	経営学科	高等学校教諭一種免許状　商業

経済科学部	現代経済学科	中学校教諭一種免許状　社会 高等学校教諭一種免許状　公民
	経済情報学科	高等学校教諭一種免許状　商業 高等学校教諭一種免許状　情報
人文学部	社会学科	中学校教諭一種免許状　社会 高等学校教諭一種免許状　地理歴史 高等学校教諭一種免許状　公民
	教育学科	幼稚園教諭一種免許状 小学校教諭一種免許状 中学校教諭一種免許状　社会 高等学校教諭一種免許状　地理歴史 特別支援学校教諭一種免許状 （知的障害者に関する教育の領域） （肢体不自由者に関する教育の領域） （病弱者に関する教育の領域）
	英語英文学科	中学校教諭一種免許状　英語 高等学校教諭一種免許状　英語
法学部	法律学科	中学校教諭一種免許状　社会 高等学校教諭一種免許状　地理歴史 高等学校教諭一種免許状　公民
人間環境学部	人間環境学科	中学校教諭一種免許状　社会 高等学校教諭一種免許状　公民
健康科学部	健康栄養学科	栄養教諭一種免許状
国際コミュニティ学部	国際政治学科	中学校教諭一種免許状　社会 高等学校教諭一種免許状　公民
	地域行政学科	中学校教諭一種免許状　社会 高等学校教諭一種免許状　公民

３　前各項に関する履修方法については、別にこれを定める。

（資格課程）

第16条の２　保育士となる資格を得ようとする者は、人文学部教育学科に入学し、所定の授業科目を修得しなければならない。

２　認定心理士となる資格を得ようとする者は、健康科学部心理学科に入学し、所定の授

業科目を修得しなければならない。

3　栄養士、食品衛生管理者、食品衛生監視員となる資格及び管理栄養士国家試験受験資格を得ようとする者は、健康科学部健康栄養学科に入学し、所定の授業科目を修得しなければならない。

4　社会教育主事となる資格を得ようとする者は、人文学部社会学科、同教育学科又は国際コミュニティ学部地域行政学科に入学し、所定の授業科目を修得しなければならない。

5　社会調査士となる資格を得ようとする者は、人文学部社会学科に入学し、所定の授業科目を修得しなければならない。

6　前各項に関する履修方法については、別にこれを定める。

7　保育士資格取得のための課程の定員については、別表３のとおり定める。

第４章　試験、学修評価、卒業認定及び学位

（試験）

第17条　各授業科目に対する単位修得の認定は、原則として試験によるものとし、試験は学年あるいは学期の終りにおいて、それぞれ履修科目について行う。ただし、第11条第２項に定める授業科目については、別に定める適切な方法により学修の成果を評価して単位を与えることができる。

2　前項に関する細則は、別にこれを定める。

（学修評価）

第18条　学修の評価は、AA、A、B、C、Dの５段階をもって行い、Dを不合格とする。

2　前項に定める評価は、次の各号の基準により行う。

(1)　AAは、90点以上100点までとする。

(2)　Aは、80点以上89点までとする。

(3)　Bは、70点以上79点までとする。

(4)　Cは、60点以上69点までとする。

(5)　Dは、59点以下とする。

（卒業認定）

第19条　本学に４年以上在学し、所定の単位を修得した者には卒業を認める。

2　本学に３年以上在学した者が、卒業に必要な所定の単位を優秀な成績で修得したと認める場合には、前項にかかわらず、その卒業を認めることができる。

3　前２項に規定する所定の単位のうち、第11条の２第２項の授業の方法により修得することができる単位数は60単位を超えないものとする。

4　第２項及び第３項に関する必要な事項については、別にこれを定める。

（学位の授与）

第20条　本学を卒業した者に対し、次のとおり学士の学位を授与する。

学部	学科	学位
商学部	商学科 経営学科	学士（商学） 学士（経営学）
経済科学部	現代経済学科 経済情報学科	学士（経済科学） 学士（経済科学）
人文学部	社会学科 教育学科 英語英文学科	学士（社会学） 学士（教育学） 学士（文学）
法学部	法律学科	学士（法学）
人間環境学部	人間環境学科	学士（人間環境学）
健康科学部	心理学科 健康栄養学科	学士（心理学） 学士（栄養学）
国際コミュニティ学部	国際政治学科 地域行政学科	学士（国際政治学） 学士（地域行政学）

２　学位の授与に関し必要な事項については、広島修道大学学位規程の定めるところによる。

第５章　入学、編入学、転部、転科、休学、留学、退学、転学、除籍及び再入学

（入学時期）

第21条　本学の入学時期は、学年の初めとする。

（入学資格）

第22条　第１学年に入学することのできる者は、次の各号の一に該当する者とする。

(1)　高等学校又は中等教育学校を卒業した者

(2)　通常の課程による12年の学校教育を修了した者又は通常の課程以外の課程により、これに相当する学校教育を修了した者

(3)　外国において学校教育における12年の課程を修了した者又はこれに準ずる者で文部科学大臣の指定したもの

(4)　文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を修了した者

(5)　専修学校の高等課程（修業年限が３年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。）で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者

(6)　文部科学大臣の指定した者

(7)　高等学校卒業程度認定試験規則による高等学校卒業程度認定試験に合格した者（旧規程による大学入学資格検定に合格した者を含む。）

(8)　本学において、個別の入学資格審査により、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で18歳に達したもの

（入学者の選考）

第23条　入学志願者は、所定の手続きにより願い出なければならない。

２　入学志願者に対しては、入学試験を行い、合格者を決定する。

３　入学試験に関する細則は、別にこれを定める。

（編入学）

第24条　編入学をすることができる者は、次の各号の一に該当する者でなければならない。

(1)　大学において２年以上在学し、62単位以上を修得した者

(2)　短期大学を卒業した者

(3)　高等専門学校を卒業した者

(4)　外国において学校教育14年の課程を修了した者

(5)　修業年限が２年以上で、課程の修了に必要な総授業時間数が1700時間以上の専修学校の専門課程を修了した者（ただし、学校教育法第90条第１項に規定する大学入学資格を有する者に限る。）

２　編入学志願者について入学試験を行う。

３　編入学試験に関する細則は、別にこれを定める。

（学士入学）

第25条　学士入学を志願する者がある場合は、入学試験を行い、第３学年に学士入学を許可することがある。

２　学士入学をすることのできる者は、学士の学位を有する者でなければならない。

３　学士入学試験に関する細則は、別にこれを定める。

（入学の手続及び許可）

第26条　合格者は、所定の期日までに入学の手続をしなければならない。

２　学長は、前項の入学手続を経た者に対し、入学を許可する。

３　入学手続きに関する細則は、別にこれを定める。

（転部）

第27条　学生が他学部への転部を志願するときは、所属学部長及び志願学部長を経て学長の許可を受けなければならない。

２　転部に関する細則は、別にこれを定める。

（転科）

第28条　学生が所属学部内において他の学科への転科を志願するときは、当該学部長の許可を受けなければならない。

２　転科に関する細則は、別にこれを定める。

（休学）

第29条　学生が疾病その他やむを得ない事由により３カ月以上就学することができないときは、学長に願い出て許可を得たうえ、休学することができる。

２　休学の期間は、通算して２年を超えることができない。休学の期間は、第４条及び第19条に規定する在学年数に算入しない。

３　休学期間中に休学の事由が消滅したときは、休学の解除を学長に願い出て許可を受けなければならない。

４　休学を許可された者は、休学期間満了とともに復学するものとする。

５　休学に関する細則は、別にこれを定める。

（留学）

第30条　外国の大学に留学しようとする者は、所属学部長を経て学長の許可を受けなければならない。

２　前項の許可を受けて留学した期間は、第４条に定める修業年限に算入することができる。

３　留学に関する細則は、別にこれを定める。

（退学及び転学）

第31条　疾病その他やむを得ない事由により、退学又は転学しようとする者は、学長に願い出て許可を受けなければならない。

２　退学及び転学に関する細則は、別にこれを定める。

（除籍）

第32条　学生が次の各号の一に該当するときは、除籍する。

(1)　第４条に規定する在学年数を超えた者

(2)　第29条第２項に規定する休学の期間を超えた者

(3)　所定の諸納付金の納付を怠り、その督促をうけてもなおこれを納付しない者

（再入学）

第33条　次に掲げる者で再入学を願い出る者があるときは、学長は当該学部教授会の議を経て再入学を許可することがある。

(1)　第31条第１項の規定によって本学を退学した者

(2)　前条第２号又は第３号の規定によって本学を除籍された者

２　再度の再入学は、これを許可しない。

３　再入学に関する細則は、別にこれを定める。

第６章　諸納付金

（諸納付金）

第34条　入学検定料、入学金、授業料及び施設設備資金は、次のとおりとする。

(1)　入学検定料

一般選抜　27,000円

共通テスト利用選抜　15,000円

一般・共通テスト併用選抜　10,000円

その他の入学試験　30,000円

ただし、同時出願等における入学検定料については別に定める。

(2)　入学金　220,000円

(3)　授業料

年780,000円とする。ただし、経済科学部経済情報学科及び人文学部教育学科は810,000円、健康科学部心理学科は820,000円、健康科学部健康栄養学科は900,000円とする。

(4)　施設設備資金　年220,000円

２　前項第３号及び第４号の規定にかかわらず、長期履修学生については、授業料及び施設設備資金を履修単位に応じて定める単位制授業料とし、履修登録１単位につき25,000円とする。

第35条　資格課程実習等に関する費用は、別にこれを徴収することがある。

第36条　諸納付金に関する規程は、別にこれを定める。

（授業料等の減免）

第37条　休学期間中の授業料その他諸納付金の納入は、本人の願い出により、これを減免することがある。

２　前項に規定するもののほか、本学において教育上特別に考慮すべき事情があると認められる者については、本人の願い出により、授業料その他諸納付金の納入を減免することができる。

３　前２項の実施に関して必要な事項については、別にこれを定める。

第７章　賞罰

（賞罰）

第38条　他の模範となる学生は、これを表彰する。

第39条　学生が本学の規則に違反し、又はその本分に反する行為のあったときは、学長は、教授会又は大学評議会の議を経てこれを懲戒する。

２　懲戒は、訓告、停学及び退学とする。

３　前項の退学は、次の各号の一に該当する者に対して行う。

(1)　性行不良で改善の見込みがないと認められる者

(2)　学力極めて劣等で成業の見込みがないと認められる者

(3)　正当の理由なくして出席常でない者

(4)　大学の秩序を乱し、その他学生としての本分に著しく反した者

第８章　職員組織

（学長及び教職員組織）

第40条　本学に学長及び次の教職員を置く。

(1)　教授

(2)　准教授

(3)　講師

(4)　助教

(5)　助手

(6)　事務職員

(7)　その他の職員

２　学長は、校務をつかさどり、教職員を統督する。

３　事務組織及び役職設置に関する規程は、別にこれを定める。

（学部教授会）

第41条　本学に学部教授会を置く。

２　学部教授会に関する規程は、別にこれを定める。

（大学評議会）

第42条　本学に大学評議会を置く。

２　大学評議会に関する規程は、別にこれを定める。

第43条　削除

（委員会）

第44条　本学に各種の委員会を置く。

２　各種の委員会に関する規程は、別にこれを定める。

第９章　附属施設

（附属施設）

第45条　本学に図書館その他の附属施設を置く。

２　前項の各施設に関する規程は、別にこれを定める。

第10章　厚生及び保健

（厚生・保健施設）

第46条　本学に厚生・保健のための施設を設ける。

２　前項の各施設に関する規程は、別にこれを定める。

第46条の２　前条に設ける施設とは別に、本学に寄宿舎を設けることができる。

２　前項の寄宿舎に関する規程は、別にこれを定める。

（健康診断・医療費等の給付）

第47条　学生の健康維持のため毎年１回健康診断を行う。

２　大学教育の円滑な実施に資するために、学生の災害（傷害、疾病又は死亡をいう。）に対して医療費等の給付を行う。

３　医療費等の給付に関する規程は、別にこれを定める。

第11章　科目等履修生、特別聴講学生、委託学生、研究生及び外国人留学生

（科目等履修生）

第48条　本学の学生以外の者で授業科目中１科目又は複数科目について履修を願い出る者があるときは、科目等履修生としてこれを許可することがある。

２　科目等履修料は履修登録１単位について17,000円とする。ただし、高等学校、特別支援学校高等部、中等教育学校後期課程、高等専門学校、専修学校高等課程の生徒が履修する場合の科目等履修料は、履修登録１単位について1,000円とする。なお、教育実習等にかかる資格課程実習料が必要なときは、別途徴収する。

３　科目等履修生については、第４条、第９条、第13条から第16条まで、第19条から第34条まで、第37条から第39条まで及び第53条を除き、本学則の規定を準用する。

４　科目等履修生に関する規程は、別にこれを定める。

（特別聴講学生）

第49条　他の大学又は短期大学の学生で本学において授業科目を履修することを志願する者があるときは、当該大学又は短期大学と協議のうえ、特別聴講学生としてこれを許可することがある。

２　特別聴講学生の授業料等は、大学間協議によってこれを定める。

３　特別聴講学生については、第４条、第９条、第13条から第16条まで、第19条から第34条まで、第37条から第39条まで及び第53条を除き、本学則の規定を準用する。

４　特別聴講学生に関する細則は、別にこれを定める。

（委託学生）

第50条　他の機関より本学の授業科目について修学を委託されたときは、委託学生としてこれを許可することがある。

２　委託学生の入学金及び授業料は、次のとおりとする。

(1)　入学金　65,000円

(2)　授業料

年390,000円とする。ただし、経済科学部経済情報学科及び人文学部教育学科は405,000円、健康科学部心理学科は410,000円、健康科学部健康栄養学科は450,000円とする。

３　委託学生については、第４条、第９条、第13条から第16条まで、第19条から第34条まで、第37条から第39条まで及び第53条を除き、本学則の規定を準用する。

４　委託学生に関する細則は、別にこれを定める。

（研究生）

第51条　本学学生以外の者で特定の研究を希望する者があるときは、研究生としてこれを許可することがある。

２　研究生の入学検定料、入学金及び研究料は、次のとおりとする。

(1)　入学検定料　15,000円

(2)　入学金　65,000円

(3)　研究料

年390,000円とする。ただし、経済科学部経済情報学科及び人文学部教育学科は405,000円、健康科学部心理学科は410,000円、健康科学部健康栄養学科は450,000円とする。

３　研究生については、第４条、第９条、第13条から第16条まで、第19条から第34条まで、第37条から第39条まで及び第53条を除き、本学則の規定を準用する。

４　研究生に関する細則は、別にこれを定める。

（外国人留学生）

第52条　外国人で入学を志願する者を外国人留学生としてこれを許可することがある。

２　外国人留学生については、本学則の規定を準用する。

３　外国人留学生に関する細則は、別にこれを定める。

第12章　奨学金制度

（奨学金制度）

第53条　本学に奨学金制度を設ける。

２　広島修道大学奨学金制度に関する規程は、別にこれを定める。

第54条　奨学のため資金を寄付しようとする者があるときはこれを受諾する。

２　寄付者は、奨学資金に記念すべき名称を付することができる。

第13章　特別の課程

第55条　本学は、本学の学生以外の者を対象とした特別の課程を編成することができる。

２　特別の課程の編成に関する必要な事項は別に定める。

附　則

1　この学則に必要な細則は、別に定める。

2　この学則は、1960（昭和35）年４月１日から施行する。

3　この学則は、第12条、第15条、第17条、第22条、第29条及び第37条の一部を改正して、1961（昭和36）年４月１日から施行する。

4　この学則は、第８条、第12条の一部を改正して、1962（昭和37）年４月１日から施行する。

5　この学則は、第２条、第８条、第10条から第12条まで、第14条、第15条、第18条、第22条、第23条、第36条、第44条から第47条まで及び第55条の一部を改正して、1963（昭和38）年４月１日から施行する。

6　この学則は、第37条の一部を改正して1964（昭和39）年４月１日から施行する。

7　この学則は、第11条、第12条、第14条、第15条及び第44条の一部を改正して、1965（昭和40）年４月１日から施行する。

8　この学則は、第11条から第15条まで、第18条、第23条及び第37条の一部を改正し、第13条の２、第15条の２を追加して、1966（昭和41）年４月１日から施行する。

9　この学則は、第２条の２を追加して、1967（昭和42）年４月１日から施行する。

10　この学則は、第37条の一部を改正して、1967（昭和42）年４月１日から施行する。

11　この学則は、第２条、第８条、第11条、第13条から第14条まで、第18条の一部を改正し、第13条の３を追加して、1969（昭和44）年４月１日から施行する。

12　この学則は、第37条の一部を改正して、1969（昭和44）年４月１日から施行する。

13　この学則は、第２条の２の一部を改正して、1971（昭和46）年４月１日から施行する。

14　この学則は、1971（昭和46）年度生から施行する。ただし、1970（昭和45）年度以前に入学した者は、旧学則による。

15　この学則は、全面的に改正して、1973（昭和48）年４月１日から施行する。ただし、第34条第１項第１号の規定は1973（昭和48）年度入学志願者から、第２号、第３号の規定は1973（昭和48）年度生から適用する。

16　この学則は、第８条第１項第２号、第10条、第17条、第18条第２項、第24条、第38条第２項及び第47条を改正して、1974（昭和49）年４月１日から施行する。

17　この学則は、第34条第１項第１号を改正して、1975（昭和50）年４月１日から施行する。ただし、第34条第１項第１号の規定は、1975（昭和50）年度入学志願者から適用する。

18　この学則は、第２条、第３条、第10条、第11条、第15条、第22条、第26条、第34条、第40条及び第41条を改正して、1976（昭和51）年４月１日から施行する。ただし、第34条第１項第１号の規定は1976（昭和51）年度入学志願者から、第２号、第３号の規定は

1976（昭和51）年度生から適用する。1975（昭和50）年度以前に入学した者については、改正後の第12条及び第15条の規定にかかわらず、なお、従前の例による。

19　この学則は、第７条、第11条、第18条、第24条から第26条まで、第34条を改正し、第50条を新たに付け加え、以下条数を繰り下げて、1977（昭和52）年４月１日から施行する。ただし、第34条第１項第３号の規定は、1977（昭和52）年度生から適用する。

20　この学則は、第２条、第３条、第11条、第12条、第15条、第18条、第22条及び第34条を改正し、1978（昭和53）年４月１日から施行し、第11条の別表その２・その４については、1977（昭和52）年度生から適用する。ただし、第34条第１項第１号の規定は1978（昭和53）年度入学志願者から、第３号の規定は1978（昭和53）年度生から適用する。

21　この学則は、第12条（別表その５）、第35条第２項、第42条、第43条、第44条、第49条、第50条から第53条までを改正し、第10条及び第38条を新たに付け加え、以下条数を繰り下げて、1979（昭和54）年４月１日から施行する。

22　この学則は、第35条第１項第１号を改正して、1979（昭和54）年７月15日から施行する。

23　この学則は、第12条（別表その１）、第25条、第27条及び第49条を改正して、1980（昭和55）年４月１日から施行する。

24　この学則は、第12条（別表その１）、第35条第１項第１号及び同条第２項を改正して、1981（昭和56）年４月１日から施行する。

25　この学則は、第12条（別表その１、その３、その４）、第16条、第25条第３号及び第31条第２項を改正し、第18条の２を新たに付け加え、1982（昭和57）年４月１日から施行する。

26　この学則は、第12条（別表その１、その２、その３、その４）、第16条、第27条第２項及び第35条第１項第１号を改正し、第27条の２を新たに付け加え、1983（昭和58）年４月１日から施行する。

27　この学則は、第12条（別表その３）、第35条第１項第２号・第３号、同条第２項、第49条第２項、第51条第２項及び第52条第２項第２号・第３号を改正して、1984（昭和59）年４月１日から施行する。ただし、1983（昭和58）年度以前に入学した者については、改正後の第35条第１項第２号・第３号、同条第２項、第49条第２項、第51条第２項及び第52条第２項第２号・第３号の規定にかかわらず、なお従前の例による。

28　この学則は、第12条（別表その３の２、その５）、第35条第１項第１号・第３号、第49条第２項、第51条第２項第２号及び第52条第２項第３号を改正し、第53条に第２項・第３項及び第４項をあらたに付け加え、1985（昭和60）年４月１日から施行する。ただし、1984（昭和59）年度以前に入学した者については、改正後の第12条（別表その３の

２、その５）、第35条第１項第３号、第51条第２項第２号、第52条第２項第３号及び第53条第２項第２号・第３号の規定にかかわらず、なお従前の例によるものとし、又、第35条第１項第１号及び第53条第２項第１号の規定は、1986（昭和61）年度の入学志願者から適用する。

29　この学則は、第12条（別表その１、その２の１、その２の２、その３の１）、第18条の２第１項、第35条第１項第３号・第２項、第49条第２項、第51条第２項第２号、第52条第２項第３号及び第53条第２項第３号・第３項を改正し、新たに第９条に第２項を、第15条の次に第15条の２を、第31条の次に第31条の２を付け加え、1986（昭和61）年４月１日から施行する。ただし、1985（昭和60）年度以前に入学した者については、第12条（別表その１、その２の１、その２の２、その３の１）、第35条第１項第３号・第２項、第51条第２項第２号、第52条第２項第３号及び第53条第２項第３号・第３項の規定にかかわらず、なお従前の例による。

30　この学則は、第12条（別表その１、その２の１、その２の２、その２の３）及び第13条を改正し、1987（昭和62）年４月１日から施行する。ただし、1986（昭和61）年度以前に入学した者については、なお従前の例による。

31　この学則は、第３条、第12条、第35条第１項第１号及び第53条第２項第１号を改正し、1988（昭和63）年４月１日から施行する。ただし、1987（昭和62）年度以前に入学した者については、なお従前の例による。また、1988（昭和63）年度から1990（昭和65）年度において管理科学科、人間関係学科（心理学専攻、社会学専攻、教育学専攻）、英語英文学科及び法律学科の収容定員は、第３条の規定にかかわらず、次のとおりとする。

学科	専攻	収容定員		
		1988（昭和63）年度	1989（昭和64）年度	1990（昭和65）年度
管理科学科		550名	580名	610名
人間関係学科	心理学専攻	205名	210名	215名
	社会学専攻	205名	210名	215名
	教育学専攻	205名	210名	215名
英語英文学科		420名	440名	460名
法律学科		850名	900名	950名

32　この学則は、第31条第４項を第５項とし、同条第３項の次に第４項を新たに付け加え、第18条及び第50条第１項を改正して、1988（昭和63）年10月１日から施行する。

33　この学則は、第12条（別表その３の３）、第35条第１項、第52条第２項及び第53条第２項を改正し、1989（平成元）年４月１日より施行する。ただし、1988（昭和63）年度

以前に入学した者については、改正後の規定にかかわらず、なお従前の例による。

34　この学則は、第２条、第３条、第12条（別表その３の１、その４の１、その５）、第16条第１項、第19条第２項、第35条第１項第２号・第３号・第２項、第49条第２項、第51条第２項第１号・第２号、第52条第２項第２号・第３号及び第53条第２項第２号・第３号・第３項を改正し、第12条別表に（その４の２）を新たに付け加え、1990（平成２）年４月１日から施行する。ただし、1989（平成元）年度以前に入学した者については、改正後の第12条（別表その３の１、その４の１、その５）、第19条第２項、第35条第１項第２号・第３号・第２項、第49条第２項、第51条第２項第１号・第２号、第52条第２項第２号・第３号及び第53条第２項第２号・第３号・第３項の規定にかかわらず、なお従前の例による。また、1990（平成２）年度から1992（平成４）年度において法学部の収容定員は、第３条の規定にかかわらず、次のとおりとする。

学科	収容定員		
	1990（平成2）年度	1991（平成3）年度	1992（平成4）年度
法律学科	920名	940名	910名
国際政治学科	80名	160名	240名

35　この学則は、第12条（別表その１、その３の１、その４の１、その４の２、その５）、第19条第２項、第35条第１項第１号、第２項及び第53条第２項第１号、第３項を改正し、1991（平成３）年４月１日から施行する。ただし、1989（平成元）年度以前に入学した者については、改正後の第12条（別表その１、その３の１、その４の１、その４の２、その５）、第19条第２項、第35条第１項第１号、第２項及び第53条第２項第１号、第３項の規定にかかわらず、なお従前の例によるものとし、1990（平成２）年度に入学した者については、改正後の第12条（別表その１）、第35条第１項第１号、第２項及び第53条第２項第１号、第３項の規定にかかわらず、なお従前の例による。また、第35条第１項第１号及び第53条第２項第１号の規定は、1992（平成４）年度の入学志願者から適用する。

36　この学則は、第22条、第23条及び第27条の２第２項第１号を改正し、1991（平成３）年７月１日から施行する。

37　この学則は、第10条、第11条、第12条（別表）、第16条、第20条、第23条、第25条、第31条、第34条、第42条及び第43条第２項を改正し、第11条第２項、第23条第２項、第38条第２項及び第３項を新たに付け加え、第16条第２項の条文を削除し、1992（平成４）年４月１日から施行する。ただし、1991（平成３）年度以前に入学した者については、改正後の第12条（別表）の規定にかかわらず、なお従前の例による。

38　この学則は、第12条（別表その２）、第35条第１項第１号、第52条第２項第１号及び

第53条第２項第１号を改正し、第１条の２を新たに付け加え、1993（平成５）年４月１日から施行する。ただし、1992（平成４）年度以前に入学した者については、改正後の第12条（別表その２）の規定にかかわらず、なお従前の例による。また、第52条第２項第１号の規定は1993（平成５）年度後期入学志願者から、第35条第１項第１号及び第53条第２項第１号の規定は1994（平成６）年度入学志願者から適用する。

39　この学則は、第23条を改正し、1993（平成５）年12月１日から施行する。

40　この学則は、第12条別表（その５）、第43条及び第49条を改正し、1994（平成６）年４月１日から施行する。ただし、1993（平成５）年度以前に入学した者については、改正後の第12条別表の規定にかかわらず、なお従前の例による。又、改正後の第49条の規定は、1994（平成６）年度入学志願者から適用する。

41　この学則は、全面改正し、1995（平成７）年４月１日から施行する。ただし、1994（平成６）年度以前に入学した者については、改正後の第９条から第11条、第13条、第15条、第16条、第34条及び第50条から第52条までの規定にかかわらず、なお従前の例による。

42　この学則は、第34条第１項第３号、第２項、第50条第２項第２号、第51条第２項第３号及び第52条第２項第３号、第３項を改正し、1996（平成８）年４月１日から施行する。ただし、改正後の第34条第１項第３号、第２項、第50条第２項第２号、第51条第２項第３号及び第52条第２項第３号、第３項の規定については、1995（平成７）年度以降入学した者に適用する。

43　この学則は、第34条第１項第１号を改正し、1996（平成８）年７月１日から施行する。

44　この学則は、第２条、第３条、第９条第１項（別表１）、第10条第１項（別表２）、第16条第２項、第20条第１項、第34条第１項第２号・第３号、同条第２項、第50条第２項第１号・第２号、第51条第２項第２号・第３号、第52条第２項第２号・第３号及び同条第３項を改正し、1997（平成９）年４月１日から施行する。ただし、その適用に関して次の各号のとおり経過措置を定める。

(1)　第２条、第３条、第９条第１項（別表１）、第16条第２項及び第20条第１項の適用については、1996（平成８）年以前に入学した者については、改正後の規定にかかわらず、なお従前の例による。

(2)　改正後の第２条の規定にかかわらず、改正前の商学部管理科学科は、当該学科に在学する者が当該学科に在学しなくなるまでの間、存続するものとする。

(3)　改正後の第３条の規定にかかわらず、1997（平成９）年度から1999（平成11）年度までの商学部商業学科及び経営学科並びに経済科学部現代経済学科及び経済情報学科の収容定員は次のとおりとする。

学科	収容定員

	1997（平成9）年度	1998（平成10）年度	1999（平成11）年度
商業学科	780名	760名	740名
経営学科	780名	760名	740名
現代経済学科	120名	240名	360名
経済情報学科	120名	240名	360名

(4)　第10条第１項（別表２）の適用については、1994（平成６）年度以前に人文学部に入学した者並びに1996（平成８）年度以前に商学部及び法学部に入学した者については、改正後の規定にかかわらずなお従前の例による。また、1995（平成７）年度及び1996（平成８）年度に人文学部に入学した者については、改正前の学則第10条第１項（別表２）（その４）(3)人文学部人間関係学科資格課程関連授業科目を適用せず、次の附則別表を適用するものとし、そのほかの別表の適用については改正後の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附則別表

授業科目	単位数
図書館学	4
博物館概論	2
博物館学	4
視聴覚教育	2
経済地理学	4
地理学Ⅰ	4
地理学Ⅱ	2
地誌	4
社会教育演習	2
社会教育実習	2
社会教育課題研究	2
博物館実習	3

(5)　第34条第１項第３号、同条第２項、第50条第２項第２号、第51条第２項第３号、第52条第２項第３号及び同条第３項の適用については、1994（平成６）年度以前に入学した者には、これを適用せず、なお従前の例による。

45　この学則は、第34条第１項第３号、同条第２項、第50条第２項第２号、第51条第２項第３号及び第52条第２項第３号、同条第３項を改正し、1998（平成10）年４月１日から施行する。

ただし、改正後の第34条第１項第３号、同条第２項、第50条第２項第２号、第51条第

２項第３号及び第52条第２項第３号、同条第３項の規定については、1995（平成７）年度以降入学した者に適用する。

46　この学則は、第14条、第34条第１項第３号、同条第２項、第50条第２項第２号、第51条第２項第３号及び第52条第２項第３号、同条第３項を改正し、第14条の２及び第14条の３を新たに付け加え、第30条第３項を削除し、同第４項を第３項に繰り上げ、1999（平成11）年４月１日から施行する。

ただし、改正後の第34条第１項第３号、同条第２項、第50条第２項第２号、第51条第２項第３号及び第52条第２項第３号、同条第３項の規定については、1995（平成７）年度以降入学した者に適用する。

47　この学則は、第46条第１項及び第47条を改正するとともに第11条の２を新たに付け加え、1999（平成11）年４月１日から施行する。

48　この学則は、第22条第１号を改正し、1999（平成11）年11月10日から施行する。

49　この学則は、第１条の２、第９条第１項（別表１）及び第10条第１項（別表２）を改正し、第１条の３を新たに付け加え、2000（平成12）年４月１日から施行する。ただし、1999（平成11）年度以前に入学した者については、改正後の第９条第１項（別表１）及び第10条第１項（別表２）の規定にかかわらず、なお従前の例による。

50　この学則は、第24条の第２項第１号を改正し、2000（平成12）年５月25日から施行する。

51　この学則は、第２条、第３条、第９条第１項（別表１）、第10条第１項（別表２）、同条第２項、第14条第２項、第14条の２第１項、第14条の３、第15条、第18条、第20条第１項、第22条、第24条第１項、同条第２項及び第48条第２項を改正し、第15条の２、第18条第２項、第34条第３項及び同条第４項を新たに付け加え、また、第48条第３項を新たに付け加え、以下項数を繰り下げて、2002（平成14）年４月１日から施行する。ただし、2001（平成13）年度以前に入学した者については、改正後の規定にかかわらず、なお従前の例による。また、2002（平成14）年度から2004（平成16）年度において、商学部国際商学科、経営学科、経済科学部現代経済学科、経済情報学科、人文学部英語英文学科及び人間環境学部人間環境学科の収容定員は第３条の規定にかかわらず、次のとおりとする。

学科	収容定員		
	2002（平成14）年度	2003（平成15）年度	2004（平成16）年度
国際商学科	695名	670名	645名
経営学科	695名	670名	645名
現代経済学科	475名	470名	465名

経済情報学科	475名	470名	465名
英語英文学科	470名	460名	450名
人間環境学科 昼間主コース 夜間主コース	 119名 21名	 238名 42名	 364名 66名

52　この学則は、第10条第１項（別表２）、第16条第２項及び第42条第２項を改正し、第11条の２第２項、同条第３項、第19条第２項、同条第３項及び第24条第１項第５号を新たに付け加え、2003（平成15）年４月１日から施行する。ただし、2002（平成14）年度以前に入学した者については、改正後の規定にかかわらず、なお従前の例による。

53　この学則は、第７条、第８条第１項、第９条第１項（別表１）及び第10条第１項（別表２）を改正し、2004（平成16）年４月１日から施行する。ただし、2003（平成15）年度以前に入学した者については、改正後の第９条第１項（別表１）の規定にかかわらず、なお従前の例による。

54　この学則は、第22条を2004（平成16）年５月24日に改正し、同日施行する。

55　この学則は、第10条第１項（別表２）、第16条第２項、第19条第１項及び第42条第２項を改正し、2005（平成17）年４月１日から施行する。ただし、2004（平成16）年度以前に入学した者については、改正後の第10条第１項（別表２）、第16条第２項の規定にかかわらず、なお従前の例による。

56　この学則は、第19条及び第22条を改正し、2006（平成18）年４月１日から施行する。

57　この学則は、第９条第１項及び第10条を改正し、合わせて第９条第１項別表１及び第10条第１項別表２を全面改正し、2007（平成19）年４月１日から施行する。ただし、2006（平成18）年度以前に入学した者については、改正後の規定にかかわらず、なお従前の例によるものとし、溯及して適用する授業科目については各学部の履修細則で定める。

58　この学則は、第２条、第３条、第16条第２項及び第20条第１項を改正し、合わせて第９条第１項別表１及び第10条第１項別表２を改正し、2007（平成19）年４月１日から施行する。ただし、2006（平成18）年度以前に入学した者については、改正後の規定にかかわらず、なお従前の例によるものとし、遡及して適用する授業科目については各学部の履修細則で定める。

59　この学則は、第40条第１項、第41条第２項及び第43条第２項を改正し、2007（平成19）年４月１日から施行する。

60　この学則は、第10条第１項別表２及び第14条第１項を改正し、2007（平成19）年４月１日から施行する。

61　この学則は、第１条第１項、第11条第１項第２号、第42条第２項及び第45条第１項を

改正し、第１条第２項、第１条の４、第２条の２及び第11条第１項第３号を新たに付け加え、2008（平成20）年４月１日から施行する。

62　この学則は、第34条第１項第１号を改正し、第13章と第55条を追加し、2008（平成20）年10月６日から施行する。

63　この学則は、第24条第１項第５号を改正し、2009（平成21）年４月１日から施行する。

64　この学則は、第３条及び第10条第１項別表２を改正し、第34条第３項及び同条第４項を削り、2010年（平成22）４月１日から施行する。ただし、改正後の規定にかかわらず2009（平成21）年度以前に入学した者については、なお従前の例による。また、改正後の第３条の規定にかかわらず、2010（平成22）年度から2012（平成24）年度までの人間環境学部の収容定員は次のとおりとする。

学科	収容定員		
	2010（平成22）年度	2011（平成23）年度	2012（平成24）年度
人間環境学科	575名	570名	575名

65　この学則は、第10条第１項別表２及び第34条第１項第１号を改正し、第４条の２、第34条第３項及び同条第４項を新たに付け加え、2010（平成22）年４月１日から施行する。

66　この学則は、第２条の２第４項第１号の③、第３条、第９条第１項別表１、第10条第１項別表２、第16条第１項及び第２項を改正し、2011（平成23）年４月１日から施行する。ただし、2010（平成22）年度以前に入学した者については、改正後の規定にかかわらず、なお従前の例による。

67　この学則は、第10条第１項別表２及び第16条第２項を改正し、2011（平成23）年４月１日から施行する。ただし、2010（平成22）年度以前に入学した者については、改正後の規定にかかわらず、なお従前の例による。

68　この学則は、附則67にかかわらず、遡及して適用する授業科目については各学部の履修細則で定めたうえ、2012（平成24）年度から適用する。

69　この学則は、第１条の３、第10条第１項別表２、第16条第１項、第41条第２項及び第43条第２項を改正し、第１条の３に新たに第２項を付け加え、2012（平成24）年４月１日から施行する。ただし、2011（平成23）年度以前に入学した者については、改正後の第10条第１項別表２及び第16条第１項の規定にかかわらず、なお従前の例によるものとし、遡及して適用する授業科目については各学部の履修細則で定めたうえ、2012（平成24）年度から適用する。

70　この学則は、第10条第１項別表２及び第34条第１項第１号を改正し、2013（平成25）年４月１日から施行する。ただし、2012（平成24）年度以前に入学した者については、

改正後の規定にかかわらず、「国際機関インターンシップA」、「国際機関インターンシップB」及び「国際機関インターンシップC」を遡及適用するほかは、なお従前の例によるものとする。

71　この学則は、第10条第１項別表２、第42条第２項及び第45条第１項を改正し、2014（平成26）年４月１日から施行する。ただし、2013（平成25）年度以前に入学した者については、改正後の第10条第１項別表２の規定にかかわらず、なお従前の例による。

72　この学則は、第21条（見出しを含む。）、第23条、第26条（見出しを含む。）、第40条（見出しを含む。）、第41条及び第42条を改正し、新たに第22条見出し及び第23条見出しを追加し、第43条を削除し、2015（平成27）年４月１日から施行する。

73　この学則は、第６章の名称、第１条、第２条、第２条の２第４項、第３条、第９条第１項（別表１）、第10条第１項（別表２）、第16条第１項、同条第２項、第20条第１項、第34条（見出しを含む。）、第35条、第48条、第50条、第51条及び第52条を改正し、第16条に第４項（別表３）を追加して2016年（平成28年）４月１日から施行する。ただし、2015年度以前に入学した者については、イノベーション・プロジェクトⅠ及びイノベーション・プロジェクトⅡの履修を2014（平成26）年度以降に入学した者に認めるほかは、改正後の規定にかかわらず、なお従前の例による。また、人文学部人間関係学科教育学専攻は、教育学科設置に伴い、2016年度入学生からの学生募集を停止する。これにより、2016年度から2019年度において、人文学部人間関係学科教育学専攻の収容定員は、次のとおりとする。

学部	学科	専攻	収容定員			
			2016（平成28）年度	2017（平成29）年度	2018（平成30）年度	2019（平成31）年度
人文学部	人間関係学科	教育学専攻	150名	100名	50名	0名

74　この学則は、第２条、第２条の２第４項、第３条、第９条第１項別表１、第10条第１項別表２、第11条第１項第２号、第16条、第20条第１項、第34条第１項、第50条第２項及び第51条第２項を改正し、第２条の２第７項及び第７条第２項を追加し、第10条第２項を削って以下項数を繰り上げ、第16条の２を追加し、2017（平成29）年４月１日から施行する。ただし、第７条第２項の学期の分け方及び第10条第１項別表２のうち一部の授業科目を遡及適用するほかは、2016（平成28）年度以前に入学した者については、改正後の規定にかかわらず、なお従前の例による。この場合において、2016（平成28）年度以前に入学した者について遡及する授業科目は、「長期インターンシップA」、「長期

インターンシップB」、「長期インターンシップ事前・事後指導」とし、2016（平成28）年度以前に人文学部人間関係学科社会学専攻に入学した者について遡及する授業科目は、別表２（その４）(1)のうち、「アニメ社会学」、「クールジャパン現象研究」、「感情社会学」、「感情労働論」、「社会学特殊講義A」、「社会学特殊講義B」、「社会学特殊研究A」、「社会学特殊研究B」、「アニメ社会学演習」、「クールジャパン現象研究演習」、「感情社会学演習」、「感情労働論演習」、「異文化リサーチ特殊演習A」、「異文化リサーチ特殊演習B」、「社会学特殊演習Ⅰ」、「社会学特殊演習Ⅱ」、「社会学情報処理特殊演習Ⅰ」、「社会学情報処理特殊演習Ⅱ」とし、2016（平成28）年度に人文学部教育学科に入学した者について遡及する授業科目は、別表２（その４）(2)のうち、「教育原理」、「教育制度論」、「教育方法論」、「教職入門」、「教育心理学」、「中等社会科教育法B」、「社会科・地理歴史科教育法B」、「社会科・公民科教育法B」、「中等社会科教育法演習B」、「道徳教育論」、「特別活動論」、「生徒・進路指導論」、「教育相談」、「教職実践演習（幼・小・中・高）」とする。また、人文学部人間関係学科心理学専攻は、健康科学部心理学科設置に伴い、2017年度入学生からの学生募集を停止する。ただし、2017年度から2020年度において、人文学部人間関係学科心理学専攻の収容定員は第３条の規定にかかわらず、次のとおりとする。

学部	学科	専攻	収容定員			
			2017（平成29）年度	2018（平成30）年度	2019（平成31）年度	2020（平成32）年度
人文学部	人間関係学科	心理学専攻	165名	110名	55名	0名

75　この学則は、第２条、第２条の２第５項、第３条、第９条第１項別表１、第10条第１項別表２、第16条第２項、第20条第１項を改正し、第２条の２に第８項を追加し、2018（平成30）年４月１日から施行する。ただし、その適用に関して次の各号のとおりに定める。

(1)　第２条、第２条の２第５項、第３条、第９条第１項別表１、第10条第１項別表２、第16条第２項、第20条第１項の適用については、2017（平成29）年度以前に入学した者については、改正後の規定にかかわらず、「観光ビジネス」、「人格心理学」、「心理療法論」、「親密性の社会学」、「表象文化論」、「やさしい通訳訓練」、「刑事訴訟法Ⅰ」及び「刑事訴訟法Ⅱ」を遡及適用するほかは、なお従前の例による。

(2)　法学部国際政治学科は、国際コミュニティ学部国際政治学科設置に伴い、2018年度入学生からの学生募集を停止する。これにより、2018年度から2020年度において、法学部国際政治学科の収容定員は、次のとおりとする。また、改正後の第２条の規定に

かかわらず、改正前の法学部国際政治学科は、当該学科に在籍する者が存在しなくなるまでの間、存続するものとする。

学部	収容定員			
	2018 （平成30）年度	2019 （平成31）年度	2020 （平成32）年度	2021 （平成33）年度
国際政治学科	240名	160名	80名	0名

(3)　改正後の第３条の規定にかかわらず、2018（平成30）年度から2020（平成32）年度までの商学部経営学科、法学部法律学科及び人間環境学部人間環境学科の収容定員は次のとおりとする。

学科	収容定員		
	2018 （平成30）年度	2019 （平成31）年度	2020 （平成32）年度
経営学科	605名	590名	575名
法律学科	855名	830名	805名
人間環境学科	550名	520名	490名

76　この学則は、第10条第１項別表２を改正し、2019（平成31）年４月１日から施行する。ただし、2018（平成30）年度以前に入学した者については、改正後の規定にかかわらず、なお従前の例による。

77　この学則は、第10条第１項別表２、第16条の２第４項、第34条第１項第１号及び第36条を改正し、2020（令和２）年４月１日から施行する。ただし、2019（令和元）年度以前に入学した者については、第10条第１項別表２（その１）全学部共通「広島の事業承継を学ぶ」、（その９）教職・資格課程関連科目　(4)人文学部人間関係学科社会学専攻、(5)人文学部教育学科及び(7)健康科学部心理学科に定める授業科目のうち、「生涯学習支援論Ⅰ」、「生涯学習支援論Ⅱ」、「社会教育経営論Ⅰ」及び「社会教育経営論Ⅱ」を遡及適用し、また、第10条第１項別表２（その４）人文学部(2)教育学科に定める授業科目のうち、「西洋文化史」を2019（令和元）年度に人文学部教育学科に入学した者に、（その９）教職・資格課程関連科目　(9)国際コミュニティ学部地域行政学科に定める授業科目及び第16条の２第４項を2019（令和元）年度以前に国際コミュニティ学部地域行政学科に入学した者に遡及適用するほかは、改正後の規定にかかわらず、なお従前の例による。

78　この学則は、第10条第１項別表２及び第16条の２第４項を改正し、2021（令和３）年４月１日から施行する。ただし、2020（令和２）年度以前に入学した者については、改正後の規定にかかわらず、なお従前の例による。

79　この学則は、第10条第１項別表２及び第40条を改正し、2022（令和４）年４月１日から施行する。ただし、2021（令和３）年度以前に入学した者については、改正後の第10条第１項別表２の規定にかかわらず、なお従前の例による。

80　この学則は、第10条第１項別表２、第16条第２項、第48条第２項及び第５項を改正し、第46条の2を追加し、第48条第３項を削り、以下項数を繰り上げて、2023（令和５）年４月１日から施行する。ただし、2022（令和４）年度以前に入学した者については、第46条の2を除き、改正後の規定にかかわらず、なお従前の例による。

81　この学則は、第２条、第２条の２第４項第１号、第３条、第９条第１項別表１、第10条第１項別表２、第16条第２項、第16条の２第４項、第20条第１項を改正し、第16条の２に第５項を追加し以下項数を繰り下げ、2024（令和６）年４月１日から施行する。ただし、2023（令和５）年度以前に入学した者については、改正後の規定にかかわらず、なお従前の例による。また、人文学部人間関係学科社会学専攻は、人文学部社会学科設置に伴い、2024年度入学生からの学生募集を停止する。これにより、人文学部人間関係学科社会学専攻及び人文学部英語英文学科の収容定員は、次のとおりとする。

（人文学部人間関係学科社会学専攻）

学部	学科	専攻	収容定員			
			2024（令和6）年度	2025（令和7）年度	2026（令和8）年度	2027（令和9）年度
人文学部	人間関係学科	社会学専攻	180名	120名	60名	0名

（人文学部英語英文学科）

学部	学科	収容定員		
		2024（令和6）年度	2025（令和7）年度	2026（令和8）年度
人文学部	英語英文学科	430名	420名	410名

別表１（第９条第１項関係）

(1)　商学部商学科

科目区分	修得単位数	卒業所要単位数
全学共通科目	20単位以上	124単位以上
主専攻科目	78単位以上	
自由選択科目		

(2)　商学部経営学科

科目区分	修得単位数	卒業所要単位数
全学共通科目	20単位以上	124単位以上
主専攻科目	78単位以上	
自由選択科目		

(3)　経済科学部現代経済学科

科目区分	修得単位数	卒業所要単位数
全学共通科目	24単位以上	124単位以上
主専攻科目	78単位以上	
自由選択科目		

(4)　経済科学部経済情報学科

科目区分	修得単位数	卒業所要単位数
全学共通科目	24単位以上	124単位以上
主専攻科目	78単位以上	
自由選択科目		

(5)　人文学部社会学科

科目区分	修得単位数	卒業所要単位数
全学共通科目	20単位以上	124単位以上
主専攻科目	84単位以上	
自由選択科目		

(6)　人文学部教育学科

科目区分	修得単位数	卒業所要単位数
全学共通科目	20単位以上	124単位以上
主専攻科目	84単位以上	
自由選択科目		

(7)　人文学部英語英文学科

科目区分	修得単位数	卒業所要単位数
全学共通科目	20単位以上	124単位以上
主専攻科目	84単位以上	
自由選択科目		

(8)　法学部法律学科

科目区分	修得単位数	卒業所要単位数
全学共通科目	24単位以上	124単位以上

主専攻科目	64単位以上	
自由選択科目		

(9)　人間環境学部人間環境学科

科目区分	修得単位数	卒業所要単位数
全学共通科目	20単位以上	124単位以上
主専攻科目	66単位以上	
自由選択科目		

(10)　健康科学部心理学科

科目区分	修得単位数	卒業所要単位数
全学共通科目	24単位以上	124単位以上
主専攻科目	78単位以上	
自由選択科目		

(11)　健康科学部健康栄養学科

科目区分	修得単位数	卒業所要単位数
全学共通科目	20単位以上	124単位以上
主専攻科目	93単位以上	
自由選択科目		

(12)　国際コミュニティ学部国際政治学科

科目区分	修得単位数	卒業所要単位数
全学共通科目	20単位以上	124単位以上
主専攻科目	70単位以上	
自由選択科目		

(13)　国際コミュニティ学部地域行政学科

科目区分	修得単位数	卒業所要単位数
全学共通科目	20単位以上	124単位以上
主専攻科目	70単位以上	
自由選択科目		

別表２（第10条第１項関係）

（その１）全学部共通

科目区分	授業科目の名称	単位数
全学共通科目	広島修道大学と広島	1
	広島と平和	1

	広島の防災と法務	2
	日本語Ⅰ	1
	日本語Ⅱ	1
	日本語Ⅲ	1
	日本語Ⅳ	1
	日本語Ⅴ	1
	日本語Ⅵ	1
	日本語Ⅶ	1
	日本語Ⅷ	1
	アカデミック日本語	2
	ビジネス日本語	2
	漢字入門Ⅰ	1
	漢字入門Ⅱ	1
	留学生アカデミックスキル	2
	留学生キャリア形成	2
	留学スタートアップ	1
	留学フォローアップ	1
	中長期スタディ・アブロード（入門）	2
	中長期スタディ・アブロード（事前）	2
	中長期スタディ・アブロード（事後）	1
	外国語としての日本語	2
	Multicultural Project	2
	多文化交流プロジェクト	2
	言語文化特殊講義Ⅰ	2
	言語文化特殊講義Ⅱ	2
	ことばと社会	2
	英語Ⅰ（リーディング・ライティング）	1
	英語Ⅱ（リーディング・ライティング）	1
	英語Ⅲ（リスニング・スピーキング）	1
	英語Ⅳ（リスニング・スピーキング）	1
	アクティブ・イングリッシュⅠ	1
	アクティブ・イングリッシュⅡ	1

	英語ライティングⅠ	2	
	英語ライティングⅡ	2	
	英語ライティングⅢ	2	
	英語ライティングⅣ	2	
	英語聴解Ⅰ	2	
	英語聴解Ⅱ	2	
	英語聴解Ⅲ	2	
	英語聴解Ⅳ	2	
	英語読解Ⅰ	2	
	英語読解Ⅱ	2	
	英語読解Ⅲ	2	
	英語読解Ⅳ	2	
	アカデミック・リーディングⅠ	2	
	アカデミック・リーディングⅡ	2	
	英語コミュニケーション入門Ⅰ	1	
	英語コミュニケーション入門Ⅱ	1	
	英語コミュニケーションⅠ	2	
	英語コミュニケーションⅡ	2	
	英語コミュニケーションⅢ	2	
	英語コミュニケーションⅣ	2	
	英語コミュニケーションⅤ	2	
	英語コミュニケーションⅥ	2	
	英語文法入門Ⅰ	1	
	英語文法入門Ⅱ	1	
	英語語法Ⅰ	2	
	英語語法Ⅱ	2	
	英語語法Ⅲ	2	
	英語語法Ⅳ	2	
	資格英語入門Ⅰ	1	
	資格英語入門Ⅱ	1	
	資格英語Ⅰ	2	
	資格英語Ⅱ	2	

	資格英語Ⅲ	2	
	資格英語Ⅳ	2	
	資格英語Ⅴ	2	
	資格英語Ⅵ	2	
	英語プレゼンテーションⅠ	2	
	英語プレゼンテーションⅡ	2	
	ドイツ語Ⅰ	1	
	ドイツ語Ⅱ	1	
	ドイツ語Ⅲ	1	
	ドイツ語Ⅳ	1	
	フランス語Ⅰ	1	
	フランス語Ⅱ	1	
	フランス語Ⅲ	1	
	フランス語Ⅳ	1	
	スペイン語Ⅰ	1	
	スペイン語Ⅱ	1	
	スペイン語Ⅲ	1	
	スペイン語Ⅳ	1	
	中国語Ⅰ	1	
	中国語Ⅱ	1	
	中国語Ⅲ	1	
	中国語Ⅳ	1	
	韓国・朝鮮語Ⅰ	1	
	韓国・朝鮮語Ⅱ	1	
	韓国・朝鮮語Ⅲ	1	
	韓国・朝鮮語Ⅳ	1	
	中級外国語Ⅰ	2	
	中級外国語Ⅱ	2	
	上級外国語Ⅰ	2	
	上級外国語Ⅱ	2	
	海外研修A	1	
	海外研修B	2	

	海外研修C	3
	海外研修D	4
	海外研修E	5
	哲学	2
	倫理学	2
	美学	2
	芸術学	2
	西洋文学	2
	日本語学	2
	心理学	2
	文化論	2
	文化人類学	2
	西洋の美術	2
	日本近世文学	2
	西洋文化論	2
	人間と生命の倫理学	2
	人生の探究としての倫理学	2
	愛の倫理学的考察	2
	現代日本語の特質	2
	ドイツ文学	2
	江戸時代の衣服	2
	日本語と英語	2
	科学史	2
	日本文学	2
	西洋の図像学	2
	キリスト教倫理	2
	芸術文化学	2
	江戸時代の服飾	2
	日本史	2
	西洋史	2
	地理学	2
	社会学	2

	法学	2	
	政治学	2	
	経済学	2	
	情報社会論	2	
	日本近代史	2	
	日本近現代史	2	
	西洋中近世史	2	
	生活の中の地理学	2	
	社会学のものの見方と考え方	2	
	現代経済学	2	
	情報環境論	2	
	政党と選挙の政治学	2	
	歴史と社会	2	
	歴史人類学	2	
	中国の歴史と社会	2	
	近代日本と戦争	2	
	資産運用の基礎	2	
	地方行政と法	2	
	事例で学ぶ民法	2	
	現代社会と企業法	2	
	国際社会と法	2	
	現代社会と刑事法	2	
	メディア論	2	
	社会保障論	2	
	地政学	2	
	化学	2	
	生物学	2	
	環境科学	2	
	数学	2	
	応用数学	2	
	遺伝学の基礎	2	
	公衆衛生学	2	

	宇宙と物質と生命の科学	2
	自然科学と技術入門	2
	動物の自然史と分類	2
	栄養と健康	2
	健康科学論	2
	運動科学論	2
	健康科学演習	2
	運動科学演習	2
	健康スポーツ実習	1
	運動スポーツ実習	1
	野外運動実習Ⅰ	1
	野外運動実習Ⅱ	1
	大学生活とキャリア	1
	インターンシップ入門	1
	キャリアビジョンとキャリア形成	2
	広島の事業承継を学ぶ	2
	データサイエンス概論	2
	情報処理入門	2
	統計学	2
	情報化社会と人間	2
	情報と知能	2

（その２）商学部

(1)　商学科授業科目

科目区分	授業科目の名称	単位数
主専攻科目	商学概論	2
	現代経済入門Ⅰ	2
	現代経済入門Ⅱ	2
	会計特別ゼミナールⅠ	2
	会計特別ゼミナールⅡ	2
	簿記基礎演習Ⅰ	2
	簿記基礎演習Ⅱ	2
	A1群特殊講義a	2

	A1群特殊講義b	1
	簿記原理Ⅰ	2
	簿記原理Ⅱ	2
	商業論	2
	マーケティング論	2
	マーケティング戦略論	2
	流通論	2
	流通政策論	2
	消費生活論	2
	商品政策論	2
	交通論	2
	地域産業論	2
	都市経済論	2
	観光学概論	2
	国際観光	2
	国際交通論	2
	金融システム論	2
	金融政策論	2
	外国為替論	2
	国際金融論	2
	日本経済史	2
	保険論	2
	保険各論	2
	日本金融史	2
	国際貿易論	2
	アジア経済論	2
	観光ビジネス	2
	B1群特殊講義a	2
	B1群特殊講義b	1
	マーケティング・マネジメントⅠ	2
	マーケティング・マネジメントⅡ	2
	貿易商務論	2

	B2群特殊講義a	2
	B2群特殊講義b	1
	経営学総論Ⅰ	2
	経営学総論Ⅱ	2
	経営財務論Ⅰ	2
	経営財務論Ⅱ	2
	中小企業論	2
	中小企業経営論	2
	ビジネスファイナンス	2
	キャリアデザイン論	2
	会計学原理Ⅰ	2
	会計学原理Ⅱ	2
	原価計算演習Ⅰ	2
	原価計算演習Ⅱ	2
	中級簿記演習Ⅰ	2
	中級簿記演習Ⅱ	2
	工業簿記Ⅰ	2
	工業簿記Ⅱ	2
	経営分析論Ⅰ	2
	経営分析論Ⅱ	2
	国際会計入門	2
	中級簿記Ⅰ	2
	中級簿記Ⅱ	2
	原価計算論Ⅰ	2
	原価計算論Ⅱ	2
	B3群特殊講義a	2
	B3群特殊講義b	1
	情報処理	2
	インターンシップ	2
	B4群特殊講義a	2
	B4群特殊講義b	1
	マーケティング・リサーチ	2

	消費市場調査論	2
	ブランド戦略	2
	サービス・ビジネス	2
	消費者政策論	2
	観光政策論	2
	観光地域論	2
	地理情報システム論Ⅰ	2
	地理情報システム論Ⅱ	2
	証券市場論Ⅰ	2
	証券市場論Ⅱ	2
	リスクマネジメント論	2
	C1群特殊講義a	2
	C1群特殊講義b	1
	企業診断	2
	広告論Ⅰ	2
	広告論Ⅱ	2
	地域経済論Ⅰ	2
	地域経済論Ⅱ	2
	財政学Ⅰ	2
	財政学Ⅱ	2
	国際経済学Ⅰ	2
	国際経済学Ⅱ	2
	C2群特殊講義a	2
	C2群特殊講義b	1
	上級簿記Ⅰ	2
	上級簿記Ⅱ	2
	原価管理論Ⅰ	2
	原価管理論Ⅱ	2
	国際経営論	2
	国際経営戦略論	2
	財務会計論Ⅰ	2
	財務会計論Ⅱ	2

	会計監査論Ⅰ	2
	会計監査論Ⅱ	2
	税務会計論Ⅰ	2
	税務会計論Ⅱ	2
	管理会計論Ⅰ	2
	管理会計論Ⅱ	2
	コンピュータ会計	2
	上級簿記演習Ⅰ	2
	上級簿記演習Ⅱ	2
	会計学演習Ⅰ	2
	会計学演習Ⅱ	2
	原価管理演習Ⅰ	2
	原価管理演習Ⅱ	2
	広島でのキャリアを学ぶ	2
	C3群特殊講義a	2
	C3群特殊講義b	1
	海外ビジネス研修	2
	C4群特殊講義a	2
	C4群特殊講義b	1
	経営管理論	2
	経営組織論	2
	企業論	2
	人材マネジメント論Ⅰ	2
	人材マネジメント論Ⅱ	2
	経営情報論Ⅰ	2
	経営情報論Ⅱ	2
	経営戦略論Ⅰ	2
	経営戦略論Ⅱ	2
	経営史	2
	職業指導	2
	長期インターンシップA	4
	長期インターンシップB	8

	長期インターンシップ事前・事後指導	1
	D1群特殊講義a	2
	D1群特殊講義b	1
	憲法Ⅰ	2
	憲法Ⅱ	2
	民法Ⅰ	2
	民法Ⅱ	2
	商法Ⅰ	2
	商法Ⅱ	2
	税法Ⅰ	2
	税法Ⅱ	2
	英語ディスカッションⅠ	2
	英語ディスカッションⅡ	2
	英語ディスカッションⅢ	2
	英語ディスカッションⅣ	2
	英語ディスカッションⅤ	2
	英語ディスカッションⅥ	2
	時事英語Ⅰ	2
	時事英語Ⅱ	2
	時事英語Ⅲ	2
	時事英語Ⅳ	2
	時事英語Ⅴ	2
	時事英語Ⅵ	2
	ビジネス英語Ⅰ	2
	ビジネス英語Ⅱ	2
	ビジネス英語Ⅲ	2
	ビジネス英語Ⅳ	2
	ビジネス英語Ⅴ	2
	ビジネス英語Ⅵ	2
	旅行英語Ⅰ	2
	旅行英語Ⅱ	2
	国際ビジネスコミュニケーションⅠ	2

	国際ビジネスコミュニケーションⅡ	2
	国際ビジネスコミュニケーションⅢ	2
	国際ビジネスコミュニケーションⅣ	2
	ビジネス韓国語Ⅰ	2
	ビジネス韓国語Ⅱ	2
	ビジネス中国語Ⅰ	2
	ビジネス中国語Ⅱ	2
	時事韓国・朝鮮語Ⅰ	2
	時事韓国・朝鮮語Ⅱ	2
	E群特殊講義a	2
	E群特殊講義b	1
	ゼミナールⅠ	2
	ゼミナールⅡ	2
	ゼミナールⅢ	2
	商学演習Ⅰ	2
	ゼミナールⅣ	2
	商学演習Ⅱ	2
	卒業研究	2
	卒業論文	2

(2)　経営学科授業科目

科目区分	授業科目の名称	単位数
主専攻科目	現代企業入門	2
	現代経済入門Ⅰ	2
	現代経済入門Ⅱ	2
	会計特別ゼミナールⅠ	2
	会計特別ゼミナールⅡ	2
	簿記基礎演習Ⅰ	2
	簿記基礎演習Ⅱ	2
	A1群特殊講義a	2
	A1群特殊講義b	1
	簿記原理Ⅰ	2
	簿記原理Ⅱ	2

	経営学総論Ⅰ	2
	経営学総論Ⅱ	2
	経営管理論	2
	経営組織論	2
	経営財務論Ⅰ	2
	経営財務論Ⅱ	2
	人材マネジメント論Ⅰ	2
	人材マネジメント論Ⅱ	2
	経営情報論Ⅰ	2
	経営情報論Ⅱ	2
	経営戦略論Ⅰ	2
	経営戦略論Ⅱ	2
	中小企業論	2
	中小企業経営論	2
	マーケティング・マネジメントⅠ	2
	マーケティング・マネジメントⅡ	2
	会計学原理Ⅰ	2
	会計学原理Ⅱ	2
	原価計算論Ⅰ	2
	原価計算論Ⅱ	2
	中級簿記Ⅰ	2
	中級簿記Ⅱ	2
	工業簿記Ⅰ	2
	工業簿記Ⅱ	2
	経営分析論Ⅰ	2
	経営分析論Ⅱ	2
	B1群特殊講義a	2
	B1群特殊講義b	1
	企業論	2
	経営史	2
	国際会計入門	2
	原価計算演習Ⅰ	2

	原価計算演習Ⅱ	2
	中級簿記演習Ⅰ	2
	中級簿記演習Ⅱ	2
	ビジネスファイナンス	2
	コーチング	2
	ビジネスプラン作成	2
	キャリアデザイン論	2
	B2群特殊講義a	2
	B2群特殊講義b	1
	マーケティング論	2
	マーケティング戦略論	2
	B3群特殊講義a	2
	B3群特殊講義b	1
	情報処理	2
	インターンシップ	2
	B4群特殊講義a	2
	B4群特殊講義b	1
	国際経営論	2
	国際経営戦略論	2
	財務会計論Ⅰ	2
	財務会計論Ⅱ	2
	管理会計論Ⅰ	2
	管理会計論Ⅱ	2
	上級簿記Ⅰ	2
	上級簿記Ⅱ	2
	原価管理論Ⅰ	2
	原価管理論Ⅱ	2
	会計監査論Ⅰ	2
	会計監査論Ⅱ	2
	税務会計論Ⅰ	2
	税務会計論Ⅱ	2
	コンピュータ会計	2

	C1群特殊講義a	2
	C1群特殊講義b	1
	会計学演習Ⅰ	2
	会計学演習Ⅱ	2
	上級簿記演習Ⅰ	2
	上級簿記演習Ⅱ	2
	原価管理演習Ⅰ	2
	原価管理演習Ⅱ	2
	広島でのキャリアを学ぶ	2
	経済統計学Ⅰ	2
	経済統計学Ⅱ	2
	C2群特殊講義a	2
	C2群特殊講義b	1
	マーケティング・リサーチ	2
	消費市場調査論	2
	ブランド戦略	2
	サービス・ビジネス	2
	企業診断	2
	証券市場論Ⅰ	2
	証券市場論Ⅱ	2
	C3群特殊講義a	2
	C3群特殊講義b	1
	海外ビジネス研修	2
	C4群特殊講義a	2
	C4群特殊講義b	1
	商業論	2
	流通論	2
	流通政策論	2
	消費生活論	2
	商品政策論	2
	消費者政策論	2
	広告論Ⅰ	2

	広告論Ⅱ	2	
	交通論	2	
	地域産業論	2	
	都市経済論	2	
	観光学概論	2	
	国際観光	2	
	国際交通論	2	
	観光政策論	2	
	観光地域論	2	
	地理情報システム論Ⅰ	2	
	地理情報システム論Ⅱ	2	
	金融システム論	2	
	金融政策論	2	
	外国為替論	2	
	国際金融論	2	
	日本経済史	2	
	保険論	2	
	保険各論	2	
	日本金融史	2	
	貿易商務論	2	
	国際貿易論	2	
	アジア経済論	2	
	リスクマネジメント論	2	
	職業指導	2	
	財政学Ⅰ	2	
	財政学Ⅱ	2	
	情報ネットワーク概論Ⅰ	2	
	情報ネットワーク概論Ⅱ	2	
	長期インターンシップA	4	
	長期インターンシップB	8	
	長期インターンシップ事前・事後指導	1	
	観光ビジネス	2	

	D1群特殊講義a	2
	D1群特殊講義b	1
	憲法Ⅰ	2
	憲法Ⅱ	2
	民法Ⅰ	2
	民法Ⅱ	2
	商法Ⅰ	2
	商法Ⅱ	2
	税法Ⅰ	2
	税法Ⅱ	2
	英語ディスカッションⅠ	2
	英語ディスカッションⅡ	2
	英語ディスカッションⅢ	2
	英語ディスカッションⅣ	2
	英語ディスカッションⅤ	2
	英語ディスカッションⅥ	2
	時事英語Ⅰ	2
	時事英語Ⅱ	2
	時事英語Ⅲ	2
	時事英語Ⅳ	2
	時事英語Ⅴ	2
	時事英語Ⅵ	2
	ビジネス英語Ⅰ	2
	ビジネス英語Ⅱ	2
	ビジネス英語Ⅲ	2
	ビジネス英語Ⅳ	2
	ビジネス英語Ⅴ	2
	ビジネス英語Ⅵ	2
	旅行英語Ⅰ	2
	旅行英語Ⅱ	2
	国際ビジネスコミュニケーションⅠ	2
	国際ビジネスコミュニケーションⅡ	2

	国際ビジネスコミュニケーションⅢ	2
	国際ビジネスコミュニケーションⅣ	2
	ビジネス韓国語Ⅰ	2
	ビジネス韓国語Ⅱ	2
	ビジネス中国語Ⅰ	2
	ビジネス中国語Ⅱ	2
	時事韓国・朝鮮語Ⅰ	2
	時事韓国・朝鮮語Ⅱ	2
	E群特殊講義a	2
	E群特殊講義b	1
	ゼミナールⅠ	2
	ゼミナールⅡ	2
	ゼミナールⅢ	2
	経営学演習Ⅰ	2
	ゼミナールⅣ	2
	経営学演習Ⅱ	2
	卒業研究	2
	卒業論文	2

（その３）経済科学部

(1)　現代経済学科授業科目

科目区分	授業科目の名称	単位数
主専攻科目	経済分析入門Ⅰ	2
	経済分析入門Ⅱ	2
	ミクロ経済学Ⅰ	2
	ミクロ経済学Ⅱ	2
	マクロ経済学Ⅰ	2
	マクロ経済学Ⅱ	2
	数理経済学Ⅰ	2
	数理経済学Ⅱ	2
	計量経済学Ⅰ	2
	計量経済学Ⅱ	2
	情報経済学Ⅰ	2

	情報経済学Ⅱ	2
	金融論Ⅰ	2
	金融論Ⅱ	2
	国際経済学Ⅰ	2
	国際経済学Ⅱ	2
	インターナショナルファイナンスⅠ	2
	インターナショナルファイナンスⅡ	2
	日本経済論Ⅰ	2
	日本経済論Ⅱ	2
	経済史Ⅰ	2
	経済史Ⅱ	2
	経済学史Ⅰ	2
	経済学史Ⅱ	2
	経済政策Ⅰ	2
	経済政策Ⅱ	2
	現代経済特講	2
	応用ミクロ経済学	2
	応用マクロ経済学	2
	産業経済学Ⅰ	2
	産業経済学Ⅱ	2
	公共経済学Ⅰ	2
	公共経済学Ⅱ	2
	財政学Ⅰ	2
	財政学Ⅱ	2
	地域経済論Ⅰ	2
	地域経済論Ⅱ	2
	労働経済学Ⅰ	2
	労働経済学Ⅱ	2
	環境経済学Ⅰ	2
	環境経済学Ⅱ	2
	ファイナンス論Ⅰ	2
	ファイナンス論Ⅱ	2

	金融特論	2
	国際経済学特論	2
	プレゼミナール	2
	ゼミナールⅠ	2
	ゼミナールⅡ	2
	ゼミナールⅢ	2
	ゼミナールⅣ	2
	卒業論文	4
	経済科学特別演習Ⅰ	2
	経済科学特別演習Ⅱ	2
	外国書講読	2
	特殊講義a	2
	特殊講義b	2
	インターンシップ	2
	長期インターンシップA	4
	長期インターンシップB	8
	長期インターンシップ事前・事後指導	1
	確率・統計入門	2
	経済数学入門Ⅰ	2
	経済数学入門Ⅱ	2
	経済統計学Ⅰ	2
	経済統計学Ⅱ	2
	憲法Ⅰ	2
	憲法Ⅱ	2
	民法Ⅰ	2
	民法Ⅱ	2
	商法Ⅰ	2
	商法Ⅱ	2
	経済法	2
	システム科学入門Ⅰ	2
	システム科学入門Ⅱ	2
	情報科学入門Ⅰ	2

	情報科学入門Ⅱ	2
	経営システム科学Ⅰ	2
	経営システム科学Ⅱ	2
	情報ネットワーク概論Ⅰ	2
	情報ネットワーク概論Ⅱ	2
	情報社会概論Ⅰ	2
	情報社会概論Ⅱ	2
	プロジェクトマネジメント論Ⅰ	2
	プロジェクトマネジメント論Ⅱ	2
	シミュレーション論Ⅰ	2
	シミュレーション論Ⅱ	2
	応用情報論Ⅰ	2
	応用情報論Ⅱ	2
	ソフトウェアⅠ	2
	ソフトウェアⅡ	2
	システム設計	2
	システム監査論	2
	英語ディスカッションⅠ	2
	英語ディスカッションⅡ	2
	英語ディスカッションⅢ	2
	英語ディスカッションⅣ	2
	英語ディスカッションⅤ	2
	英語ディスカッションⅥ	2
	時事英語Ⅰ	2
	時事英語Ⅱ	2
	時事英語Ⅲ	2
	時事英語Ⅳ	2
	時事英語Ⅴ	2
	時事英語Ⅵ	2
	ビジネス英語Ⅰ	2
	ビジネス英語Ⅱ	2
	ビジネス英語Ⅲ	2

	ビジネス英語Ⅳ	2
	ビジネス英語Ⅴ	2
	ビジネス英語Ⅵ	2
	海外研修Ⅰ	1
	海外研修Ⅱ	2
	海外研修Ⅲ	3
	海外研修Ⅳ	4
	海外研修Ⅴ	5

(2)　経済情報学科授業科目

科目区分	授業科目の名称	単位数
主専攻科目	経済分析入門Ⅰ	2
	経済分析入門Ⅱ	2
	ミクロ経済学Ⅰ	2
	ミクロ経済学Ⅱ	2
	マクロ経済学Ⅰ	2
	マクロ経済学Ⅱ	2
	数理経済学Ⅰ	2
	数理経済学Ⅱ	2
	計量経済学Ⅰ	2
	計量経済学Ⅱ	2
	情報経済学Ⅰ	2
	情報経済学Ⅱ	2
	システム科学入門Ⅰ	2
	システム科学入門Ⅱ	2
	経済システム科学Ⅰ	2
	経済システム科学Ⅱ	2
	経営システム科学Ⅰ	2
	経営システム科学Ⅱ	2
	数理統計学Ⅰ	2
	数理統計学Ⅱ	2
	シミュレーション論Ⅰ	2
	シミュレーション論Ⅱ	2

	社会システム科学Ⅰ	2
	社会システム科学Ⅱ	2
	プロジェクトマネジメント論Ⅰ	2
	プロジェクトマネジメント論Ⅱ	2
	応用確率システム論	2
	システム設計	2
	システム監査論	2
	情報科学入門Ⅰ	2
	情報科学入門Ⅱ	2
	情報処理Ⅰ	2
	情報処理Ⅱ	2
	情報ネットワーク概論Ⅰ	2
	情報ネットワーク概論Ⅱ	2
	情報数学Ⅰ	2
	情報数学Ⅱ	2
	情報社会概論Ⅰ	2
	情報社会概論Ⅱ	2
	応用情報論Ⅰ	2
	応用情報論Ⅱ	2
	ソフトウェアⅠ	2
	ソフトウェアⅡ	2
	コンピュータグラフィックスⅠ	2
	コンピュータグラフィックスⅡ	2
	ゼミナールⅠ	2
	ゼミナールⅡ	2
	ゼミナールⅢ	2
	ゼミナールⅣ	2
	卒業論文	4
	経済科学特別演習Ⅰ	2
	経済科学特別演習Ⅱ	2
	マルチメディア演習	2
	計測・制御演習	2

	情報システム演習	2
	情報通信ネットワーク演習	2
	外国書講読	2
	特殊講義a	2
	特殊講義b	2
	インターンシップ	2
	長期インターンシップA	4
	長期インターンシップB	8
	長期インターンシップ事前・事後指導	1
	代数学	2
	解析学Ⅰ	2
	解析学Ⅱ	2
	基礎解析Ⅰ	2
	基礎解析Ⅱ	2
	基礎解析Ⅲ	2
	経済統計学Ⅰ	2
	経済統計学Ⅱ	2
	憲法Ⅰ	2
	憲法Ⅱ	2
	民法Ⅰ	2
	民法Ⅱ	2
	商法Ⅰ	2
	商法Ⅱ	2
	経済法	2
	金融論Ⅰ	2
	金融論Ⅱ	2
	国際経済学Ⅰ	2
	国際経済学Ⅱ	2
	インターナショナルファイナンスⅠ	2
	インターナショナルファイナンスⅡ	2
	応用ミクロ経済学	2
	応用マクロ経済学	2

	産業経済学Ⅰ	2	
	産業経済学Ⅱ	2	
	公共経済学Ⅰ	2	
	公共経済学Ⅱ	2	
	財政学Ⅰ	2	
	財政学Ⅱ	2	
	経済政策Ⅰ	2	
	経済政策Ⅱ	2	
	環境経済学Ⅰ	2	
	環境経済学Ⅱ	2	
	地域経済論Ⅰ	2	
	地域経済論Ⅱ	2	
	日本経済論Ⅰ	2	
	日本経済論Ⅱ	2	
	労働経済学Ⅰ	2	
	労働経済学Ⅱ	2	
	英語ディスカッションⅠ	2	
	英語ディスカッションⅡ	2	
	英語ディスカッションⅢ	2	
	英語ディスカッションⅣ	2	
	英語ディスカッションⅤ	2	
	英語ディスカッションⅥ	2	
	時事英語Ⅰ	2	
	時事英語Ⅱ	2	
	時事英語Ⅲ	2	
	時事英語Ⅳ	2	
	時事英語Ⅴ	2	
	時事英語Ⅵ	2	
	ビジネス英語Ⅰ	2	
	ビジネス英語Ⅱ	2	
	ビジネス英語Ⅲ	2	
	ビジネス英語Ⅳ	2	

	ビジネス英語Ⅴ	2
	ビジネス英語Ⅵ	2
	ビジネス中国語Ⅰ	2
	ビジネス中国語Ⅱ	2
	ビジネス韓国語Ⅰ	2
	ビジネス韓国語Ⅱ	2
	海外研修Ⅰ	1
	海外研修Ⅱ	2
	海外研修Ⅲ	3
	海外研修Ⅳ	4
	海外研修Ⅴ	5

（その４）人文学部

(1)　社会学科授業科目

科目区分	授業科目の名称	単位数
主専攻科目	現代社会学	2
	差別問題論	2
	ヒロシマ文化論Ⅰ	2
	ヒロシマ文化論Ⅱ	2
	ジェンダー論	2
	女の人間学	2
	比較社会論	2
	共生社会論	2
	ボランティア論	2
	社会文化体験演習	2
	海外体験演習	2
	Media English Ⅰ	2
	Media English Ⅱ	2
	Business English Ⅰ	2
	Business English Ⅱ	2
	環境文学論	2
	物語と歴史	2
	教育文化論	2

	芸術文化論	2
	社会の中の言語	2
	日本文化史Ⅰ	2
	日本文化史Ⅱ	2
	日本文化論	2
	日本文学演習Ⅰ	2
	日本文学演習Ⅱ	2
	日本史演習Ⅰ	2
	日本史演習Ⅱ	2
	日本古典文学論	2
	西洋文化史	2
	西洋文化史演習	2
	社会学基礎講座	1
	社会学研究入門Ⅰ	2
	社会学研究入門Ⅱ	2
	社会学方法論	2
	社会学概論	2
	社会学理論	2
	応用社会学	2
	コミュニケーション論	2
	社会意識論	2
	感情社会学	2
	比較社会学	2
	社会学研究法	2
	アニメ社会学	2
	クールジャパン現象研究	2
	犯罪社会学	2
	エリア・スタディーズ	2
	ボーダー・スタディーズ	2
	国際社会学Ⅰ	2
	国際社会学Ⅱ	2
	現代社会論	2

	産業社会学	2
	労働社会学	2
	カルチュラル・スタディーズ	2
	文化社会学	2
	消費社会論	2
	感情労働論	2
	親密性の社会学	2
	性現象論	2
	クィア・スタディーズ	2
	都市社会学	2
	地域社会学	2
	サブカルチャーの社会学	2
	ポップカルチャーの社会学	2
	宗教社会論	2
	伝統文化論	2
	マイグレーション・スタディーズ	2
	社会問題の社会学	2
	表象文化論	2
	音楽社会学	2
	現代社会学特殊講義	2
	社会学特殊講義	2
	マスメディア論Ⅰ	2
	マスメディア論Ⅱ	2
	ジャーナリズム論Ⅰ	2
	ジャーナリズム論Ⅱ	2
	社会安全政策論	2
	社会構想と公共政策	2
	社会調査概論	2
	社会調査方法論	2
	社会調査論Ⅰ	2
	社会調査論Ⅱ	2
	量的社会調査法	2

	質的社会調査法	2
	コミュニケーション論演習	2
	アニメ社会学演習	2
	クールジャパン現象研究演習	2
	社会意識論演習	2
	犯罪社会学演習	2
	国際社会学演習	2
	エリア・スタディーズ演習	2
	ボーダー・スタディーズ演習	2
	現代社会論演習	2
	カルチュラル・スタディーズ演習	2
	文化社会学演習	2
	応用社会学演習	2
	労働社会学演習	2
	感情社会学演習	2
	感情労働論演習	2
	親密性の社会学演習	2
	性現象論演習	2
	クィア・スタディーズ演習	2
	産業社会学演習	2
	消費社会論演習	2
	宗教社会論演習	2
	伝統文化論演習	2
	マイグレーション・スタディーズ演習	2
	社会問題の社会学演習	2
	比較社会学演習	2
	量的社会調査演習	4
	質的社会調査演習	4
	社会学文献講読演習Ⅰ	2
	社会学文献講読演習Ⅱ	2
	社会学文献講読演習Ⅲ	2
	社会学文献講読演習Ⅳ	2

	社会学英書講読演習Ⅰ	2
	社会学英書講読演習Ⅱ	2
	社会学英書講読演習Ⅲ	2
	社会学英書講読演習Ⅳ	2
	社会学特論演習	2
	卒業研究	4
	応用社会学特殊演習	2
	マスメディア論特殊演習	2
	ジャーナリズム論特殊演習	2
	社会安全政策論特殊演習	2
	情報リテラシー	2
	社会学情報処理Ⅰ	2
	社会学情報処理Ⅱ	2
	社会学情報処理Ⅲ	2
	社会学情報処理Ⅳ	2
	社会学情報処理Ⅴ	2
	社会学情報処理特殊講義Ⅰ	2
	社会学情報処理特殊講義Ⅱ	2
	社会学情報処理特殊講義Ⅲ	2
	社会学情報処理特殊講義Ⅳ	2
	社会学情報処理特殊講義Ⅴ	2
	Web調査論	2
	社会学情報処理特殊演習Ⅰ	2
	社会学情報処理特殊演習Ⅱ	2

(2)　教育学科授業科目

科目区分	授業科目の名称	単位数
主専攻科目	差別問題論	2
	日本文化史Ⅰ	2
	日本文化史Ⅱ	2
	Media　English Ⅰ	2
	Media　English Ⅱ	2
	Business　English Ⅰ	2

	Business　EnglishⅡ	2
	憲法Ⅰ	2
	憲法Ⅱ	2
	English　CommunicationⅠ	2
	English　CommunicationⅡ	2
	人文学部特別講義	2
	人文学部特別演習	2
	インターンシップ	2
	長期インターンシップ事前・事後指導	1
	長期インターンシップA	4
	長期インターンシップB	8
	教育学基礎演習	2
	教育研究演習Ⅰ	2
	教育研究演習Ⅱ	2
	教育学演習Ⅰ	2
	教育学演習Ⅱ	2
	教育学演習Ⅲ	2
	教育学演習Ⅳ	2
	卒業研究	4
	教育原理	2
	教育制度・教育課程論	2
	人権教育論	2
	教育哲学	2
	教育社会学	2
	教育文化史	2
	教育史	2
	教育政策論	2
	生涯学習論Ⅰ	2
	生涯学習論Ⅱ	2
	生涯学習支援論Ⅰ	2
	生涯学習支援論Ⅱ	2
	社会教育経営論Ⅰ	2

	社会教育経営論Ⅱ	2
	教育方法論（情報通信技術の活用を含む）	2
	幼児理解の方法	2
	特別支援教育概論	2
	重複・発達障害概論	2
	特別なニーズ教育の基礎と方法	2
	教育学特論Ⅰ	2
	教育学特論Ⅱ	2
	教育学特論Ⅲ	2
	教育学特論Ⅳ	2
	教育学特論Ⅴ	2
	教育学特論Ⅵ	2
	教育学特論Ⅶ	1
	教育学特論Ⅷ	1
	教育学特論Ⅸ	1
	教育学特論Ⅹ	1
	社会教育演習	2
	社会教育実習	2
	学校教育インターンシップ	2
	教職入門	2
	教育心理学	2
	中等社会科教育法（公民分野）	2
	社会科・地理歴史科教育法	2
	社会科・公民科教育法	2
	中等社会科教育法（地理歴史分野）	2
	道徳教育論	2
	特別活動及び総合的な学習の時間の指導法	2
	生徒・進路指導論	2
	教育相談	2
	中等教育実習事前事後指導	1
	中等教育実習Ⅰ	2
	中等教育実習Ⅱ	2

	西洋文化史	2	
	日本史概論Ⅰ	2	
	日本史概論Ⅱ	2	
	東洋史概論Ⅰ	2	
	東洋史概論Ⅱ	2	
	西洋史概論Ⅰ	2	
	西洋史概論Ⅱ	2	
	人文地理学Ⅰ	2	
	人文地理学Ⅱ	2	
	自然地理学	2	
	地誌Ⅰ	2	
	地誌Ⅱ	2	
	人間観の思想	2	
	哲学概論Ⅰ	2	
	哲学概論Ⅱ	2	
	倫理学概論Ⅰ	2	
	倫理学概論Ⅱ	2	
	法律学概論	2	
	政治学概論	2	
	国際法	2	
	国際政治学	2	
	国際日本学	2	
	現代経済入門Ⅰ	2	
	現代経済入門Ⅱ	2	
	教職実践演習（幼・小・中・高）	2	
	初等教育実習事前事後指導（小）	1	
	初等教育実習事前事後指導（幼）	1	
	初等教育実習Ⅰ	2	
	初等教育実習Ⅱ	2	
	初等教育実習Ⅲ	2	
	生活科教育法	2	
	音楽科教育法	2	

	図画工作科教育法	2	
	体育科教育法	2	
	家庭科教育法	2	
	国語科教育法	2	
	初等社会科教育法	2	
	算数科教育法	2	
	理科教育法	2	
	初等英語科教育法	2	
	初等教育（国語）	2	
	書写	1	
	初等教育（社会）	2	
	初等教育（算数）	2	
	初等教育（理科）	2	
	初等教育（生活）	2	
	初等教育（体育）	2	
	初等教育（音楽）	2	
	初等教育（図画工作）	2	
	初等教育（家庭）	2	
	初等教育（英語）	2	
	保育原理	2	
	保育者論	2	
	児童家庭福祉論	2	
	社会福祉論	2	
	相談援助演習	2	
	社会的養護論	2	
	幼児発達心理学	2	
	幼児心理学演習	2	
	子どもの保健Ⅰ	2	
	子どもの保健Ⅱ	2	
	子どもの保健演習	2	
	子どもの食と栄養	2	
	子ども家庭支援論	2	

	保育課程論	2	
	保育内容総論	2	
	保育内容（健康）	1	
	保育内容（人間関係）	1	
	保育内容（環境）	1	
	保育内容（言葉）	1	
	保育内容（音楽的表現）	1	
	保育内容（造形的表現）	1	
	保育内容（身体的表現）	1	
	子どもと健康	1	
	子どもと人間関係	1	
	子どもと環境	1	
	子どもと言葉	1	
	子どもと音楽的表現	1	
	子どもと造形的表現	1	
	子どもと身体的表現	1	
	乳児保育	2	
	乳児保育演習	2	
	障害児保育演習	2	
	社会的養護内容	2	
	子ども家庭支援の心理学	2	
	音楽表現技術Ⅰ	2	
	音楽表現技術Ⅱ	2	
	図画工作表現技術	2	
	体育表現技術	2	
	保育実習Ⅰ（保育所）	2	
	保育実習Ⅰ（施設）	2	
	保育実習Ⅱ（保育所）	2	
	保育実習Ⅲ（施設）	2	
	保育実習指導Ⅰ（保育所・施設）	2	
	保育実習指導Ⅱ（保育所）	2	
	保育実習指導Ⅲ（施設）	2	

	保育実践演習	2
	知的障害者の心理・生理・病理	2
	肢体不自由者の心理・生理・病理	2
	病弱者の心理・生理・病理	2
	知的障害教育学	2
	知的障害指導法	2
	肢体不自由の教育と指導	2
	病弱の教育と指導	2
	特別支援教育課程論	2
	視覚障害概論	2
	聴覚障害概論	2
	特別支援教育実習事前事後指導	1
	特別支援教育実習	2
	心理学概論Ⅰ	2
	心理学概論Ⅱ	2
	ヒロシマ文化論Ⅰ	2
	ヒロシマ文化論Ⅱ	2
	社会・集団・家族心理学	2
	知覚・認知心理学	2
	発達心理学	2
	臨床心理学概論	2
	知覚心理学	2
	神経・生理心理学	2
	感情・人格心理学	2
	心理療法論	2
	健康・医療心理学	2
	メディア論Ⅰ	2
	メディア論Ⅱ	2
	ジャーナリズム論Ⅰ	2
	ジャーナリズム論Ⅱ	2
	比較社会論	2
	共生社会論	2

	現代社会論A	2
	現代社会論B	2
	社会意識論A	2
	社会意識論B	2
	文化社会学A	2
	文化社会学B	2
	親密性の社会学	2
	表象文化論	2
	コミュニケーション論A	2
	コミュニケーション論B	2
	サブカルチャー論A	2
	サブカルチャー論B	2
	国際社会学A	2
	国際社会学B	2
	社会安全政策論	2
	公共政策論	2
	海外研修Ⅰ	1
	海外研修Ⅱ	2
	海外研修Ⅲ	3
	海外研修Ⅳ	4
	海外研修Ⅴ	5

(3)　英語英文学科授業科目

科目区分	授業科目の名称	単位数
主専攻科目	現代社会学	2
	差別問題論	2
	日本文化史Ⅰ	2
	日本文化史Ⅱ	2
	西洋文化史	2
	Media　English Ⅰ	2
	Media　English Ⅱ	2
	Business　English Ⅰ	2
	Business　English Ⅱ	2

	ボランティア論	2
	憲法Ⅰ	2
	憲法Ⅱ	2
	自然科学史	2
	English　Communication Ⅰ	2
	English　Communication Ⅱ	2
	人文学部特別講義	2
	人文学部特別演習	2
	インターンシップ	2
	長期インターンシップ事前・事後指導	1
	長期インターンシップA	4
	長期インターンシップB	8
	Active　English Ⅰ	1
	Active　English Ⅱ	1
	Active　English Ⅲ	1
	Active　English Ⅳ	1
	Active　English Ⅴ	1
	Active　English Ⅵ	1
	Active　English Ⅶ	1
	Active　English Ⅷ	1
	Reading Ⅰ	2
	Reading Ⅱ	2
	Writing Ⅰ	2
	Writing Ⅱ	2
	Writing Ⅲ	2
	Writing Ⅳ	2
	English　Online Ⅰ	1
	English　Online Ⅱ	1
	Social　English Ⅰ	2
	Social　English Ⅱ	2
	Working　English Ⅰ	2
	Working　English Ⅱ	2

	Discussion Ⅰ	2	
	Discussion Ⅱ	2	
	Discussion Ⅲ	2	
	Discussion Ⅳ	2	
	Presentation Ⅰ	2	
	Presentation Ⅱ	2	
	Preparation　for　TOEFL Ⅰ	2	
	Preparation　for　TOEFL Ⅱ	2	
	Preparation　for　TOEIC Ⅰ	2	
	Preparation　for　TOEIC Ⅱ	2	
	英語検定準備Ⅰ	2	
	英語検定準備Ⅱ	2	
	Academic　Writing Ⅰ	2	
	Academic　Writing Ⅱ	2	
	翻訳入門	2	
	実務翻訳演習Ⅰ	2	
	実務翻訳演習Ⅱ	2	
	文芸翻訳演習	2	
	卒業研究	4	
	英米の言語文化Ⅰ	2	
	英米の言語文化Ⅱ	2	
	英米の言語文化Ⅲ	2	
	英米の言語文化Ⅳ	2	
	英米の言語文化Ⅴ	2	
	英米の言語文化Ⅵ	2	
	言語文化研究特講	2	
	地域文化研究Ⅰ	2	
	地域文化研究Ⅱ	2	
	地域文化研究Ⅲ	2	
	地域文化研究特講	2	
	英米の文化・文学ゼミナールA	2	
	英米の文化・文学ゼミナールB	2	

	英米の文化・文学ゼミナールC	2	
	英米の文化・文学ゼミナールD	2	
	言語学入門	2	
	英語音声学	2	
	英語の諸相Ⅰ	2	
	英語の諸相Ⅱ	2	
	英語の諸相Ⅲ	2	
	英語の諸相Ⅳ	2	
	英語の諸相Ⅴ	2	
	英語の諸相Ⅵ	2	
	英語研究Ⅰ	2	
	英語研究Ⅱ	2	
	英語研究Ⅲ	2	
	英語研究特講	2	
	英語学特講	2	
	応用言語学研究特講	2	
	英語学・英語教育学ゼミナールA	2	
	英語学・英語教育学ゼミナールB	2	
	英語学・英語教育学ゼミナールC	2	
	英語学・英語教育学ゼミナールD	2	
	やさしい通訳訓練	2	
	通訳演習Ⅰ	2	
	通訳演習Ⅱ	2	
	通訳演習Ⅲ	2	
	Project　Work	2	
	情報処理Ⅰ	2	
	情報処理Ⅱ	2	
	言語教育法特講	2	
	中等教科教育法（英語）Ⅰ	2	
	中等教科教育法（英語）Ⅱ	2	
	中等教科教育法（英語）Ⅲ	2	
	中等教科教育法（英語）Ⅳ	2	

	海外研修Ⅰ	1
	海外研修Ⅱ	2
	海外研修Ⅲ	3
	海外研修Ⅳ	4
	海外研修Ⅴ	5
	メディア論Ⅰ	2
	メデイア論Ⅱ	2
	ジャーナリズム論Ⅰ	2
	ジャーナリズム論Ⅱ	2
	ヒロシマ文化論Ⅰ	2
	ヒロシマ文化論Ⅱ	2
	比較社会論	2
	共生社会論	2

（その５）法学部法律学科授業科目

科目区分	授業科目の名称	単位数
主専攻科目	法律基礎A	1
	法律基礎B	2
	法律学概論	2
	法哲学	2
	法社会学	2
	日本法制史	2
	西洋法制史	2
	国際法	2
	国際私法	2
	国際取引法	2
	比較法	2
	外国法	2
	基本的人権	4
	憲法原論	2
	社会保障法	2
	社会福祉法	2
	行政法総論	2

	行政救済法	2
	税法	2
	刑法総論	2
	刑法各論	2
	現代犯罪論	2
	刑事訴訟法Ⅰ	2
	刑事訴訟法Ⅱ	2
	刑事学	2
	民法総則	2
	物権法	2
	担保法	2
	債権総論	2
	契約法	2
	不法行為法	2
	家族法	2
	民事訴訟法	4
	民事執行法	2
	企業取引法	2
	会社法	4
	有価証券法	2
	労働法	2
	経済法	2
	基礎演習	2
	ゼミナール基礎	2
	ゼミナールⅠ	2
	ゼミナールⅡ	2
	ゼミナールⅢ	2
	ゼミナールⅣ	2
	特別ゼミナール	2
	卒業研究	2
	特別講義A	2
	特別講義B	2

	特別講義C	1
	インターンシップ	2
	長期インターンシップA	4
	長期インターンシップB	8
	長期インターンシップ事前・事後指導	1
	現代経済入門	2
	哲学概論Ⅰ	2
	哲学概論Ⅱ	2
	倫理学概論Ⅰ	2
	倫理学概論Ⅱ	2
	日本史概論Ⅰ	2
	日本史概論Ⅱ	2
	東洋史概論Ⅰ	2
	東洋史概論Ⅱ	2
	西洋史概論Ⅰ	2
	西洋史概論Ⅱ	2
	地誌Ⅰ	2
	地誌Ⅱ	2
	人文地理学Ⅰ	2
	人文地理学Ⅱ	2
	自然地理学	2

（その６）人間環境学部人間環境学科授業科目

科目区分	授業科目の名称	単位数
主専攻科目	人間環境学概論	2
	持続可能な発展論	2
	環境法入門	2
	環境事例入門	2
	環境経済学入門	2
	環境経営論入門	2
	環境地理学概論	2
	環境コミュニケーション入門	2
	資源・エネルギー論	2

	科学技術と倫理	2
	科学技術社会論	2
	会計学入門	2
	経済学入門	2
	経営学入門	2
	環境統計学入門	2
	日本語運用論	2
	日本語の技術a	1
	日本語の技術b	1
	論理的思考	2
	日本語表現法	2
	自然と人間の哲学	2
	日本の科学技術	2
	災害史	2
	暮らしの中の環境法	2
	生態学	2
	入門特殊講義	2
	環境法	2
	循環型社会政策論	2
	環境ビジネス論	2
	環境監査論	2
	環境アセスメント	2
	環境会計論	2
	環境政策論	2
	地域環境論	2
	環境と農林水産業	2
	環境教育論	2
	環境NPO・NGO論	2
	エコツーリズム論	2
	里地里山学	2
	環境倫理学	2
	現代環境思想	2

	生命科学	2
	環境科学の基礎	2
	生活科学論	2
	身体のしくみと健康	2
	気候変動と環境法	2
	日本語コミュニケーション演習a	2
	環境倫理学演習a	2
	環境法演習a	2
	日本語コミュニケーション演習b	2
	環境倫理学演習b	2
	環境法演習b	2
	基礎特殊講義	2
	比較環境法	2
	環境と産業	2
	環境経営論	2
	環境の経済評価	2
	環境ガバナンス論	2
	地球環境政策論	2
	環境社会学	2
	環境教育プランニング	2
	食料環境システム論	2
	水環境の生活化学	2
	環境生理学	2
	野生動物管理学	2
	保全生物学	2
	科学技術と現代社会	2
	生命情報と環境	2
	発展特殊講義	2
	環境プロジェクト	2
	インターンシップ	2
	長期インターンシップA	4
	長期インターンシップB	8

	長期インターンシップ事前・事後指導	1
	自然解説実習	1
	自然観察方法論	2
	圃場実習	1
	里山実習	1
	生物調査実習	1
	生物観察の基礎a	1
	生物観察の基礎b	1
	フィールド特殊講義	2
	フィールド特殊実習	1
	フィールド特殊演習	2
	環境ゼミナールa	2
	環境ゼミナールb	2
	卒業研究	2
	卒業論文	2
	交通論	2
	NGO・NPO論	2
	ミクロ経済学Ⅰ	2
	ミクロ経済学Ⅱ	2
	マクロ経済学Ⅰ	2
	マクロ経済学Ⅱ	2
	経営学総論Ⅰ	2
	経営学総論Ⅱ	2
	国際法	2
	国際政治学	2
	憲法Ⅰ	2
	憲法Ⅱ	2
	英語ディスカッションⅠ	2
	英語ディスカッションⅡ	2
	英語ディスカッションⅢ	2
	英語ディスカッションⅣ	2
	英語ディスカッションⅤ	2

	英語ディスカッションⅥ	2
	時事英語Ⅰ	2
	時事英語Ⅱ	2
	時事英語Ⅲ	2
	時事英語Ⅳ	2
	時事英語Ⅴ	2
	時事英語Ⅵ	2
	ビジネス英語Ⅰ	2
	ビジネス英語Ⅱ	2
	ビジネス英語Ⅲ	2
	ビジネス英語Ⅳ	2
	ビジネス英語Ⅴ	2
	ビジネス英語Ⅵ	2
	海外研修Ⅰ	1
	海外研修Ⅱ	2
	海外研修Ⅲ	3
	海外研修Ⅳ	4
	海外研修Ⅴ	5

（その７）健康科学部

(1)　心理学科授業科目

科目区分	授業科目の名称	単位数
主専攻科目	心理学統計法Ⅰ	2
	ポジティブ心理学	2
	カウンセリング心理学	2
	基礎化学	2
	食育入門	2
	地域食文化論	2
	健康科学部特別講義	2
	心理学概論	2
	心理学研究法	2
	心理学統計法Ⅱ	2
	心理学統計法Ⅲ	2

	心理学実験Ⅰ	2
	心理学実験Ⅱ	1
	発達心理学	2
	知覚・認知心理学	2
	神経・生理心理学	2
	臨床心理学概論	2
	集団力学	2
	教育・学校心理学	2
	心理的アセスメント	2
	障害者・障害児心理学	2
	健康・医療心理学	2
	心理学的支援法	2
	心理学外国語文献	2
	心理情報処理	2
	地域援助実践体験	2
	人体の構造と機能及び疾病	2
	感情・人格心理学	2
	司法・犯罪心理学	2
	福祉心理学	2
	精神疾患とその治療	2
	関係行政論	2
	公認心理師の職責	2
	最新心理学講義a	2
	心理学史	2
	進化心理学	2
	社会・集団・家族心理学	2
	産業・組織心理学	2
	応用心理学	2
	乳幼児心理学	2
	学習・言語心理学	2
	文化心理学	2
	心理調査概論	2

	心理学統計法Ⅳ	2
	最新心理学講義b	2
	心理学実験Ⅲ	1
	心理学実験Ⅳ	1
	演習Ⅰ	2
	演習Ⅱ	2
	演習Ⅲ	2
	演習Ⅳ	2
	心理演習	2
	心理実習	2
	卒業論文	4

(2)　健康栄養学科授業科目

科目区分	授業科目の名称	単位数
主専攻科目	心理学統計法Ⅰ	2
	ポジティブ心理学	2
	カウンセリング心理学	2
	基礎化学	2
	食育入門	2
	地域食文化論	2
	健康科学部特別講義	2
	健康管理概論	2
	公衆衛生学	2
	社会福祉概論	2
	生化学Ⅰ	2
	生化学Ⅱ	2
	生化学実験	1
	解剖生理学Ⅰ	2
	解剖生理学Ⅱ	2
	解剖生理学実験	1
	臨床医学Ⅰ	2
	臨床医学Ⅱ	2
	臨床医学Ⅲ	2

	食品学Ⅰ	2
	食品学Ⅱ（含食品加工学）	2
	基礎分析実験	1
	食品学実験Ⅰ	1
	食品学実験Ⅱ	1
	食品加工学実習	1
	食品衛生学	2
	食品衛生学実験	1
	調理学	2
	調理学実習Ⅰ	1
	調理学実習Ⅱ	1
	調理学実習Ⅲ	1
	基礎栄養学	2
	栄養生理学実験	1
	応用栄養学Ⅰ	2
	応用栄養学Ⅱ	2
	応用栄養学Ⅲ	2
	応用栄養学実習	1
	栄養教育論Ⅰ	2
	栄養教育論Ⅱ	2
	栄養教育論Ⅲ	2
	栄養教育論実習	1
	臨床栄養学Ⅰ	2
	臨床栄養学Ⅱ	2
	臨床栄養学Ⅲ	2
	臨床栄養学Ⅳ	2
	臨床栄養学実習Ⅰ	1
	臨床栄養学実習Ⅱ	1
	公衆栄養学Ⅰ	2
	公衆栄養学Ⅱ	2
	公衆栄養学実習	1
	給食経営管理論Ⅰ	2

	給食経営管理論Ⅱ	2
	給食経営管理実習Ⅰ（学内）	1
	給食経営管理実習Ⅱ（地域配食）	1
	総合栄養演習Ⅰ	2
	総合栄養演習Ⅱ	2
	臨地実習Ⅰ（給食の運営）	1
	臨地実習Ⅱ（給食経営管理論）	1
	臨地実習Ⅲ（臨床栄養学）	1
	臨地実習Ⅳ（臨床栄養学）	1
	臨地実習Ⅴ（公衆栄養学）	1
	食品機能性成分の理解	2
	食品微生物学	2
	食産業の理解	2
	総合栄養講義Ⅰ	2
	総合栄養講義Ⅱ	2
	卒業基礎ゼミ	2
	卒業ゼミ	2

（その８）国際コミュニティ学部

(1)　国際政治学科授業科目

科目区分	授業科目	単位数
主専攻科目	世界と地域	1
	異文化理解論	2
	日本と世界の現代史	2
	政治の考え方	2
	社会のしくみ	2
	国際政治入門	1
	社会科学入門	1
	体験実践	2
	体験実践論	1
	Cross-Cultural Communication	2
	Hiroshima Studies	2
	Japan Studies	2

	Contemporary Writing Skills	2
	Writing about Global Issues	2
	Talking about Glocal Issues	2
	Discussion,Analysis and Presentation of Global Issues	2
	Introduction to Public Speaking and Presentation Skills	2
	Public Speaking and Presentation Skills	2
	Global／Regional Studies A	1
	Global／Regional Studies B	2
	International Affairs	1
	国際政治学	2
	国際組織論	2
	国際政治経済	2
	国際開発論	2
	国際協力論	2
	安全保障論	2
	平和学	2
	紛争と平和	2
	国際日本学	2
	国際ジャーナリズム論	2
	国際移動研究	1
	NGO・NPO論	2
	国際人権論	2
	国際政治特論A	1
	国際政治特論B	2
	日本政治外交史	2
	東洋政治外交史	2
	西洋政治外交史	2
	中国の政治と社会	2
	アメリカの政治と社会	2
	ヨーロッパの政治と社会	2
	中東の政治と社会	2
	民族と社会	2

	文明論研究	1
	地域研究特論A	1
	地域研究特論B	2
	政治学概論	2
	政治思想	2
	日本の政治	2
	政治過程論	2
	憲法原論	2
	現代経済入門	2
	マクロ経済学	2
	国際経済論	2
	国際貿易論	2
	政治・経済特論A	1
	政治・経済特論B	2
	行政学	2
	地方自治論	2
	政策概論	2
	ソーシャルイノベーション論	2
	地域コミュニケーション	2
	社会政策論	2
	法律学概論	2
	国際法	2
	労働法	2
	特別講義A	1
	特別講義B	2
	特別講義C	2
	基礎演習	2
	ゼミナールa	2
	ゼミナールb	2
	卒業研究	2
	キャリアデザイン	1
	インターンシップA	2

	インターンシップB	4
	長期インターンシップA	4
	長期インターンシップB	8
	長期インターンシップ事前・事後指導	1
	地域プロジェクトⅠ	2
	地域プロジェクトⅡ	2
	グローカル・プロジェクト入門	1
	グローカル・プロジェクトⅠ	2
	グローカル・プロジェクトⅡ	2
	日本史概論Ⅰ	2
	日本史概論Ⅱ	2
	東洋史概論Ⅰ	2
	東洋史概論Ⅱ	2
	西洋史概論Ⅰ	2
	西洋史概論Ⅱ	2
	人文地理学Ⅰ	2
	人文地理学Ⅱ	2
	自然地理学	2
	地誌Ⅰ	2
	地誌Ⅱ	2
	哲学概論Ⅰ	2
	哲学概論Ⅱ	2
	倫理学概論Ⅰ	2
	倫理学概論Ⅱ	2

(2)　地域行政学科授業科目

科目区分	授業科目	単位数
主専攻科目	世界と地域	1
	政治の考え方	2
	社会のしくみ	2
	日本と世界の現代史	2
	異文化理解論	2
	地域行政入門	1

	社会科学入門	1
	体験実践	2
	体験実践論	1
	政治学概論	2
	政治理論	2
	政治思想	2
	民主主義論	2
	日本政治外交史	2
	日本の政治	2
	政治過程論	2
	NGO・NPO論	2
	国際政治学	2
	国際日本学	2
	平和学	2
	安全保障論	2
	紛争と平和	2
	国際人権論	2
	国際協力論	2
	アメリカの政治と社会	2
	中国の政治と社会	2
	ヨーロッパの政治と社会	2
	中東の政治と社会	2
	政治特論A	1
	政治特論B	2
	行政学	2
	地方自治論	2
	自治体行政学	2
	地方財政論	2
	合意形成論	2
	地域コミュニケーション	2
	ソーシャルイノベーション論	2
	自治体行政実務	1

	地域資源論	1
	地域資源創造論	1
	公共空間創造論	2
	行政特講A	1
	行政特講B	2
	政策概論	2
	公共政策論	2
	地域産業政策論	2
	社会政策論	2
	地域政策実践論	2
	都市・地域戦略論	2
	地域デザイン論	2
	政策特論A	1
	政策特論B	2
	法律学概論	2
	憲法原論	2
	行政法	2
	地方自治法	2
	国際法	2
	民法Ⅰ	2
	民法Ⅱ	2
	行政法総論	2
	労働法	2
	社会福祉法	2
	法律特論A	1
	法律特論B	2
	Hiroshima Studies	2
	Japan Studies	2
	Contemporary Writing Skills	2
	Writing about Global Issues	2
	Talking about Glocal Issues	2
	Discussion,Analysis and Presentation of Global Issues	2

	Introduction to Public Speaking and Presentation Skills	2
	Public Speaking and Presentation Skills	2
	国際政治経済	2
	国際開発論	2
	民族と社会	2
	文明論研究	1
	現代経済入門	2
	地域経済論	2
	マクロ経済学	2
	特別講義A	1
	特別講義B	2
	特別講義C	2
	基礎演習	2
	ゼミナールa	2
	ゼミナールb	2
	卒業研究	2
	キャリアデザイン	1
	インターンシップA	2
	インターンシップB	4
	長期インターンシップA	4
	長期インターンシップB	8
	長期インターンシップ事前・事後指導	1
	地域プロジェクトⅠ	2
	地域プロジェクトⅡ	2
	グローカル・プロジェクト入門	1
	グローカル・プロジェクトⅠ	2
	グローカル・プロジェクトⅡ	2
	日本史概論Ⅰ	2
	日本史概論Ⅱ	2
	東洋史概論Ⅰ	2
	東洋史概論Ⅱ	2
	西洋史概論Ⅰ	2

	西洋史概論Ⅱ	2
	人文地理学Ⅰ	2
	人文地理学Ⅱ	2
	自然地理学	2
	地誌Ⅰ	2
	地誌Ⅱ	2
	哲学概論Ⅰ	2
	哲学概論Ⅱ	2
	倫理学概論Ⅰ	2
	倫理学概論Ⅱ	2
	生涯学習支援論Ⅰ	2
	生涯学習支援論Ⅱ	2
	社会教育経営論Ⅰ	2
	社会教育経営論Ⅱ	2

（その９）教職・資格課程関連科目

(1)　教職課程科目

授業科目の名称	単位数
教職入門	2
保育者論	2
教育原理	2
教育哲学	2
教育心理学	2
教育制度・教育課程論	2
教育社会学	2
道徳教育論	2
特別なニーズ教育の基礎と方法	2
特別活動及び総合的な学習の時間の指導法	2
教育方法論（情報通信技術の活用を含む）	2
幼児理解の方法	2
生徒・進路指導論	2
教育相談	2
初等教育実習事前事後指導（幼）	1

初等教育実習事前事後指導（小）	1	
初等教育実習Ⅰ	2	
初等教育実習Ⅱ	2	
初等教育実習Ⅲ	2	
中等教育実習事前事後指導	1	
中等教育実習Ⅰ	2	
中等教育実習Ⅱ	2	
教職実践演習（幼・小・中・高）	2	
教職実践演習（中・高）	2	
保育内容総論	2	
保育内容（健康）	1	
保育内容（人間関係）	1	
保育内容（環境）	1	
保育内容（言葉）	1	
保育内容（音楽的表現）	1	
保育内容（造形的表現）	1	
保育内容（身体的表現）	1	
国語科教育法	2	
初等社会科教育法	2	
算数科教育法	2	
理科教育法	2	
生活科教育法	2	
音楽科教育法	2	
図画工作科教育法	2	
家庭科教育法	2	
体育科教育法	2	
初等英語科教育法	2	
商業科教育法Ⅰ	2	
商業科教育法Ⅱ	2	
情報科教育法Ⅰ	2	
情報科教育法Ⅱ	2	
中等社会科教育法（地理歴史分野）	2	
中等社会科教育法（公民分野）	2	

社会科・地理歴史科教育法	2
社会科・公民科教育法	2
中等教科教育法（英語）Ⅰ	2
中等教科教育法（英語）Ⅱ	2
中等教科教育法（英語）Ⅲ	2
中等教科教育法（英語）Ⅳ	2
特別支援教育概論	2
知的障害者の心理・生理・病理	2
肢体不自由者の心理・生理・病理	2
病弱者の心理・生理・病理	2
知的障害教育学	2
知的障害指導法	2
肢体不自由の教育と指導	2
病弱の教育と指導	2
特別支援教育課程論	2
視覚障害概論	2
聴覚障害概論	2
重複・発達障害概論	2
特別支援教育実習事前事後指導	1
特別支援教育実習	2
中等生徒指導論（栄養）	2
学校栄養教育実習事前事後指導	1
学校栄養教育実習	1
教職実践演習（栄養）	2
人権教育論	2
差別問題論	2
社会福祉論	2

(2)　経済科学部現代経済学科

授業科目の名称	単位数
日本史概論Ⅰ	2
日本史概論Ⅱ	2
東洋史概論Ⅰ	2
東洋史概論Ⅱ	2

西洋史概論Ⅰ	2
西洋史概論Ⅱ	2
地誌Ⅰ	2
地誌Ⅱ	2
人文地理学Ⅰ	2
人文地理学Ⅱ	2
自然地理学	2
法律学概論	2
国際法	2
政治学概論	2
国際政治学	2
哲学概論Ⅰ	2
哲学概論Ⅱ	2
倫理学概論Ⅰ	2
倫理学概論Ⅱ	2

(3)　経済科学部経済情報学科

授業科目の名称	単位数
職業指導	2
簿記原理Ⅰ	2
簿記原理Ⅱ	2
情報と職業	2

(4)　人文学部社会学科

授業科目の名称	単位数
生涯学習論Ⅰ	2
生涯学習論Ⅱ	2
生涯学習支援論Ⅰ	2
生涯学習支援論Ⅱ	2
社会教育経営論Ⅰ	2
社会教育経営論Ⅱ	2
日本史概論Ⅰ	2
日本史概論Ⅱ	2
東洋史概論Ⅰ	2
東洋史概論Ⅱ	2

西洋史概論Ⅰ	2
西洋史概論Ⅱ	2
日本文化史Ⅰ	2
日本文化史Ⅱ	2
人文地理学Ⅰ	2
人文地理学Ⅱ	2
自然地理学	2
地誌Ⅰ	2
地誌Ⅱ	2
哲学概論Ⅰ	2
哲学概論Ⅱ	2
倫理学概論Ⅰ	2
倫理学概論Ⅱ	2
法律学概論	2
政治学概論	2
国際法	2
国際政治学	2
現代経済入門Ⅰ	2
現代経済入門Ⅱ	2
憲法Ⅰ	2
憲法Ⅱ	2
社会教育実習	2

(5)　人文学部教育学科

授業科目の名称	単位数
保育原理	2
児童家庭福祉論	2
相談援助演習	2
社会的養護論	2
幼児発達心理学	2
幼児心理学演習	2
子どもの保健Ⅰ	2
子どもの保健Ⅱ	2
子どもの保健演習	2

子どもの食と栄養	2	
子ども家庭支援論	2	
保育課程論	2	
乳児保育	2	
乳児保育演習	2	
障害児保育演習	2	
社会的養護内容	2	
子ども家庭支援の心理学	2	
音楽表現技術Ⅰ	2	
音楽表現技術Ⅱ	2	
図画工作表現技術	2	
体育表現技術	2	
保育実習Ⅰ（保育所）	2	
保育実習Ⅰ（施設）	2	
保育実習指導Ⅰ（保育所・施設）	2	
保育実践演習	2	
保育実習Ⅱ（保育所）	2	
保育実習Ⅲ（施設）	2	
保育実習指導Ⅱ（保育所）	2	
保育実習指導Ⅲ（施設）	2	
子どもと健康	1	
子どもと人間関係	1	
子どもと環境	1	
子どもと言葉	1	
子どもと音楽的表現	1	
子どもと造形的表現	1	
子どもと身体的表現	1	
初等教育（国語）	2	
書写	1	
初等教育（社会）	2	
初等教育（算数）	2	
初等教育（理科）	2	
初等教育（生活）	2	

初等教育（音楽）	2	
初等教育（図画工作）	2	
初等教育（家庭）	2	
初等教育（体育）	2	
初等教育（英語）	2	
生涯学習論Ⅰ	2	
生涯学習論Ⅱ	2	
生涯学習支援論Ⅰ	2	
生涯学習支援論Ⅱ	2	
社会教育経営論Ⅰ	2	
社会教育経営論Ⅱ	2	
日本史概論Ⅰ	2	
日本史概論Ⅱ	2	
東洋史概論Ⅰ	2	
東洋史概論Ⅱ	2	
西洋史概論Ⅰ	2	
西洋史概論Ⅱ	2	
日本文化史Ⅰ	2	
日本文化史Ⅱ	2	
人文地理学Ⅰ	2	
人文地理学Ⅱ	2	
自然地理学	2	
地誌Ⅰ	2	
地誌Ⅱ	2	
哲学概論Ⅰ	2	
哲学概論Ⅱ	2	
倫理学概論Ⅰ	2	
倫理学概論Ⅱ	2	
法律学概論	2	
政治学概論	2	
国際法	2	
国際政治学	2	
国際日本学	2	

現代社会学	2
現代経済入門Ⅰ	2
現代経済入門Ⅱ	2
憲法Ⅰ	2
憲法Ⅱ	2
社会教育実習	2

(6)　人文学部英語英文学科

授業科目の名称	単位数
憲法Ⅰ	2
憲法Ⅱ	2

(7)　人間環境学部人間環境学科

授業科目の名称	単位数
日本史概論Ⅰ	2
日本史概論Ⅱ	2
東洋史概論Ⅰ	2
東洋史概論Ⅱ	2
西洋史概論Ⅰ	2
西洋史概論Ⅱ	2
地誌Ⅰ	2
地誌Ⅱ	2
人文地理学Ⅰ	2
人文地理学Ⅱ	2
自然地理学	2
法律学概論	2
政治学概論	2
哲学概論Ⅰ	2
哲学概論Ⅱ	2
倫理学概論Ⅰ	2
倫理学概論Ⅱ	2

(8)　健康科学部健康栄養学科

授業科目の名称	単位数
学校栄養教育論Ⅰ	2
学校栄養教育論Ⅱ	2

憲法Ⅰ	2
憲法Ⅱ	2

(9)　国際コミュニティ学部地域行政学科

授業科目の名称	単位数
生涯学習論Ⅰ	2
生涯学習論Ⅱ	2
社会教育実習	2
社会教育演習	2

別表３（第16条の２第６項関係）

保育士資格取得のための課程（指定保育士養成施設厚生労働省認可）

対象	定員	クラス数
人文学部教育学科	50名	1クラス

変更事項を記載した書類

広島修道大学人文学部社会学科設置に伴う変更

・学部学科の組織	第2条 （学部学科の組織）の改正
・学部、学科の教育研究上の目的	第2条の2 （学部、学科の教育研究上の目的）の改正
・入学定員及び収容定員	第3条 （入学定員及び収容定員）の改正
・授業科目区分、修得単位数及び卒業所要単位数	第9条 （授業科目区分、修得単位数及び卒業所要単位数）別表の改正
・開設授業科目及び単位数	第 10 条 （開設授業科目及び単位数）別表の改正
・教職課程	第 16 条 （教職課程）の改正
・資格課程	第 16 条の2 （資格課程）の改正
・学位の授与	第 20 条 （学位の授与）の改正

広島修道大学学則新旧対照表

新

第１条　略

（学部学科の組織）

第２条　本学に次の学部及び学科を置く。

学部	学科
商学部	商学科 経営学科
経済科学部	現代経済学科 経済情報学科
人文学部	社会学科 教育学科 英語英文学科
法学部	法律学科
人間環境学部	人間環境学科
健康科学部	心理学科 健康栄養学科
国際コミュニティ学部	国際政治学科 地域行政学科

（学部、学科の教育研究上の目的）

第２条の２　本学の学部、学科の教育研究上の目的は次項以下のとおりとする。

２～３　略

４　人文学部は、現代社会の課題を理解する能力の育成、コミュニケーション能力の育成、そして情報リテラシーの習得を通して、地球的視野を持つ人材の養成と個性的、自律的な人間を育成することを目的とする。

(1)　社会学科は、「社会に生起する問題を発見」し、多様な価値観や文化・属性を有する人々の「多様性を理解」し、社会的現実を解明するために「社会調査による実証研究を実施」し、社会学が蓄積した理論的枠組みや方法に基づき「理論的に思考」し、社会に生起する問題を解決に導くために「社会を構想し提言する」能力をもつ人材の養成を目的とする。

(2)～(3)　略

５～８　略

（入学定員及び収容定員）

第３条　本学の学部別及び学科別の入学定員並びに収容定員は、次のとおりとする。

学部	学科	入学定員	収容定員
商学部	商学科	155名	620名
	経営学科	140名	560名
経済科学部	現代経済学科	115名	460名
	経済情報学科	115名	460名
人文学部	社会学科	95名	380名
	教育学科	100名	400名
	英語英文学科	100名	400名

旧

第１条　略

（学部学科の組織）

第２条　本学に次の学部、学科及び専攻を置く。

学部	学科	専攻
商学部	商学科 経営学科	
経済科学部	現代経済学科 経済情報学科	
人文学部	人間関係学科 教育学科 英語英文学科	社会学専攻
法学部	法律学科	
人間環境学部	人間環境学科	
健康科学部	心理学科 健康栄養学科	
国際コミュニティ学部	国際政治学科 地域行政学科	

（学部、学科の教育研究上の目的）

第２条の２　本学の学部、学科の教育研究上の目的は次項以下のとおりとする。

２～３　略

４　人文学部は、現代社会の課題を理解する能力の育成、コミュニケーション能力の育成、そして情報リテラシーの習得を通して、地球的視野を持つ人材の養成と個性的、自律的な人間を育成することを目的とする。

(1)　人間関係学科社会学専攻は、「集団としての人間」の営為を理解するための社会学的な方法及び理論に関する教育を行い、人間社会の未来を切り開く知識と実践的応用力を備えた人材を養成することを目的とする。

(2)～(3)　略

５～８　略

（入学定員及び収容定員）

第３条　本学の学部別、学科別及び専攻別の入学定員並びに収容定員は、次のとおりとする。

学部	学科	専攻等	入学定員	収容定員
商学部	商学科		155名	620名
	経営学科		140名	560名
経済科学部	現代経済学科		115名	460名
	経済情報学科		115名	460名
人文学部	人間関係学科	社会学専攻	60名	240名
	教育学科		100名	400名
	英語英文学科		110名	440名

法学部	法律学科	195名	780名
人間環境学部	人間環境学科	115名	460名
健康科学部	心理学科	80名	320名
	健康栄養学科	80名	320名
国際コミュニティ学部	国際政治学科	75名	300名
	地域行政学科	75名	300名

第４条～第８条　略

（授業科目区分、修得単位数及び卒業所要単位数）

第９条　本学学部・学科の授業科目の区分、修得単位数及び卒業所要単位数を別表１のとおり定める。

２　略

（開設授業科目及び単位数）

第10条　本学学部・学科の授業科目の名称及び単位数は、別表２のとおりとする。

２　略

第11条～第15条　略

（教職課程）

第16条　教育職員の免許状の授与を受けようとする者は、所定の授業科目を修得しなければならない。

２　本学において取得できる教育職員免許状の種類及び教科は、次のとおりである。

学部	学科	免許状の種類及び教科
商学部	商学科	略
	経営学科	略
人文学部	社会学科	中学校教諭一種免許状　社会 高等学校教諭一種免許状　地理歴史 高等学校教諭一種免許状　公民
	教育学科	略
	英語英文学科	略
国際コミュニティ学部	国際政治学科	略
	地域行政学科	略

３　略

（資格課程）

第16条の２　１～３　略

４　社会教育主事となる資格を得ようとする者は、人文学部社会学科、同教育学科又は国際コミュニティ学部地域行政学科に入学し、所定の授業科目を修得しなければならない。

５　社会調査士となる資格を得ようとする者は、人文学部社会学科に入学し、所定の授業科目を修得しなければならない。

６　前各項に関する履修方法については、別にこれを定め

法学部	法律学科		195名	780名
人間環境学部	人間環境学科		115名	460名
健康科学部	心理学科		80名	320名
	健康栄養学科		80名	320名
国際コミュニティ学部	国際政治学科		75名	300名
	地域行政学科		75名	300名

第４条～第８条　略

（授業科目区分、修得単位数及び卒業所要単位数）

第９条　本学学部・学科の授業科目の区分、修得単位数及び卒業所要単位数を別表１のとおり定める。

２　略

（開設授業科目及び単位数）

第10条　本学学部・学科の授業科目の名称及び単位数は、別表２のとおりとする。

２　略

第11条～第15条　略

（教職課程）

第16条　教育職員の免許状の授与を受けようとする者は、所定の授業科目を修得しなければならない。

２　本学において取得できる教育職員免許状の種類及び教科は、次のとおりである。

学部	学科	免許状の種類及び教科
商学部	商学科	略
	経営学科	略
人文学部	人間関係学科	中学校教諭一種免許状　社会
	社会学専攻	高等学校教諭一種免許状　地理歴史 高等学校教諭一種免許状　公民
	教育学科	略
	英語英文学科	略
国際コミュニティ学部	国際政治学科	略
	地域行政学科	略

３　略

（資格課程）

第16条の２　１～３　略

４　社会教育主事となる資格を得ようとする者は、人文学部人間関係学科、同教育学科又は国際コミュニティ学部地域行政学科に入学し、所定の授業科目を修得しなければならない。

５　前各項に関する履修方法については、別にこれを定め

る。

7　保育士資格取得のための課程の定員については、別表３のとおり定める。

第17条～第19条　略

（学位の授与）

第20条　本学を卒業した者に対し、次のとおり学士の学位を授与する。

学部	学科	学位
商学部	商学科 経営学科	学士（商学） 学士（経営学）
経済科学部	現代経済学科 経済情報学科	学士（経済科学） 学士（経済科学）
人文学部	社会学科 教育学科 英語英文学科	学士（社会学） 学士（教育学） 学士（文学）
法学部	法律学科	学士（法学）
人間環境学部	人間環境学科	学士（人間環境学）
健康科学部	心理学科 健康栄養学科	学士（心理学） 学士（栄養学）
国際コミュニティ学部	国際政治学科 地域行政学科	学士（国際政治学） 学士（地域行政学）

２　略

第21条～第55条　略

附　則

１～80　略

81　この学則は、第2条、第2条の2第4項第1号、第3条、第9条第1項別表1、第10条第1項別表2、第16条第2項、第16条の2第4項、第20条第1項を改正し、第16条の2に第5項を追加し以下項数を繰り下げ、2024（令和６）年４月１日から施行する。ただし、2023（令和５）年度以前に入学した者については、改正後の規定にかかわらず、なお従前の例による。また、人文学部人間関係学科社会学専攻は、人文学部社会学科設置に伴い、2024年度入学生からの学生募集を停止する。これにより、人文学部人間関係学科社会学専攻及び人文学部英語英文学科の収容定員は、次のとおりとする。

（人文学部人間関係学科社会学専攻）

学部	学科	専攻	収容定員			
			2024（令和6）年度	2025（令和7）年度	2026（令和8）年度	2027（令和9）年度
人文学部	人間関係学科	社会学専攻	180名	120名	60名	0名

（人文学部英語英文学科）

学部	学科	収容定員		
		2024	2025	2026

る。

6　保育士資格取得のための課程の定員については、別表３のとおり定める。

第17条～第19条　略

（学位の授与）

第20条　本学を卒業した者に対し、次のとおり学士の学位を授与する。

学部	学科	学位
商学部	商学科 経営学科	学士（商学） 学士（経営学）
経済科学部	現代経済学科 経済情報学科	学士（経済科学） 学士（経済科学）
人文学部	人間関係学科 教育学科 英語英文学科	学士（文学） 学士（教育学） 学士（文学）
法学部	法律学科	学士（法学）
人間環境学部	人間環境学科	学士（人間環境学）
健康科学部	心理学科 健康栄養学科	学士（心理学） 学士（栄養学）
国際コミュニティ学部	国際政治学科 地域行政学科	学士（国際政治学） 学士（地域行政学）

２　略

第21条～第55条　略

附　則

１～80　略

		(令和6)年度	(令和7)年度	(令和8)年度
人文学部	英語英文学科	430名	420名	410名

別表１（第９条第１項関係）

(1) 商学部商学科

科目区分	修得単位数	卒業所要単位数
全学共通科目	20単位以上	124単位以上
主専攻科目	78単位以上	
自由選択科目		

(2) 商学部経営学科

科目区分	修得単位数	卒業所要単位数
全学共通科目	20単位以上	124単位以上
主専攻科目	78単位以上	
自由選択科目		

(3) 経済科学部現代経済学科

科目区分	修得単位数	卒業所要単位数
全学共通科目	24単位以上	124単位以上
主専攻科目	78単位以上	
自由選択科目		

(4) 経済科学部経済情報学科

科目区分	修得単位数	卒業所要単位数
全学共通科目	24単位以上	124単位以上
主専攻科目	78単位以上	
自由選択科目		

(5) 人文学部社会学科

科目区分	修得単位数	卒業所要単位数
全学共通科目	20単位以上	124単位以上
主専攻科目	84単位以上	
自由選択科目		

(6) 人文学部教育学科

科目区分	修得単位数	卒業所要単位数
全学共通科目	20単位以上	124単位以上

別表１（第９条第１項関係）

(1) 商学部商学科

科目区分	修得単位数	卒業所要単位数
修道スタンダード科目	6単位以上	124単位以上
グローバル科目		
共通教育科目	22単位以上	
主専攻科目	78単位以上	
自由選択科目		

(2) 商学部経営学科

科目区分	修得単位数	卒業所要単位数
修道スタンダード科目	6単位以上	124単位以上
グローバル科目		
共通教育科目	22単位以上	
主専攻科目	78単位以上	
自由選択科目		

(3) 経済科学部現代経済学科

科目区分	修得単位数	卒業所要単位数
修道スタンダード科目	6単位以上	124単位以上
グローバル科目		
共通教育科目	22単位以上	
主専攻科目	78単位以上	
自由選択科目		

(4) 経済科学部経済情報学科

科目区分	修得単位数	卒業所要単位数
修道スタンダード科目	6単位以上	124単位以上
グローバル科目		
共通教育科目	22単位以上	
主専攻科目	78単位以上	
自由選択科目		

(5) 人文学部人間関係学科

科目区分	修得単位数	卒業所要単位数
修道スタンダード科目	6単位以上	124単位以上
グローバル科目		
共通教育科目	22単位以上	
主専攻科目	78単位以上	
自由選択科目		

(6) 人文学部教育学科

科目区分	修得単位数	卒業所要単位数
修道スタンダード	6単位以上	124単位以上

主専攻科目	84単位以上	
自由選択科目		

(7) 人文学部英語英文学科

科目区分	修得単位数	卒業所要単位数
全学共通科目	20単位以上	124単位以上
主専攻科目	84単位以上	
自由選択科目		

(8) 法学部法律学科

科目区分	修得単位数	卒業所要単位数
全学共通科目	24単位以上	124単位以上
主専攻科目	64単位以上	
自由選択科目		

(9) 人間環境学部人間環境学科

科目区分	修得単位数	卒業所要単位数
全学共通科目	20単位以上	124単位以上
主専攻科目	66単位以上	
自由選択科目		

(10) 健康科学部心理学科

科目区分	修得単位数	卒業所要単位数
全学共通科目	24単位以上	124単位以上
主専攻科目	78単位以上	
自由選択科目		

(11) 健康科学部健康栄養学科

科目区分	修得単位数	卒業所要単位数
全学共通科目	20単位以上	124単位以上
主専攻科目	93単位以上	
自由選択科目		

(12) 国際コミュニティ学部国際政治学科

科目区分	修得単位数	卒業所要単位数
全学共通科目	20単位以上	124単位以上

科目		
グローバル科目		
共通教育科目	22単位以上	
主専攻科目	78単位以上	
自由選択科目		

(7) 人文学部英語英文学科

科目区分	修得単位数	卒業所要単位数
修道スタンダード科目	6単位以上	124単位以上
グローバル科目		
共通教育科目	18単位以上	
主専攻科目	78単位以上	
自由選択科目		

(8) 法学部法律学科

科目区分	修得単位数	卒業所要単位数
修道スタンダード科目	6単位以上	124単位以上
グローバル科目		
共通教育科目	22単位以上	
主専攻科目	64単位以上	
自由選択科目		

(9) 人間環境学部人間環境学科

科目区分	修得単位数	卒業所要単位数
修道スタンダード科目	6単位以上	124単位以上
グローバル科目		
共通教育科目	22単位以上	
主専攻科目	62単位以上	
自由選択科目		

(10) 健康科学部心理学科

科目区分	修得単位数	卒業所要単位数
修道スタンダード科目	6単位以上	124単位以上
グローバル科目		
共通教育科目	22単位以上	
主専攻科目	78単位以上	
自由選択科目		

(11) 健康科学部健康栄養学科

科目区分	修得単位数	卒業所要単位数
修道スタンダード科目	6単位以上	124単位以上
グローバル科目		
共通教育科目	22単位以上	
主専攻科目	93単位以上	
自由選択科目		

(12) 国際コミュニティ学部国際政治学科

科目区分	修得単位数	卒業所要単位数
修道スタンダード	6単位以上	124単位以上

主専攻科目	70単位以上	
自由選択科目		

(13)国際コミュニティ学部地域行政学科

科目区分	修得単位数	卒業所要単位数
全学共通科目	20単位以上	124単位以上
主専攻科目	70単位以上	
自由選択科目		

別表２（第10条第１項関係）

（その１）全学部共通

科目区分	授業科目の名称	単位数
全学共通科目	広島修道大学と広島	1
	広島と平和	1
	広島の防災と法務	2
	日本語Ⅰ	1
	日本語Ⅱ	1
	日本語Ⅲ	1
	日本語Ⅳ	1
	日本語Ⅴ	1
	日本語Ⅵ	1
	日本語Ⅶ	1
	日本語Ⅷ	1
	アカデミック日本語	2
	ビジネス日本語	2
	漢字入門Ⅰ	1
	漢字入門Ⅱ	1
	留学生アカデミックスキル	2
	留学生キャリア形成	2
	留学スタートアップ	1
	留学フォローアップ	1
	中長期スタディ・アブロード（入門）	2
	中長期スタディ・アブロード（事前）	2
	中長期スタディ・アブロード（事後）	1
	外国語としての日本語	2
	Multicultural Project	2
	多文化交流プロジェクト	2
	言語文化特殊講義Ⅰ	2
	言語文化特殊講義Ⅱ	2
	ことばと社会	2
	英語Ⅰ(リーディング・ライティング)	1
	英語Ⅱ(リーディング・ライティング)	1
	英語Ⅲ(リスニング・スピーキング)	1
	英語Ⅳ(リスニング・スピーキング)	1
	アクティブ・イングリッシュⅠ	1

科目		
グローバル科目	22単位以上	
共通教育科目		
主専攻科目	70単位以上	
自由選択科目		

(13)国際コミュニティ学部地域行政学科

科目区分	修得単位数	卒業所要単位数
修道スタンダード科目	6単位以上	124単位以上
グローバル科目	22単位以上	
共通教育科目		
主専攻科目	70単位以上	
自由選択科目		

別表２（第10条第１項関係）

（その１）全学部共通

科目区分	授業科目の名称	単位数
修道スタンダード科目	修大基礎講座	2
	初年次セミナー	2
	情報処理入門Ⅰ	2
	情報処理入門Ⅱ	2
	情報応用	2
	大学生活とキャリア形成	2
	広島の事業承継を学ぶ	2
グローバル科目	日本語Ⅰ	1
	日本語Ⅱ	1
	日本語Ⅲ	1
	日本語Ⅳ	1
	日本語Ⅴ	1
	日本語Ⅵ	1
	日本語Ⅶ	1
	日本語Ⅷ	1
	アカデミック日本語	2
	ビジネス日本語	2
	日本研究	2
	留学スタートアップ	1
	留学英語入門	2
	英語圏留学入門	1
	アジア圏留学入門	1
	外国語としての日本語	2
	留学フォローアップ	1
	グローバル特講Ⅰ	2
	グローバル特講Ⅱ	1
	グローバル特講Ⅲ	2
	グローバル特講Ⅳ	1
	海外研修A	1
	海外研修B	2
	海外研修C	3
	海外研修D	4
	海外研修E	5
	Multicultural　Project	2

	アクティブ・イングリッシュⅡ	1
	英語ライティングⅠ	2
	英語ライティングⅡ	2
	英語ライティングⅢ	2
	英語ライティングⅣ	2
	英語聴解Ⅰ	2
	英語聴解Ⅱ	2
	英語聴解Ⅲ	2
	英語聴解Ⅳ	2
	英語読解Ⅰ	2
	英語読解Ⅱ	2
	英語読解Ⅲ	2
	英語読解Ⅳ	2
	アカデミック・リーディングⅠ	2
	アカデミック・リーディングⅡ	2
	英語コミュニケーション入門Ⅰ	1
	英語コミュニケーション入門Ⅱ	1
	英語コミュニケーションⅠ	2
	英語コミュニケーションⅡ	2
	英語コミュニケーションⅢ	2
	英語コミュニケーションⅣ	2
	英語コミュニケーションⅤ	2
	英語コミュニケーションⅥ	2
	英語文法入門Ⅰ	1
	英語文法入門Ⅱ	1
	英語語法Ⅰ	2
	英語語法Ⅱ	2
	英語語法Ⅲ	2
	英語語法Ⅳ	2
	資格英語入門Ⅰ	1
	資格英語入門Ⅱ	1
	資格英語Ⅰ	2
	資格英語Ⅱ	2
	資格英語Ⅲ	2
	資格英語Ⅳ	2
	資格英語Ⅴ	2
	資格英語Ⅵ	2
	英語プレゼンテーションⅠ	2
	英語プレゼンテーションⅡ	2
	ドイツ語Ⅰ	1
	ドイツ語Ⅱ	1
	ドイツ語Ⅲ	1
	ドイツ語Ⅳ	1
	フランス語Ⅰ	1
	フランス語Ⅱ	1
	フランス語Ⅲ	1
	フランス語Ⅳ	1
	スペイン語Ⅰ	1
	スペイン語Ⅱ	1
	スペイン語Ⅲ	1
	スペイン語Ⅳ	1

	多文化交流プロジェクト	2
共通教育科目	哲学	2
	倫理学	2
	美学	2
	芸術学	2
	日本文学	2
	西洋文学	2
	日本語学	2
	心理学	2
	文化論	2
	文化人類学	2
	日本史	2
	東洋史	2
	西洋史	2
	地理学	2
	社会学	2
	法学	2
	政治学	2
	経済学	2
	統計学	2
	情報社会論	2
	物理学	2
	化学	2
	生物学	2
	環境科学	2
	数学	2
	教養講義	2
	総合教養講義a	2
	総合教養講義b	2
	総合教養コース	2
	英語リスニングⅠ	1
	英語リスニングⅡ	1
	英語リスニングⅢ	1
	英語リスニングⅣ	1
	英語リスニングⅤ	1
	英語リスニングⅥ	1
	英語リーディングⅠ	1
	英語リーディングⅡ	1
	英語リーディングⅢ	1
	英語リーディングⅣ	1
	英語リーディングⅤ	1
	英語リーディングⅥ	1
	アクティブ・イングリッシュⅠ	1
	アクティブ・イングリッシュⅡ	1
	実用英語実習Ⅰ	1
	実用英語実習Ⅱ	1
	英語ライティング研究Ⅰ	2
	英語ライティング研究Ⅱ	2
	英語ライティング研究Ⅲ	2
	英語ライティング研究Ⅳ	2
	英語読解研究Ⅰ	2

	中国語Ⅰ	1
	中国語Ⅱ	1
	中国語Ⅲ	1
	中国語Ⅳ	1
	韓国・朝鮮語Ⅰ	1
	韓国・朝鮮語Ⅱ	1
	韓国・朝鮮語Ⅲ	1
	韓国・朝鮮語Ⅳ	1
	中級外国語Ⅰ	2
	中級外国語Ⅱ	2
	上級外国語Ⅰ	2
	上級外国語Ⅱ	2
	海外研修A	1
	海外研修B	2
	海外研修C	3
	海外研修D	4
	海外研修E	5
	哲学	2
	倫理学	2
	美学	2
	芸術学	2
	西洋文学	2
	日本語学	2
	心理学	2
	文化論	2
	文化人類学	2
	西洋の美術	2
	日本近世文学	2
	西洋文化論	2
	人間と生命の倫理学	2
	人生の探究としての倫理学	2
	愛の倫理学的考察	2
	現代日本語の特質	2
	ドイツ文学	2
	江戸時代の衣服	2
	日本語と英語	2
	科学史	2
	日本文学	2
	西洋の図像学	2
	キリスト教倫理	2
	芸術文化学	2
	江戸時代の服飾	2
	日本史	2
	西洋史	2
	地理学	2
	社会学	2
	法学	2
	政治学	2
	経済学	2
	情報社会論	2
	日本近代史	2

	英語読解研究Ⅱ	2
	英語読解研究Ⅲ	2
	英語読解研究Ⅳ	2
	英語聴解研究Ⅰ	2
	英語聴解研究Ⅱ	2
	英語聴解研究Ⅲ	2
	英語聴解研究Ⅳ	2
	英語コミュニケーション研究Ⅰ	2
	英語コミュニケーション研究Ⅱ	2
	英語コミュニケーション研究Ⅲ	2
	英語コミュニケーション研究Ⅳ	2
	英語コミュニケーション研究Ⅴ	2
	英語コミュニケーション研究Ⅵ	2
	英語語法研究Ⅰ	2
	英語語法研究Ⅱ	2
	英語語法研究Ⅲ	2
	英語語法研究Ⅳ	2
	資格英語研究Ⅰ	2
	資格英語研究Ⅱ	2
	資格英語研究Ⅲ	2
	資格英語研究Ⅳ	2
	資格英語研究Ⅴ	2
	資格英語研究Ⅵ	2
	英語プレゼンテーション研究Ⅰ	2
	英語プレゼンテーション研究Ⅱ	2
	ドイツ語Ⅰ	1
	ドイツ語Ⅱ	1
	ドイツ語Ⅲ	1
	ドイツ語Ⅳ	1
	フランス語Ⅰ	1
	フランス語Ⅱ	1
	フランス語Ⅲ	1
	フランス語Ⅳ	1
	スペイン語Ⅰ	1
	スペイン語Ⅱ	1
	スペイン語Ⅲ	1
	スペイン語Ⅳ	1
	中国語Ⅰ	1
	中国語Ⅱ	1
	中国語Ⅲ	1
	中国語Ⅳ	1
	韓国・朝鮮語Ⅰ	1
	韓国・朝鮮語Ⅱ	1
	韓国・朝鮮語Ⅲ	1
	韓国・朝鮮語Ⅳ	1
	言語と文化Ⅰ	2
	言語と文化Ⅱ	2
	言語と文化Ⅲ	2
	言語と文化Ⅳ	2
	上級外国語Ⅰ	2
	上級外国語Ⅱ	2

	日本近現代史	2
	西洋中近世史	2
	生活の中の地理学	2
	社会学のものの見方と考え方	2
	現代経済学	2
	情報環境論	2
	政党と選挙の政治学	2
	歴史と社会	2
	歴史人類学	2
	中国の歴史と社会	2
	近代日本と戦争	2
	資産運用の基礎	2
	地方行政と法	2
	事例で学ぶ民法	2
	現代社会と企業法	2
	国際社会と法	2
	現代社会と刑事法	2
	メディア論	2
	社会保障論	2
	地政学	2
	化学	2
	生物学	2
	環境科学	2
	数学	2
	応用数学	2
	遺伝学の基礎	2
	公衆衛生学	2
	宇宙と物質と生命の科学	2
	自然科学と技術入門	2
	動物の自然史と分類	2
	栄養と健康	2
	健康科学論	2
	運動科学論	2
	健康科学演習	2
	運動科学演習	2
	健康スポーツ実習	1
	運動スポーツ実習	1
	野外運動実習Ⅰ	1
	野外運動実習Ⅱ	1
	大学生活とキャリア	1
	インターンシップ入門	1
	キャリアビジョンとキャリア形成	2
	広島の事業承継を学ぶ	2
	データサイエンス概論	2
	情報処理入門	2
	統計学	2
	情報化社会と人間	2
	情報と知能	2

（その２）～（その３）　略

（その４）人文学部

⑴　社会学科授業科目

	健康科学論	2
	運動科学論	2
	健康科学演習	2
	運動科学演習	2
	健康スポーツ実習	1
	運動スポーツ実習	1
	野外運動実習Ⅰ	1
	野外運動実習Ⅱ	1

（その２）～（その３）　略

（その４）人文学部

⑴　人間関係学科社会学専攻授業科目

科目区分	授業科目の名称	単位数
主専攻科目	現代社会学	2
	差別問題論	2
	ヒロシマ文化論Ⅰ	2
	ヒロシマ文化論Ⅱ	2
	ジェンダー論	2
	女の人間学	2
	比較社会論	2
	共生社会論	2
	ボランティア論	2
	社会文化体験演習	2
	海外体験演習	2
	Media English Ⅰ	2
	Media English Ⅱ	2
	Business English Ⅰ	2
	Business English Ⅱ	2
	環境文学論	2
	物語と歴史	2
	教育文化論	2
	芸術文化論	2
	社会の中の言語	2
	日本文化史Ⅰ	2
	日本文化史Ⅱ	2
	日本文化論	2
	日本文学演習Ⅰ	2
	日本文学演習Ⅱ	2
	日本史演習Ⅰ	2
	日本史演習Ⅱ	2
	日本古典文学論	2
	西洋文化史	2
	西洋文化史演習	2
	社会学基礎講座	1
	社会学研究入門Ⅰ	2
	社会学研究入門Ⅱ	2
	社会学方法論	2
	社会学概論	2
	社会学理論	2
	応用社会学	2
	コミュニケーション論	2
	社会意識論	2
	感情社会学	2
	比較社会学	2
	社会学研究法	2
	アニメ社会学	2
	クールジャパン現象研究	2
	犯罪社会学	2
	エリア・スタディーズ	2
	ボーダー・スタディーズ	2
	国際社会学Ⅰ	2
	国際社会学Ⅱ	2
	現代社会論	2

科目区分	授業科目の名称	単位数
主専攻科目	現代社会学	2
	差別問題論	2
	ヒロシマ文化論Ⅰ	2
	ヒロシマ文化論Ⅱ	2
	ジェンダー論	2
	女の人間学	2
	比較社会論	2
	共生社会論	2
	ボランティア論	2
	Media English Ⅰ	2
	Media English Ⅱ	2
	Business English Ⅰ	2
	Business English Ⅱ	2
	日本文化史Ⅰ	2
	日本文化史Ⅱ	2
	西洋文化史	2
	社会学概論	2
	社会学理論	2
	感情社会学	2
	アニメ社会学	2
	クールジャパン現象研究	2
	エリア・スタディーズ	2
	ボーダー・スタディーズ	2
	国際社会学A	2
	国際社会学B	2

	産業社会学	2		産業社会学	2
	労働社会学	2		労働社会学	2
	カルチュラル・スタディーズ	2			
	文化社会学	2			
	消費社会論	2			
	感情労働論	2		感情労働論	2
	親密性の社会学	2		親密性の社会学	2
	性現象論	2		性現象論	2
	クィア・スタディーズ	2		クィア・スタディーズ	2
	都市社会学	2		都市社会学	2
	地域社会学	2		地域社会学	2
	サブカルチャーの社会学	2		サブカルチャー論A	2
	ポップカルチャーの社会学	2		サブカルチャー論B	2
	宗教社会論	2		宗教社会論	2
	伝統文化論	2		伝統文化論	2
	マイグレーション・スタディーズ	2			
	社会問題の社会学	2			
	表象文化論	2		表象文化論	2
	音楽社会学	2			
	現代社会学特殊講義	2			
	社会学特殊講義	2			
	マスメディア論Ⅰ	2		メディア論Ⅰ	2
	マスメディア論Ⅱ	2		メディア論Ⅱ	2
	ジャーナリズム論Ⅰ	2		ジャーナリズム論Ⅰ	2
	ジャーナリズム論Ⅱ	2		ジャーナリズム論Ⅱ	2
	社会安全政策論	2		社会安全政策論	2
	社会構想と公共政策	2		公共政策論	2
	社会調査概論	2			
	社会調査方法論	2			
	社会調査論Ⅰ	2			
	社会調査論Ⅱ	2			
	量的社会調査法	2			
	質的社会調査法	2			
	コミュニケーション論演習	2			
	アニメ社会学演習	2		アニメ社会学演習	2
	クールジャパン現象研究演習	2		クールジャパン現象研究演習	2
	社会意識論演習	2			
	犯罪社会学演習	2			
	国際社会学演習	2			
	エリア・スタディーズ演習	2		エリア・スタディーズ演習	2
	ボーダー・スタディーズ演習	2		ボーダー・スタディーズ演習	2
	現代社会論演習	2			
	カルチュラル・スタディーズ演習	2			
	文化社会学演習	2			
	応用社会学演習	2			
	労働社会学演習	2			
	感情社会学演習	2		感情社会学演習	2
	感情労働論演習	2		感情労働論演習	2
	親密性の社会学演習	2		親密性の社会学演習	2
	性現象論演習	2		性現象論演習	2
	クィア・スタディーズ演習	2		クィア・スタディーズ演習	2

	産業社会学演習	2			
	消費社会論演習	2			
	宗教社会論演習	2			
	伝統文化論演習	2			
	マイグレーション・スタディーズ演習	2			
	社会問題の社会学演習	2			
	比較社会学演習	2			
	量的社会調査演習	4			
	質的社会調査演習	4			
	社会学文献講読演習Ⅰ	2			
	社会学文献講読演習Ⅱ	2			
	社会学文献講読演習Ⅲ	2			
	社会学文献講読演習Ⅳ	2			
	社会学英書講読演習Ⅰ	2			
	社会学英書講読演習Ⅱ	2			
	社会学英書講読演習Ⅲ	2			
	社会学英書講読演習Ⅳ	2			
	社会学特論演習	2			
	卒業研究	4		卒業研究	4
	応用社会学特殊演習	2			
	マスメディア論特殊演習	2		メディア論特殊演習	2
	ジャーナリズム論特殊演習	2		ジャーナリズム論特殊演習	2
	社会安全政策論特殊演習	2		社会安全政策論特殊演習	2
	情報リテラシー	2		情報リテラシー	2
	社会学情報処理Ⅰ	2		社会学情報処理Ⅰ	2
	社会学情報処理Ⅱ	2		社会学情報処理Ⅱ	2
	社会学情報処理Ⅲ	2		社会学情報処理Ⅲ	2
	社会学情報処理Ⅳ	2		社会学情報処理Ⅳ	2
	社会学情報処理Ⅴ	2		社会学情報処理Ⅴ	2
	社会学情報処理特殊講義Ⅰ	2		社会学情報処理特殊講義Ⅰ	2
	社会学情報処理特殊講義Ⅱ	2		社会学情報処理特殊講義Ⅱ	2
	社会学情報処理特殊講義Ⅲ	2		社会学情報処理特殊講義Ⅲ	2
	社会学情報処理特殊講義Ⅳ	2		社会学情報処理特殊講義Ⅳ	2
	社会学情報処理特殊講義Ⅴ	2		社会学情報処理特殊講義Ⅴ	2
	Web調査論	2		Web調査論	2
	社会学情報処理特殊演習Ⅰ	2		社会学情報処理特殊演習Ⅰ	2
	社会学情報処理特殊演習Ⅱ	2		社会学情報処理特殊演習Ⅱ	2
	削る			憲法Ⅰ	2
	削る			憲法Ⅱ	2
	削る			自然科学史	2
	削る			English Communication Ⅰ	2
	削る			English Communication Ⅱ	2
	削る			人文学部特別講義	2
	削る			人文学部特別演習	2
	削る			インターンシップ	2
	削る			長期インターンシップ事前・事後指導	1
	削る			長期インターンシップA	4
	削る			長期インターンシップB	8
	削る			心理学概論Ⅰ	2
	削る			心理学概論Ⅱ	2
	削る			人権教育論	2

	削る			教育社会学	2
	削る			教育文化史	2
	削る			海外研修Ⅰ	1
	削る			海外研修Ⅱ	2
	削る			海外研修Ⅲ	3
	削る			海外研修Ⅳ	4
	削る			海外研修Ⅴ	5
	削る			応用社会学演習A	2
	削る			応用社会学演習B	2
	削る			表象文化論演習	2
	削る			社会調査方法論演習	2
	削る			社会調査演習Ⅰ	2
	削る			社会調査演習Ⅱ	2
	削る			社会意識論演習A	2
	削る			社会意識論演習B	2
	削る			犯罪社会学演習A	2
	削る			犯罪社会学演習B	2
	削る			国際社会学演習A	2
	削る			国際社会学演習B	2
	削る			カルチュラル・スタディーズ演習A	2
	削る			カルチュラル・スタディーズ演習B	2
	削る			文化社会学演習A	2
	削る			文化社会学演習B	2
	削る			コミュニケーション論演習A	2
	削る			コミュニケーション論演習B	2
	削る			現代社会論演習A	2
	削る			現代社会論演習B	2
	削る			応用社会学特殊演習Ⅰ	2
	削る			応用社会学特殊演習Ⅱ	2
	削る			異文化リサーチ特殊演習A	2
	削る			異文化リサーチ特殊演習B	2
	削る			社会学特殊演習Ⅰ	2
	削る			社会学特殊演習Ⅱ	2
	削る			最新心理学講義	2
	削る			卒業論文	4
	削る			スポーツ社会学	2
	削る			スポーツ文化論	2
	削る			応用社会学A	2
	削る			応用社会学B	2
	削る			現代社会論A	2
	削る			現代社会論B	2
	削る			社会意識論A	2
	削る			社会意識論B	2
	削る			犯罪社会学A	2
	削る			犯罪社会学B	2
	削る			比較社会学Ⅰ	2
	削る			比較社会学Ⅱ	2
	削る			カルチュラル・スタディーズA	2
	削る			カルチュラル・スタディーズB	2
	削る			文化社会学A	2
	削る			文化社会学B	2

	削る			コミュニケーション論A	2
	削る			コミュニケーション論B	2
	削る			現代社会学特殊講義A	2
	削る			現代社会学特殊講義B	2
	削る			社会学特殊講義A	2
	削る			社会学特殊講義B	2
	削る			社会学特殊研究A	2
	削る			社会学特殊研究B	2
	削る			ライフデザイン論	1
	削る			社会・集団・家族心理学	2
	削る			知覚・認知心理学	2
	削る			発達心理学	2
	削る			進化心理学	2
	削る			学習心理学	2
	削る			臨床心理学概論	2
	削る			司法・犯罪心理学	2
	削る			知覚心理学	2
	削る			神経・生理心理学	2
	削る			乳幼児心理学	2
	削る			学習・言語心理学	2
	削る			集団力学	2
	削る			青年心理学	2
	削る			産業・組織心理学	2
	削る			動機づけ・感情心理学	2
	削る			健康・医療心理学	2
	削る			食行動科学	2
	削る			心理学史	2
	削る			人体の構造と機能及び疾病	2
	削る			ストレスマネジメント	2
	削る			感情・人格心理学	2
	削る			心理療法論	2
	削る			発達臨床心理学	2
	削る			児童福祉論	2
	削る			教育哲学	2
	削る			教育史	2
	削る			教育政策論	2
	削る			生涯学習論Ⅰ	2
	削る			生涯学習論Ⅱ	2
	削る			幼児理解の方法	2
	削る			重複・発達障害概論	2
	削る			教育学特論Ⅰ	2
	削る			教育学特論Ⅱ	2
	削る			教育学特論Ⅲ	2
	削る			教育学特論Ⅳ	2
	削る			教育学特論Ⅴ	2
	削る			教育学特論Ⅵ	2
	削る			教育学特論Ⅶ	1
	削る			教育学特論Ⅷ	1
	削る			教育学特論Ⅸ	1
	削る			教育学特論Ⅹ	1
	削る			社会教育実習	2

	削る	

(2)　～(3)　略

（その５）～（その６）　略

（その７）健康科学部

(1)　心理学科授業科目

科目区分	授業科目の名称	単位数
主専攻科目	心理学統計法Ⅰ	2
	ポジティブ心理学	2
	カウンセリング心理学	2
	削る	
	基礎化学	2
	食育入門	2
	地域食文化論	2
	健康科学部特別講義	2
	卒業論文	4

(2)　健康栄養学科授業科目

科目区分	授業科目の名称	単位数
主専攻科目	心理学統計法Ⅰ	2
	ポジティブ心理学	2
	カウンセリング心理学	2
	削る	
	基礎化学	2
	食育入門	2
	地域食文化論	2
	健康科学部特別講義	2
	卒業ゼミ	2

（その８）　略

（その９）教職・資格課程関連科目

(1)～(3) 略

(4)　人文学部社会学科

授業科目の名称	単位数
生涯学習論Ⅰ	2
現代経済入門Ⅱ	2
憲法Ⅰ	2
憲法Ⅱ	2
社会教育実習	2

(5)　人文学部教育学科

授業科目の名称	単位数
保育原理	2
現代経済入門Ⅱ	2
憲法Ⅰ	2
憲法Ⅱ	2
社会教育実習	2

(6)　人文学部英語英文学科

	学校教育インターンシップ	2

(2)　～(3)　略

（その５）～（その６）　略

（その７）健康科学部

(1)　心理学科授業科目

科目区分	授業科目の名称	単位数
主専攻科目	心理学統計法Ⅰ	2
	ポジティブ心理学	2
	カウンセリング心理学	2
	栄養と健康	2
	基礎化学	2
	食育入門	2
	地域食文化論	2
	健康科学部特別講義	2
	卒業論文	4

(2)　健康栄養学科授業科目

科目区分	授業科目の名称	単位数
主専攻科目	心理学統計法Ⅰ	2
	ポジティブ心理学	2
	カウンセリング心理学	2
	栄養と健康	2
	基礎化学	2
	食育入門	2
	地域食文化論	2
	健康科学部特別講義	2
	卒業ゼミ	2

（その８）　略

（その９）教職・資格課程関連科目

(1)～(3) 略

(4)　人文学部人間関係学科社会学専攻

授業科目の名称	単位数
生涯学習論Ⅰ	2
現代経済入門Ⅱ	2
社会教育実習	2

(5)　人文学部教育学科

授業科目の名称	単位数
保育原理	2
現代経済入門Ⅱ	2
社会教育実習	2

<table>
<tr>
<td>
<table>
<tr><th>授業科目の名称</th><th>単位数</th></tr>
<tr><td>憲法Ⅰ</td><td>2</td></tr>
<tr><td>憲法Ⅱ</td><td>2</td></tr>
</table>
(7)　人間環境学部人間環境学科　略
(8)　健康科学部健康栄養学科　略
(9)　国際コミュニティ学部地域行政学科　略
別表３（第16条の２第６項関係）　略
</td>
<td>
(6)　人間環境学部人間環境学科　略
(7)　健康科学部健康栄養学科　略
(8)　国際コミュニティ学部地域行政学科　略
別表３（第16条の２第６項関係）　略
</td>
</tr>
</table>

学則の変更の趣旨等を記載した書類

ア．学則変更（収容定員変更）の内容 2
イ．学則変更（収容定員変更）の必要性 2
ウ．学則変更（収容定員変更）に伴う教育課程等の変更内容 4
（ア）教育課程の変更内容 5
（イ）教育方法及び履修指導方法の変更内容 7
（ウ）教員組織の変更内容 8
（エ）大学全体の施設・設備の変更内容 9

学則の変更の趣旨等を記載した書類

ア．学則変更（収容定員変更）の内容

広島修道大学学則第 2 条（学部学科の組織）の変更により人文学部に社会学科を設置する。広島修道大学学則第 3 条（入学定員及び収容定員）に定める人文学部人間関係学科について、次表のとおり変更する。

広島修道大学学則新旧対照表（抜粋）

新

（入学定員及び収容定員）

第３条　本学の学部別及び学科別の入学定員並びに収容定員は、次のとおりとする。

学部	学科	入学定員	収容定員
商学部	商学科	155名	620名
	経営学科	140名	560名
経済科学部	現代経済学科	115名	460名
	経済情報学科	115名	460名
人文学部	社会学科	95名	380名
	教育学科	100名	400名
	英語英文学科	100名	400名
法学部	法律学科	195名	780名
人間環境学部	人間環境学科	115名	460名
健康科学部	心理学科	80名	320名
	健康栄養学科	80名	320名
国際コミュニティ学部	国際政治学科	75名	300名
	地域行政学科	75名	300名

以下　略

旧

（入学定員及び収容定員）

第３条　本学の学部別、学科別及び専攻別の入学定員並びに収容定員は、次のとおりとする。

学部	学科	専攻等	入学定員	収容定員
商学部	商学科		155名	620名
	経営学科		140名	560名
経済科学部	現代経済学科		115名	460名
	経済情報学科		115名	460名
人文学部	人間関係学科	社会学専攻	60名	240名
	教育学科		100名	400名
	英語英文学科		110名	440名
法学部	法律学科		195名	780名
人間環境学部	人間環境学科		115名	460名
健康科学部	心理学科		80名	320名
	健康栄養学科		80名	320名
国際コミュニティ学部	国際政治学科		75名	300名
	地域行政学科		75名	300名

以下　略

第 634 回学園理事会（2022 年 11 月 28 日開催）資料より抜粋

イ．学則変更（収容定員変更）の必要性

本学人文学部は、昭和 48 年、英語英文学科と人間関係学科の 2 学科で開設した。人間関係学科は心理学、社会学、教育学の 3 専攻から成る学科としてスタートした。以来、本学の教育目標に基づいた教育を展開し、地域社会の多様な分野へ多くの人材を送り出してきた。平成 27 年に学校法人修道学園は、学校法人鈴峯学園と合併し、平成 28 年 4 月に人間関係学科教育学専攻を廃止し、その教員組織を移行・拡充して人文学部に教育学科として開設した。そして、平成 29 年 4 月に人間関係学科心理学専攻を廃止し、その教員組織を移行・拡

充し、健康科学部心理学科として開設した。その結果、平成 29 年 4 月より人間関係学科は社会学専攻のみとなり、一学科一専攻という組織の配置となっている。

人文学部人間関係学科社会学専攻は、これまで安定した志願者数及び多岐にわたる就職実績を維持している。今後もさらなる地域の要請に応えるため、専攻から学科とし、定員を 35 名増員する。併せて、入学定員・収容定員の適正な管理および少人数教育のさらなる充実のため、人文学部英語英文学科の定員を 10 名減員し、大学全体の入学定員 1,440 名、収容定員 5,760 名に変更する。

中央教育審議会の平成 30 年答申『2040 年に向けた高等教育のグランドデザイン』[以下『中教審』]によれば、21 世紀型スキルや汎用的能力をめぐる OECD における議論「将来においても陳腐化しない普遍的なコンピテンシー」には、「①テクノロジーが急速かつ継続的に変化しており、これを使いこなすためには、一回修得すれば終わりというものではなく、変化への適応力が必要となること、②社会は個人間の相互依存を深めつつ、より複雑化・個別化していることから、自らとは異なる文化等を持った他者との接触が増大すること、③グローバリズムは新しい形の相互依存を創出しており、人間の行動は、個人が属する地域や国をはるかに超え、例えば経済競争や環境問題に左右されること」が背景にあると指摘され、「予測不可能な時代の到来を見据えた場合」、「思考力、判断力、表現力の基盤の上に、幅広い教養を身に付け、高い公共性・倫理性を保持しつつ、時代の変化に合わせて積極的に社会を支え、論理的思考力を持って社会を改善していく資質を有する人材」「21 世紀型市民」が多く誕生し、活躍することが必要だとされている。

社会学は、西欧を中心とした近代化への移行期＝大きな社会変動の転換期に成立した学問である。既存の社会システム・規範・秩序が崩壊し、近代社会が理想とした「人間の平等と自由」を達成するための「個人と社会」の関係が混迷する中で、対立や矛盾が顕わとなり、社会の不確実性に直面した人々が抱える社会不安を背景として、次から次へと生起する新たな問題の解決を探るという問題意識を背負って、社会学は登場した。これまで社会学は、それぞれ生活世界を有する主体としての個々人の意識・価値観や行為へと焦点を当てる一方で、個々に還元されない集合体としての組織・制度・システムや集団意識が織り成す「社会」「社会現象」を研究対象とする独自の学問体系を築き上げてきた。

現代社会は、西欧近代化への移行期よりも大規模かつ急激な社会変動に直面している。世界経済のグローバル化による資源の争奪や貧富の格差の拡大、ジェノサイドや人権侵害、領土をめぐる国際的緊張の高まり、地球規模の自然環境の破壊や気候変動など、多くの課題に直面している。ジェンダーやセクシュアリティをめぐる差別、雇用の不安定化やメンタルヘルスなど、人々の生活世界に密接に関わる問題も、一国内にとどまることなく、グローバル社会と関連づけて考察すべき課題となっている。

とりわけても、Covid-19 Pandemic は、人類社会全体を捲き込み、イデオロギーや政治・経済体制の違いを超えて、各国家による対応が一斉に実施され、（感染者数や死者、ワクチンの確保から摂取率などを含めて）それぞれの国家政策がグローバルな規模で問われ、国民

国家の枠に囚われない連携をさぐることが重要な課題となっている。そして、グローバル化による急激な社会変動は、Covid-19 Pandemic によって、さらに急速になりつつある。また、近代社会が理想とした「平等と自由」は、格差の拡大とその顕在化、個人の自由制限をめぐって、新たな課題に直面している。

社会的現実を解明する社会学は、社会の変化に応じて生起する社会問題を認識・理解するだけでなく、社会問題の解決へ向けた制度設計を提示していく学問でもあり、「誰一人として取り残さない(leave no one behind)」という考え方の下、国連が提唱する持続可能な開発のための目標(SDGs)に掲げられている課題「人権の尊重、平等、豊かさを享受できる公正で恐怖と暴力のないインクルーシブ（包括的）な世界」「貧困と飢餓を終わらせ、ジェンダー平等を達成し、全ての人に健康的な生活の保証」「責任ある消費と生産など、地球環境が守られること」に対して、「自らの問題として捉え、身近なところから取り組む(think globally, act locally)ことにより」「持続可能な社会を創造していくことを目指す」[『中教審』]学問である。近代化以降の人類にとって未曾有の転換期へ直面している現代社会において、社会の中に存在し、社会との関係の中で絶えず自らを更新し続けていく自己反省的な学問である社会学は、まさに「いま、ここ」で必要とされている。

社会学科を設置することによって、「社会現象を相対化し他者への寛容な態度を獲得するという特性をもつ」社会学を体系的に教育することを通じて、「現代社会に潜む差別や偏見、不公平を発見し、他者と連帯しながら足元から是正し、平和で民主的な社会を築いてゆく市民の形成に寄与」[日本学術会議・社会学委員会・社会学分野の参照基準検討分科会報告『大学教育の分野別質保証のための参照基準 社会学分野』平成 26(2014)年] (以下、『参照基準』)することは、人文学部の「現代社会の課題を発見・理解・解決する能力の育成、コミュニケーション能力の育成、そして情報リテラシーの修得を通して」「個性的、自律的な人間」を育成するというポリシーのもとで、本学の「地球的視野を持って、地域社会の発展に貢献できる人材」を育成するという理念を具現化できる。

ウ．学則変更（収容定員変更）に伴う教育課程等の変更内容

社会学科は、人間社会における問題を発見し、人々や文化の多様性を理解し、社会調査による実証的方法に基づいて論理的に思考し、問題を解決に導くために社会を構想し提言する能力を携えて、異なる価値観や文化・属性を人々と共存していくために多様な社会・職業領域で活躍し、社会と関わり続けていく人材を育成することを目的とする。

その際、社会学科の教育課程は以下のように整理できる。【資料 1】

①社会学科の主専攻科目は、一年次必修科目の「専門導入科目」から、専門教育へと繋げていく二年次必修科目、二年次生から四年次生までが学年を横断し複数履修できる「専門演習科目」及び四年次配当の必修科目「卒業研究」を学科教育の中心的な柱として構成している。

②社会学科の主専攻科目は、「人文学部総合科目」と「社会学専門科目」(「専門講義科目」「演習科目」「社会学情報処理科目」という三科目群に区分）からなり、そこに含まれる科

目が有機的に関連付けられて構成している。
③「専門講義科目」には、「理論・方法に関する科目」「社会の諸領域に関する科目」「社会構想に関する科目」「社会調査関連科目」を配置する。
④「演習科目」は、「専門演習科目」と「特殊演習科目」に区分する。
⑤「専門演習科目」は、「専門講義科目」に配置している「理論・方法に関する科目」と「社会の諸領域に関する科目」と連動している。これらの演習科目では、二年次より学生自身が自らの関心に合わせて複数履修することが可能であり、学年を横断して議論することにより社会学に関する専門的知識を深化させていく。学生自身の主体的な関心にもとづいて、学年の垣根を超えて複数の専門演習を履修可能となっていることから、演習授業が個々の担当教員の教育研究に閉塞されることを避け、学生が「何を学び、身に付けることができるのか」を主体的に意識することは可能となる。したがって、本演習科目は、「(学生) 自らの可能性を最大限に発揮するとともに、多様な価値観を持つ人材が協働して社会と世界に貢献していくため」の「知的共通基盤」となり、「学修者本意の多様性と柔軟性を持った高等教育」[『中教審』]を具現化できるものとなる。
⑥「特殊演習科目」は、「専門講義科目」に配置されている「社会構想に関する科目」と連動している。この「特殊演習科目」は、学生自身が社会への関わりと社会学的知識の応用を学ぶことを目的として、公共・民間で活躍・活動している人たちを兼任講師として実施する演習である。そうしたことから、「生まれ育った地域で、個人の価値観を尊重して生活し、その地域を豊かな者にしていくための継続的な営みができる」「地域創生を目指す社会」[『中教審』]の実現のために、社会学的応用力を養う演習科目となっている。
⑦「社会調査関連科目」は、社会学的社会調査の方法を体系的に修得することを目的としている。また、一般社団法人・社会調査協会が定める認定科目を配置し、「量的社会調査演習」「質的社会調査演習」と合わせて単位修得することによって、「社会調査士」資格を取得可能する。
⑧「社会学情報処理科目」には、社会学を学ぶ上で必要とされる情報リテラシーや社会調査に必要とされる情報スキルを身につけるとともに、職業領域においても必要とされる情報処理スキルを修得するための科目を体系的に配置している。
⑨卒業研究は「社会学教育においてとくに重要な位置をしめる」[『参照基準』]という位置付けであり、社会学科では、社会学教育の集大成として、四年次必修科目として「卒業研究」を配置する。

（ア）教育課程の変更内容

(1)社会学基礎科目の充実化

社会学の独自性は、幅広い研究対象にあるだけでなく、それらの対象に関するものの見方・考え方、即ち研究視角にある。社会学の理論と方法を学修することを通じて、基本的な社会学的なものの見方・考え方を身につける。社会学科では、一年次に「社会学

研究入門Ⅰ」「社会学研究入門Ⅱ」「社会学概論」「社会学方法論」「現代社会学」「社会学基礎講座」を、二年次に「社会学研究法」と「社会学理論」を必修科目(合計 15 単位)として設定し、社会学の基本的な理論・方法を身につける。これらの科目のうち、専門導入科目に位置づく「社会学研究入門Ⅰ」「社会学研究入門Ⅱ」は、各 3 クラス開講することによって、ディスカッションとグループワークを含めた基礎演習的な役割を担う科目として設定する。

⑵変化する時代や社会に対応する社会学専門科目領域の拡大

社会学の研究対象は広く多岐に渡っており、人間の生の営みと社会のあり方にかかわるあらゆる社会現象を含んでいる。そのため、社会学は、これらの社会現象を人間個々の社会的行為や他者との間の相互行為，そして個人とより大きな社会・集団と関連づけられる社会関係のプロセスにおいて生成・変容し続けるものとしてとらえる。社会学を学ぶものには、多くの「社会の諸領域」に関する科目の学修により、関心の対象を広げていくことが求められる。そのため、社会学科では、学生自らの社会的関心を喚起することを目的とし、多彩な「社会の諸領域に関する科目」を選択科目として配置している。そして、学生には、「専門演習科目」との連動による学びの深化を期待する。

⑶社会構想にかかわる科目群の明確化

社会学を学ぶものには、社会に対する関わりの中で、問題を解決に導くための提言を行い、現にある社会が別様にもありうる可能性を構想していくことが求められる。そのため、社会学科では、これまでも配置していた科目をまとめ「社会構想に関する科目群」という新しいカテゴリーを設定し、「社会構想」という考え方を明確化した。こうした「社会構想」に関する科目群では、実社会で生起する現実的な諸問題を把握し、それを解決に導く方法が探究され、社会のオルタナティヴなあり方を提言することを目指すことになる。学生に現実に根差した社会学的関心を喚起させることを目的として、一年次より履修できる選択科目を配置している。

⑷社会調査関連科目の充実化

社会学専攻では、情報処理科目の充実化を図り、情報について理解し、それを処理し、自らの社会学的研究に活用できる技能を身につけることをめざしている。このため、情報処理関連の様々な資格を取得する学生も多い。社会学科では、「社会調査関連科目」を新たに配置して、社会学的社会調査の方法を体系的に修得することをめざしている。社会学科では、情報処理の前段階であり、また社会学の研究には必須のデータ収集に関連する教育の充実化を目的として社会調査関連科目を体系的に配置することで、データ収集からデータ分析までを有機的に関連付けるカリキュラムを構想している。また社会学関連の資格と関連付けて、一般社団法人・社会調査協会が定める認定科目を配置し、「量

的社会調査演習」「質的社会調査演習」と合わせて単位修得することによって、「社会調査士」資格を取得可能にする。

また、人間関係学科社会学専攻のときの科目に加え、社会学科ではさらに「伝統文化論」「宗教社会論」「マイグレーション・スタディーズ」「比較社会学」「社会問題の社会学」等の新規科目を設置するとともに、社会学の根幹をなす実証的研究のための調査法に関しては専任教員を配して、社会調査士資格取得に向けて注力しつつ、学生に対しては資格取得の選択肢のひとつとして提示できるようにする。

以上の教育課程の変更は、主専攻科目の充実化を図るものであり、他学部等に影響を与えることはなく、変更前と同等以上の内容を担保している。

（イ）教育方法及び履修指導方法の変更内容

社会学科の主専攻科目における教育方法は、以下のように五つに大別することが可能であるが、学修成果を上げるために、実践的にはこれらの方法を柔軟に組み合わせていくことになる。

(1)講義

講義を通じて、学生は、社会学の概念・理論・方法論などから社会を構成する諸領域に関する研究まで、多様な社会学の研究成果を知り、社会学的なものの見方と考え方をより深く学ぶことができる。

(2)演習

演習においては、教員の指導のもとに、学生同士が意見を交換・議論を通じて、学生自身が主体的な学びによって、「専門講義科目」と関連づけて社会学に関する知識の修得をより深化していくことが可能となる。社会学科では、「演習科目」群の各演習科目には人数制限を設け、概ね 10～25 名程度の少人数編成とする。

また、一年次必修科目でありかつ専門導入科目である「社会学研究入門Ⅰ」「社会学研究入門Ⅱ」はそれぞれ 35 名程度までの 3 クラス編成、二年次必修科目の「社会学研究法」は 25 名程度の 4 クラス編成とし、適宜、グループディスカッションなど演習的要素を組み入れていく。なお、同一演習科目を、2 年次から 4 年次まで履修することが可能であるので、演習授業においては、学年の異なる学生同士が混合して学ぶ仕組みとすることで、多様な価値観を有する他の学生との共同作業や議論をとおして、共通の問題を解決するための協働性を養成することができる。

(3)社会調査実習

社会調査による実証的研究を理解し、量的・質的調査法を修得することは、社会学を

学ぶ上で極めて重要である。社会調査に関する社会学的スキルは、学生が社会学的調査法を理解して自ら調査を設計し、実施した調査結果を分析して報告書を作成するというプロセスを経て修得するものである。社会学科では、一年次必修科目で「社会調査概論」「社会調査方法論」を導入科目として配置し、二年次から選択科目として社会調査関連科目を、三年次に社会調査実習に相当する「量的社会調査演習」「質的社会調査演習」を履修修得することで、学生が社会調査のスキルを身につけ、社会調査士資格(社会調査協会認定資格)を取得可能となるように配置している。社会学科では、社会調査に関連した科目は言うまでもなく、講義・演習・卒業研究にあっても、調査(計画・設計)における作業やコミュニケーション、体験的フィールドワークなど、社会調査実習の要素をある程度組み込むこととする。

(4)卒業研究

学生自らがテーマを発見し、課題を設定し、調査・資料収集を実施し、作成計画をもとに執筆する卒業研究は社会学教育においてとりわけ重要な位置を占める。学生にとって、社会学の学修を通して身につけた能力を活用して取り組む卒業研究は、個人的な関心を一般化・普遍化して自ら課題を設定し、根拠にもとづいて説明する力、他者を説得するために論理を組み立てる力を養うということから、大学の学士課程で社会学を学んだ集大成と言うべきものである。社会学科では、「卒業研究」(4 単位)を「専門演習科目」群に四年次必修科目として配置する。「卒業研究」科目は、学生自らが指導教員を選択し、5～10 名程度の 12 クラス編成で実施する。

(5)情報処理科目

社会学科では、社会調査など社会学を学ぶ上で必要とされる情報スキルを身につけるとともに、職業領域においても必要とされる情報処理リテラシーを修得するための科目を「社会学情報処理科目」群として体系的に配置している。Covid-19 Pandemic の経験に照らせば、大学における学びや職業教育にとどまらず、人間の社会生活全般に至るまで情報処理スキルが急速に求められるようになっている。「情報処理科目」の教育は、「社会調査実習」とは異なり、情報機器が備わった環境で行われることを想定している。そのため「社会学情報処理」科目群に配置された科目は、必修科目・選択科目ともに 35 名程度までのクラスで実施する。

以上の教育方法及び履修指導方法は、社会学科の主専攻科目における変更であるため、他学部等に影響を与えることはなく、変更前と同等以上の内容を担保している。

（ウ）教員組織の変更内容

社会学科になることにより専任教員は、社会学専攻時の 7 名から 12 名へと増員する。

このことにより、講義科目・演習科目を含めて社会学専門科目の領域の多様化を図ることができ、さらに現在拡大しつつある社会学科の学生の問題関心領域への対応がいっそう充実することになる。新たに増員する教員の担当科目は、「伝統文化論」「宗教社会論」「マイグレーション・スタディーズ」「比較社会論」「社会問題の社会学」「労働社会学」「社会調査士関連科目」「社会学文献講読演習」「社会学英書講読演習」等であり、社会学のなかでも近年社会的な注目を集める分野が数多く含まれている。社会学専攻時の定員 60 名から社会学科の定員 95 名になることによる問題関心の多様化に対しても、平均 8 名の少人数指導により学生の期待に応えられるカリキュラムを構成することが可能となる。

社会学に限らず一般的な教育方法として、演習等でも PBL（プロジェクト・ベースド・ラーニング）教授法が浸透してきており、そうした方向性は意味あるものであると考えられる。他方でそうした方法を用いることにより、演習科目において、文献をじっくり読解するという時間の確保が難しくなってきていることは否めない。そうした状況において、「社会学文献講読演習」では日本語文献をじっくり講読する、そして「社会学英書講読演習」では英語文献をじっくり講読することを目指す授業となる。こうした授業は、「グローバルに考え、地域で活動する」人材の養成に向けて、社会学を基礎とした言語感覚を涵養するものとなる。

（エ）大学全体の施設・設備の変更内容

現在、平成 29 年度に策定した校舎等建替計画に基づき、令和 7 年度竣工予定の新体育館建設事業を進めている。新体育館（10,525.0 ㎡）には、メインアリーナ、サブアリーナに加え、スカッシュコートやボルダリングスペースを備えるトレーニングジムや各種学生活動で使用できる会議室も設置し、新たな学生活動拠点とする。

教室を設置する建物は、1 号館（2,253.5 ㎡）、2 号館（6,101.7 ㎡）、3 号館（7,064.3 ㎡）、5 号館（5,303.2 ㎡）、6 号館（4,754.9 ㎡）、7 号館（3,822.9 ㎡）、協創館（5,823.4 ㎡）、9 号館（4,684.9 ㎡）であり、これらの建物に講義・ゼミナール用教室 118 教室を備えている。このうち、6 号館 3、4 階には、情報演習室 14 室（1,258.4 ㎡）を配置し、総数 419 台のパソコンを備えている。これら講義・ゼミナール用教室 118 教室の現在の稼働率状況は 63.0%、このうち情報演習室の稼働率状況は 54.6%であり、余裕のある教室数を確保している。

以上により、定員変更後も講義・ゼミナール用教室は十分確保できており、これまでと同等以上の環境を担保している。

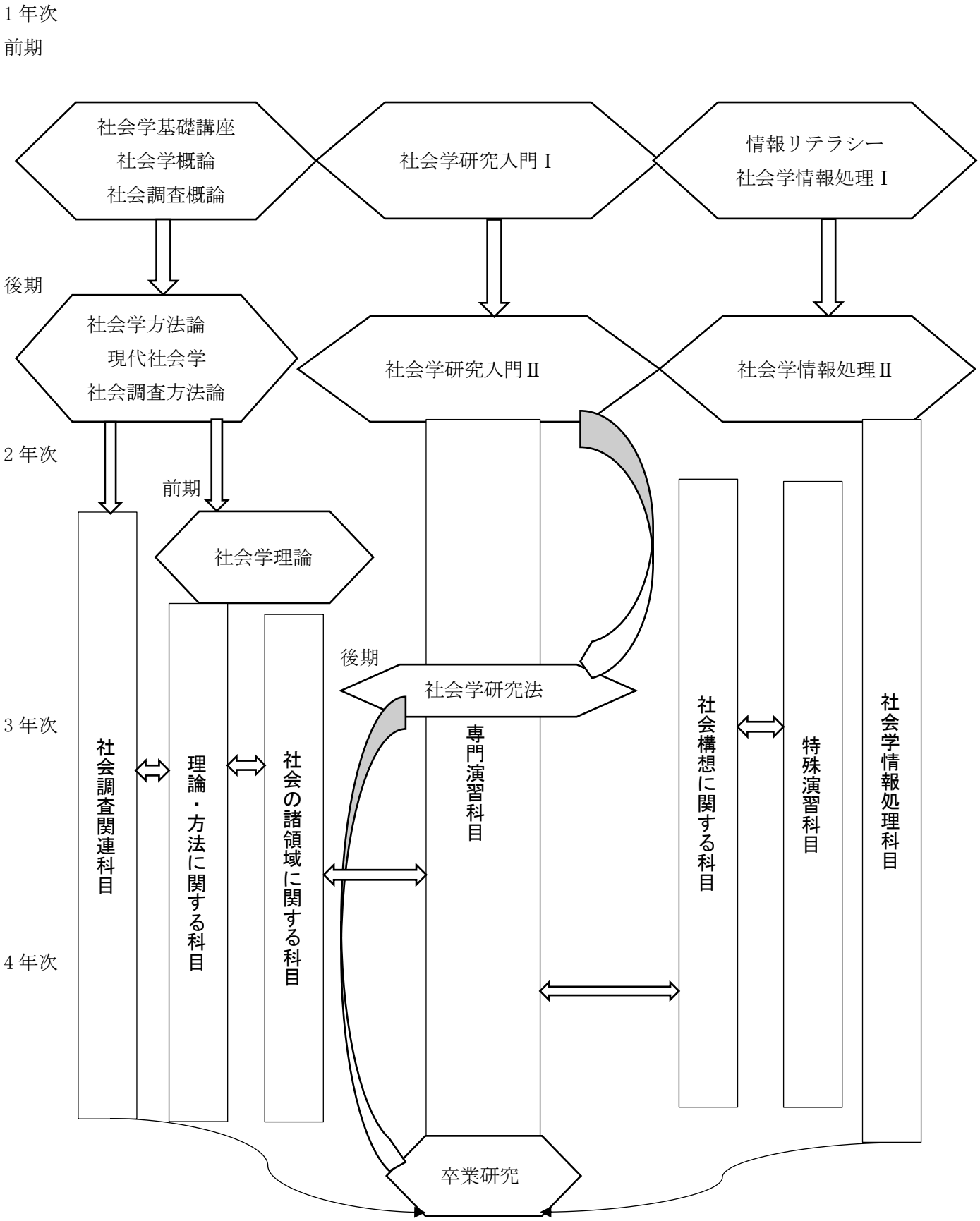
学則の変更の趣旨等を記載した書類

添付資料　目次

資料１……社会学科主専攻科目・学年カリキュラム図

資料２……教育課程等の概要（人文学部社会学科）

社会学専攻科目・学年カリキュラム図



別記様式第２号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（人文学部社会学科）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	専任教員等の配置 教授	専任教員等の配置 准教授	専任教員等の配置 講師	専任教員等の配置 助教	専任教員等の配置 助手	備考	
全学共通科目	地域理解科目	広島修道大学と広島	1①		1		○								兼3	オムニバス
		広島と平和	1･2②		1		○								兼1	
		広島の防災と法務	2･3後		2		○								兼1	
		小計（3科目）	－	0	4	0		－		0	0	0	0	0	兼5	－
	国際理解科目	日本語Ⅰ	1･2前		1				○						兼1	
		日本語Ⅱ	1･2後		1				○						兼1	
		日本語Ⅲ	1･2前		1				○						兼1	
		日本語Ⅳ	1･2後		1				○						兼1	
		日本語Ⅴ	1･2前		1				○						兼1	
		日本語Ⅵ	1･2後		1				○						兼1	
		日本語Ⅶ	1･2前		1				○						兼1	
		日本語Ⅷ	1･2後		1				○						兼1	
		アカデミック日本語	1･2前		2		○								兼1	
		ビジネス日本語	1･2後		2		○								兼1	
		漢字入門I	1･2前		1				○						兼1	
		漢字入門II	1･2後		1				○						兼1	
		留学生アカデミックスキル	1･2前		2		○								兼1	
		留学生キャリア形成	1･2後		2		○								兼1	
		留学スタートアップ	1･2①･③		1		○								兼1	
		留学フォローアップ	1･2②･④		1		○								兼1	
		中長期スタディ・アブロード（入門）	1･2前		2		○								兼1	
		中長期スタディ・アブロード（事前）	2･3前･後		2		○								兼1	
		中長期スタディ・アブロード（事後）	2･3①･③		1		○								兼1	
		外国語としての日本語（日本語教育）	1･2前		2		○								兼1	
		外国語としての日本語（多文化共生）	1･2後		2		○								兼1	
		Multicultural Project (Contemporary Issues in Japanese Society)	1･2前		2		○								兼1	
		Multicultural Project (Images of Japan in Western Cinema)	1･2後		2		○								兼1	
		Multicultural Project (Popular Music in Japanese Society I)	1･2前		2		○								兼1	
		Multicultural Project (Popular Music in Japanese Society II)	1･2後		2		○								兼1	
		多文化交流プロジェクト（多文化理解）	1･2前		2		○								兼1	
		多文化交流プロジェクト（地方の魅力）	1･2前		2		○								兼1	
		多文化交流プロジェクト（広島再発見）	1･2後		2		○								兼1	
		多文化交流プロジェクト（現代の社会）	1･2後		2		○								兼1	
		多文化交流プロジェクト（言語と文化）	1･2後		2		○								兼1	
		言語文化特殊講義Ⅰ（ドイツ語）	2･3前		2		○								兼1	
		言語文化特殊講義Ⅱ（ドイツ語）	2･3後		2		○								兼1	
		言語文化特殊講義Ⅰ（フランス語）	2･3前		2		○								兼1	
		言語文化特殊講義Ⅱ（フランス語）	2･3後		2		○								兼1	
		言語文化特殊講義Ⅰ（スペイン語）	2･3前		2		○								兼1	
		言語文化特殊講義Ⅱ（スペイン語）	2･3後		2		○								兼1	
		言語文化特殊講義Ⅰ（中国語）	2･3前		2		○								兼1	
		言語文化特殊講義Ⅱ（中国語）	2･3後		2		○								兼1	
		言語文化特殊講義Ⅰ（韓国・朝鮮語）	2･3前		2		○								兼1	
		言語文化特殊講義Ⅱ（韓国・朝鮮語）	2･3後		2		○								兼1	
		ことばと社会	1･2前		2		○								兼1	
		英語Ⅰ（リーディング・ライティング）	1前		1				○						兼1	
		英語Ⅱ（リーディング・ライティング）	1後		1				○						兼1	
		英語Ⅲ（リスニング・スピーキング）	1前		1				○						兼1	
		英語Ⅳ（リスニング・スピーキング）	1後		1				○						兼1	
		アクティブ・イングリッシュⅠ	1･2前		1				○						兼1	
		アクティブ・イングリッシュⅡ	1･2後		1				○						兼1	
		英語ライティングⅠ	1･2前		2		○								兼1	
		英語ライティングⅡ	1･2後		2		○								兼1	
		英語ライティングⅢ	1･2前		2		○								兼1	
		英語ライティングⅣ	1･2後		2		○								兼1	
		英語聴解Ⅰ	1･2前		2		○								兼1	
		英語聴解Ⅱ	1･2後		2		○								兼1	

別記様式第２号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（人文学部社会学科）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	専任教員等の配置 教授	専任教員等の配置 准教授	専任教員等の配置 講師	専任教員等の配置 助教	専任教員等の配置 助手	備考
		英語聴解Ⅲ	1･2前		2		○								兼1
		英語聴解Ⅳ	1･2後		2		○								兼1
		英語読解Ⅰ	1･2前		2		○								兼1
		英語読解Ⅱ	1･2後		2		○								兼1
		英語読解Ⅲ	1･2前		2		○								兼1
		英語読解Ⅳ	1･2後		2		○								兼1
		アカデミック・リーディングⅠ	1･2前		2		○								兼1
		アカデミック・リーディングⅡ	1･2後		2		○								兼1
		英語コミュニケーション入門Ⅰ	1･2前		1				○						兼1
		英語コミュニケーション入門Ⅱ	1･2後		1				○						兼1
		英語コミュニケーションⅠ	1･2前		2		○								兼1
		英語コミュニケーションⅡ	1･2後		2		○								兼1
		英語コミュニケーションⅢ	1･2前		2		○								兼1
		英語コミュニケーションⅣ	1･2後		2		○								兼1
		英語コミュニケーションⅤ	1･2前		2		○								兼1
		英語コミュニケーションⅥ	1･2後		2		○								兼1
		英語文法入門Ⅰ	1･2前		1				○						兼1
		英語文法入門Ⅱ	1･2後		1				○						兼1
		英語語法Ⅰ	1･2前		2		○								兼1
		英語語法Ⅱ	1･2後		2		○								兼1
		英語語法Ⅲ	1･2前		2		○								兼1
		英語語法Ⅳ	1･2後		2		○								兼1
		資格英語入門Ⅰ	1･2前		1				○						兼1
		資格英語入門Ⅱ	1･2後		1				○						兼1
		資格英語Ⅰ	1･2前		2		○								兼1
		資格英語Ⅱ	1･2後		2		○								兼1
		資格英語Ⅲ	1･2前		2		○								兼1
		資格英語Ⅳ	1･2後		2		○								兼1
		資格英語Ⅴ	1･2前		2		○								兼1
		資格英語Ⅵ	1･2後		2		○								兼1
		英語プレゼンテーションⅠ	1･2前		2		○								兼1
		英語プレゼンテーションⅡ	1･2後		2		○								兼1
		ドイツ語Ⅰ	1前		1				○						兼1
		ドイツ語Ⅱ	1後		1				○						兼1
		ドイツ語Ⅲ	1前		1				○						兼1
		ドイツ語Ⅳ	1後		1				○						兼1
		フランス語Ⅰ	1前		1				○						兼1
		フランス語Ⅱ	1後		1				○						兼1
		フランス語Ⅲ	1前		1				○						兼1
		フランス語Ⅳ	1後		1				○						兼1
		スペイン語Ⅰ	1前		1				○						兼1
		スペイン語Ⅱ	1後		1				○						兼1
		スペイン語Ⅲ	1前		1				○						兼1
		スペイン語Ⅳ	1後		1				○						兼1
		中国語Ⅰ	1前		1				○						兼2
		中国語Ⅱ	1後		1				○						兼1
		中国語Ⅲ	1前		1				○						兼1
		中国語Ⅳ	1後		1				○						兼1
		韓国･朝鮮語Ⅰ	1前		1				○						兼2
		韓国･朝鮮語Ⅱ	1後		1				○						兼2
		韓国･朝鮮語Ⅲ	1前		1				○						兼2
		韓国･朝鮮語Ⅳ	1後		1				○						兼2
		中級外国語Ⅰ（ドイツ語）	2･3前		2		○								兼1
		中級外国語Ⅱ（ドイツ語）	2･3後		2		○								兼1
		中級外国語Ⅰ（フランス語）	2･3前		2		○								兼1
		中級外国語Ⅱ（フランス語）	2･3後		2		○								兼1
		中級外国語Ⅰ（スペイン語）	2･3前		2		○								兼1

別記様式第２号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（人文学部社会学科）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	専任教員等の配置 教授	専任教員等の配置 准教授	専任教員等の配置 講師	専任教員等の配置 助教	専任教員等の配置 助手	備考	
		中級外国語Ⅱ（スペイン語）	2･3後		2		○								兼1	
		中級外国語Ⅰ（中国語）	2･3前		2		○								兼1	
		中級外国語Ⅱ（中国語）	2･3後		2		○								兼1	
		中級外国語Ⅰ（韓国・朝鮮語）	2･3前		2		○								兼1	
		中級外国語Ⅱ（韓国・朝鮮語）	2･3後		2		○								兼1	
		上級外国語Ⅰ（ドイツ語）	2･3前		2		○								兼1	
		上級外国語Ⅱ（ドイツ語）	2･3後		2		○								兼1	
		上級外国語Ⅰ（フランス語）	2･3前		2		○								兼1	
		上級外国語Ⅱ（フランス語）	2･3後		2		○								兼1	
		上級外国語Ⅰ（スペイン語）	2･3前		2		○								兼1	
		上級外国語Ⅱ（スペイン語）	2･3後		2		○								兼1	
		上級外国語Ⅰ（中国語）	2･3前		2		○								兼1	
		上級外国語Ⅱ（中国語）	2･3後		2		○								兼1	
		上級外国語Ⅰ（韓国・朝鮮語）	2･3前		2		○								兼1	
		上級外国語Ⅱ（韓国・朝鮮語）	2･3後		2		○								兼1	
		海外研修A	1･2･3･4		1		※								兼1	講義及び実習
		海外研修B	1･2･3･4		2		※								兼1	講義及び実習
		海外研修C	1･2･3･4		3		※								兼1	講義及び実習
		海外研修D	1･2･3･4		4		※								兼1	講義及び実習
		海外研修E	1･2･3･4		5		※								兼1	講義及び実習
		小計（130科目）	－	0	220	0	－			0	0	0	0	0	兼38	－
	一般教養科目	哲学	1･2前		2		○								兼1	
		倫理学	1･2後		2		○								兼1	
		美学	1･2前･後		2		○								兼1	
		芸術学	1･2前･後		2		○								兼1	
		西洋文学	1･2前･後		2		○								兼2	
		日本語学	1･2前		2		○								兼1	
		心理学	1･2前･後		2		○								兼2	
		文化論	1･2前		2		○								兼1	
		文化人類学	1･2前		2		○								兼1	
		西洋の美術	1･2前･後		2		○								兼1	
		日本近世文学	1･2後		2		○								兼1	
		西洋文化論	1･2④		2		○								兼1	
		人間と生命の倫理学	1･2前		2		○								兼1	
		人生の探究としての倫理学	1･2前･後		2		○								兼1	
		愛の倫理学的考察	1･2前		2		○								兼1	
		現代日本語の特質	1･2後		2		○								兼1	
		ドイツ文学	1･2後		2		○								兼1	
		江戸時代の衣服	1･2前		2		○								兼1	
		日本語と英語	1･2前		2		○								兼1	
		科学史	1･2後		2		○								兼1	
		日本文学	2･3前		2		○								兼1	
		西洋の図像学	2･3前･後		2		○								兼1	
		キリスト教倫理	2･3後		2		○								兼1	
		芸術文化学	2･3前		2		○								兼1	
		江戸時代の服飾	2･3後		2		○								兼1	
		日本史	1･2前		2		○								兼2	
		西洋史	1･2前		2		○								兼1	
		地理学	1･2前		2		○								兼1	
		社会学	1･2前		2		○			1						
		法学	1･2前		2		○								兼1	
		政治学	1･2①		2		○								兼1	
		経済学	1･2前		2		○								兼1	
		情報社会論	1･2前		2		○								兼1	
		日本近代史	1･2後		2		○								兼1	
		日本近現代史	1･2後		2		○								兼1	
		西洋中近世史	1･2後		2		○								兼1	

別記様式第２号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（人文学部社会学科）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	専任教員等の配置 教授	専任教員等の配置 准教授	専任教員等の配置 講師	専任教員等の配置 助教	専任教員等の配置 助手	備考	
		生活の中の地理学	1･2後		2		○								兼1	
		社会学のものの見方と考え方	1･2後		2		○			1						
		現代経済学	1･2後		2		○								兼1	
		情報環境論	1･2後		2		○								兼1	
		政党と選挙の政治学	1･2④		2		○								兼1	
		歴史と社会	1･2前		2		○								兼1	
		歴史人類学	1･2②		2		○								兼1	
		中国の歴史と社会	1･2前		2		○								兼1	
		近代日本と戦争	1･2④		2		○								兼1	
		資産運用の基礎	1･2前		2		○								兼1	
		地方行政と法	1･2前		2		○								兼1	
		事例で学ぶ民法	1･2前		2		○								兼1	
		現代社会と企業法	1･2前		2		○								兼1	
		国際社会と法	1･2前		2		○								兼1	
		現代社会と刑事法	1･2前		2		○								兼1	
		メディア論	2･3前		2		○								兼1	
		社会保障論	2･3後		2		○								兼1	
		地政学	2･3②		2		○								兼1	
		化学	1･2前		2		○								兼1	
		生物学	1･2後		2		○								兼1	
		環境科学	1･2後		2		○								兼1	
		数学	1･2前		2		○								兼1	
		応用数学	1･2後		2		○								兼1	
		遺伝学の基礎	1･2後		2		○								兼1	
		公衆衛生学	1･2後		2		○								兼1	
		宇宙と物質と生命の科学	1･2前		2		○								兼1	
		自然科学と技術入門	1･2後		2		○								兼1	
		動物の自然史と分類	2･3前		2		○								兼1	
		小計（64科目）	－	0	128	0	－			1	0	0	0	0	兼39	－
	スポーツ・健康科目	栄養と健康	1･2前		2		○								兼1	
		健康科学論	1･2前		2		○								兼2	
		運動科学論	1･2前		2		○								兼1	
		健康科学演習	1･2後		2			○							兼1	
		運動科学演習	1･2後		2			○							兼1	
		健康スポーツ実習（Shudo AP）	1･2後		1				○						兼1	集中
		健康スポーツ実習（アダプテッド・スポーツ）	1･2後		1				○						兼2	
		健康スポーツ実習（バドミントン）	1･2前		1				○						兼1	
		健康スポーツ実習（バスケットボール）	1･2前		1				○						兼1	
		健康スポーツ実習（ゴルフ）	1･2前		1				○						兼1	
		健康スポーツ実習（卓球）	1･2前		1				○						兼1	
		健康スポーツ実習（サッカー）	1･2後		1				○						兼1	
		健康スポーツ実習（ソフトボール）	1･2前		1				○						兼1	
		健康スポーツ実習（ソフトバレーボール）	1･2前		1				○						兼1	
		健康スポーツ実習（テニス）	1･2前		1				○						兼1	
		運動スポーツ実習（アクアティックスポーツ）	1･2後		1				○						兼1	
		運動スポーツ実習（バドミントン）	1･2前		1				○						兼2	
		運動スポーツ実習（バスケットボール）	1･2前		1				○						兼2	
		運動スポーツ実習（フットサル）	1･2前		1				○						兼1	
		運動スポーツ実習（ゴルフ）	1･2後		1				○						兼1	
		運動スポーツ実習（ニュースポーツ）	1･2前		1				○						兼1	
		運動スポーツ実習（卓球）	1･2前		1				○						兼1	
		運動スポーツ実習（サッカー）	1･2前		1				○						兼1	
		運動スポーツ実習（ソフトボール）	1･2後		1				○						兼1	
		運動スポーツ実習（スポーツフィッシング）	1･2後		1				○						兼2	集中
		運動スポーツ実習（テニス）	1･2前		1				○						兼1	
		野外運動実習Ⅰ（キャンプ）	1･2前		1				○						兼1	集中
		野外運動実習Ⅰ（スキー）	1･2後		1				○						兼2	集中

別記様式第２号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（人文学部社会学科）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	専任教員等の配置 教授	専任教員等の配置 准教授	専任教員等の配置 講師	専任教員等の配置 助教	専任教員等の配置 助手	備考	
		野外運動実習Ⅱ（キャンプ発展）	1･2前		1				○						兼1	集中
		野外運動実習Ⅱ（スキー発展）	1･2後		1				○						兼1	集中
		小計（30科目）	－	0	35	0		－		0	0	0	0	0	兼18	－
	キャリアデザイン科目	大学生活とキャリア	1③		1		○								兼1	
		インターンシップ入門	1④		1		○								兼1	
		キャリアビジョンとキャリア形成	2･3前		2		○								兼1	
		広島の事業承継を学ぶ	2･3後		2		○								兼1	
		小計（4科目）	－	0	6	0		－		0	0	0	0	0	兼1	－
	データサイエンス科目	データサイエンス概論	1後		2		○								兼1	
		情報処理入門	1前		2		○								兼1	
		統計学	1･2前		2		○								兼1	
		情報化社会と人間	1･2前		2		○								兼2	
		情報と知能	1･2前		2		○								兼1	
		小計（5科目）	－	0	10	0		－		0	0	0	0	0	兼5	－
主専攻科目	人文学部総合科目	現代社会学	1･2後		2		○			1						
		差別問題論	1前		2		○								兼1	
		ヒロシマ文化論Ⅰ	1･2前		2		○								兼1	
		ヒロシマ文化論Ⅱ	1･2後		2		○								兼1	
		ジェンダー論	2･3前		2		○								兼1	
		女の人間学	2･3後		2		○								兼1	
		比較社会論	1･2前		2		○								兼1	
		共生社会論	1･2後		2		○								兼1	
		ボランティア論	1･2後		2		○								兼1	
		社会文化体験演習	2･3通		2				○	1					兼4	集中
		海外体験演習	2･3通		2				○						兼1	集中
		Media　EnglishⅠ	2･3前		2		○								兼1	
		Media　EnglishⅡ	2･3後		2		○								兼1	
		Business　EnglishⅠ	2･3前		2		○								兼3	
		Business　EnglishⅡ	2･3後		2		○								兼3	
		環境文学論	1･2前		2		○								兼1	
		物語と歴史	2･3前		2		○								兼1	
		教育文化論	2･3前		2		○								兼1	
		芸術文化論	1･2後		2		○								兼2	オムニバス･共同（一部）
		社会の中の言語	3･4後		2		○								兼1	
		日本文化史Ⅰ	1･2前		2		○								兼1	
		日本文化史Ⅱ	1･2後		2		○								兼1	
		日本文化論（浮世絵）	1･2前		2		○								兼1	
		日本文化論（和紙）	1･2後		2		○								兼1	
		日本文学演習Ⅰ（崩し字解読・平仮名）	1･2前		2			○							兼1	
		日本文学演習Ⅱ（崩し字解読・古典文学）	1･2後		2			○							兼1	
		日本史演習Ⅰ（崩し字解読・漢字）	1･2前		2			○							兼1	
		日本史演習Ⅱ（崩し字解読・古文書）	1･2後		2			○							兼1	
		日本古典文学論	1･2後		2		○								兼1	
		西洋文化史	2･3後		2		○								兼1	
		西洋文化史演習	2･3後		2			○							兼1	
		小計（31科目）	－	0	62	0		－		2	0	0	0	0	兼20	－

別記様式第２号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（人文学部社会学科）

科目区分			授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	専任教員等の配置 教授	専任教員等の配置 准教授	専任教員等の配置 講師	専任教員等の配置 助教	専任教員等の配置 助手	備考	
社会学専門科目	専門講義科目	理論・方法に関する科目	社会学基礎講座	1①	1			○			1						
			社会学研究入門Ⅰ	1前	2			○			2	1					
			社会学研究入門Ⅱ	1後	2			○			2	1					
			社会学方法論	1後	2			○			1						
			社会学概論	1前	2			○			1						
			社会学理論	2前	2			○			1						
			応用社会学	2･3･4後		2		○			1						隔年
			コミュニケーション論	2･3･4前		2		○			1						
			社会意識論	2･3･4前		2		○			1						
			感情社会学	2･3･4前		2		○			1						
			比較社会学	2･3･4前		2		○				1					
			社会学研究法	2後	2			○			2	2					
			小計（12科目）	－	13	10	0	－			7	3	0	0	0	兼	－
		社会の諸領域に関する科目	アニメ社会学	2･3･4後		2		○			1						隔年
			クールジャパン現象研究	2･3･4後		2		○			1						隔年
			犯罪社会学	2･3･4後		2		○			1						
			エリア・スタディーズ	2･3･4前		2		○			1						
			ボーダー・スタディーズ	2･3･4後		2		○			1						
			国際社会学Ⅰ	2･3･4前		2		○			1						
			国際社会学Ⅱ	2･3･4後		2		○			1						
			現代社会論	2･3･4前		2		○			1						
			産業社会学	2･3･4後		2		○			1						隔年
			労働社会学	2･3･4後		2		○				1					
			カルチュラル・スタディーズ	2･3･4後		2		○			1						
			文化社会学	2･3･4前		2		○			1						
			消費社会論	2･3･4後		2		○			1						隔年
			感情労働論	2･3･4後		2		○			1						隔年
			親密性の社会学	2･3･4前		2		○			1						隔年
			性現象論	2･3･4前		2		○			1						隔年
			クィア・スタディーズ	2･3･4後		2		○			1						
			都市社会学	2･3･4前		2		○								兼1	
			地域社会学	2･3･4後		2		○								兼1	
			サブカルチャーの社会学	2･3･4前		2		○								兼1	
			ポップカルチャーの社会学	2･3･4後		2		○								兼1	
			宗教社会論	2･3･4前		2		○				1					
			伝統文化論	2･3･4後		2		○				1					
			マイグレーション・スタディーズ	2･3･4後		2		○				1					
			社会問題の社会学	2･3･4前		2		○				1					
			表象文化論	2･3･4後		2		○								兼1	
			音楽社会学	2･3･4前		2		○								兼1	
			現代社会学特殊講義	2･3･4前		2		○								兼1	集中
			社会学特殊講義	2･3･4後		2		○								兼1	集中
			小計（29科目）	－	0	58	0	－			7	3	0	0	0	兼5	－
		社会構想に関する科目	マスメディア論Ⅰ	1･2前		2		○								兼1	
			マスメディア論Ⅱ	1･2後		2		○								兼1	
			ジャーナリズム論Ⅰ	1･2前		2		○								兼1	
			ジャーナリズム論Ⅱ	1･2後		2		○								兼1	
			社会安全政策論	1･2前		2		○			2					兼15	オムニバス･共同
			社会構想と公共政策	1･2･3･4後		2		○								兼4	オムニバス･集中
			小計（6科目）	－	0	12	0	－			2	0	0	0	0	兼21	－
		社会調査関連科目	社会調査概論	1前	2			○			1						
			社会調査方法論	1後	2			○			1						
			社会調査論Ⅰ（資料・データ分析）	2前		2		○			1						
			社会調査論Ⅱ（統計学）	2後		2		○			1						
			量的社会調査法（多変量解析）	2前		2		○			1						
			質的社会調査法	2後		2		○				2					
			小計（6科目）	－	4	8	0	－			1	2				兼	－

別記様式第２号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（人文学部社会学科）

科目区分				授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	専任教員等の配置 教授	専任教員等の配置 准教授	専任教員等の配置 講師	専任教員等の配置 助教	専任教員等の配置 助手	備考
		演習科目	専門演習科目	コミュニケーション論演習（メディアと文化）	2･3･4前		2			○		1					隔年
				コミュニケーション論演習（メディアと表現）	2･3･4後		2			○		1					隔年
				コミュニケーション論演習（ネットメディアと文化）	2･3･4前		2			○		1					隔年
				コミュニケーション論演習（ネットメディアと表現）	2･3･4後		2			○		1					隔年
				アニメ社会学演習（コンテンツと文化）	2･3･4前		2			○		1					隔年
				アニメ社会学演習（ネットコンテンツと文化）	2･3･4後		2			○		1					隔年
				クールジャパン現象研究演習（コンテンツと表現）	2･3･4前		2			○		1					隔年
				クールジャパン現象研究演習（ネットコンテンツと表現）	2･3･4後		2			○		1					隔年
				社会意識論演習（表象文化とジェンダー）	2･3･4前		2			○		1					隔年
				社会意識論演習（文化とアイデンティティ）	2･3･4後		2			○		1					隔年
				社会意識論演習（法制度とジェンダー）	2･3･4前		2			○		1					隔年
				社会意識論演習（仕事と生活の調和）	2･3･4後		2			○		1					隔年
				犯罪社会学演習（社会的排除と不平等）	2･3･4前		2			○		1					隔年
				犯罪社会学演習（管理される性と生）	2･3･4後		2			○		1					隔年
				犯罪社会学演習（逸脱の医療化）	2･3･4前		2			○		1					隔年
				犯罪社会学演習（防犯対策とコミュニティ）	2･3･4後		2			○		1					隔年
				国際社会学演習（グローバリゼーションと社会変動）	2･3･4前		2			○		1					隔年
				国際社会学演習（西欧とアジア）	2･3･4後		2			○		1					隔年
				国際社会学演習（非西欧と脱西欧化）	2･3･4前		2			○		1					隔年
				国際社会学演習（国際システムと国民国家）	2･3･4後		2			○		1					隔年
				エリア・スタディーズ演習（グローバル化と東アジア共同体）	2･3･4前		2			○		1					隔年
				エリア・スタディーズ演習（移住／貿易／観光）	2･3･4前		2			○		1					隔年
				ボーダー・スタディーズ演習（日本の中のボーダー）	2･3･4後		2			○		1					隔年
				ボーダー・スタディーズ演習（アジアの内部／アジアの外部）	2･3･4後		2			○		1					隔年
				現代社会論演習（イデオロギーとしての公正・安全・環境保護）	2･3･4前		2			○		1					隔年
				現代社会論演習（再帰的近代と社会不安）	2･3･4後		2			○		1					隔年
				現代社会論演習（社会構造の変動と価値変容）	2･3･4前		2			○		1					隔年
				現代社会論演習（グローバル化と生活世界の変容）	2･3･4後		2			○		1					隔年
				カルチュラル・スタディーズ演習（日常生活における意味と行動）	2･3･4前		2			○		1					隔年
				カルチュラル・スタディーズ演習（イデオロギーと人種）	2･3･4後		2			○		1					隔年
				カルチュラル・スタディーズ演習（階級とジェンダー）	2･3･4前		2			○		1					隔年
				カルチュラル・スタディーズ演習（サブカルチャーと権力）	2･3･4後		2			○		1					隔年
				文化社会学演習（自由と差別）	2･3･4前		2			○		1					隔年
				文化社会学演習（人種差別に抵抗する音楽）	2･3･4後		2			○		1					隔年
				文化社会学演習（ブラック・ミュージックと抵抗文化）	2･3･4前		2			○		1					隔年
				文化社会学演習（無意識の植民地主義）	2･3･4後		2			○		1					隔年
				応用社会学演習（仕事におけるメンタルヘルス）	2･3･4前		2			○		1					隔年
				応用社会学演習（心理学化／医療化する社会）	2･3･4後		2			○		1					隔年
				応用社会学演習（医療化と脱医療化）	2･3･4前		2			○		1					隔年
				応用社会学演習（病気と健康の構築）	2･3･4後		2			○		1					隔年
				労働社会学演習（雇用の流動化と格差社会）	2･3･4前		2			○			1				隔年
				労働社会学演習（仕事とジェンダー）	2･3･4後		2			○			1				隔年
				労働社会学演習（仕事をめぐるジェネレーションギャップ）	2･3･4前		2			○			1				隔年
				労働社会学演習（新しい労働運動）	2･3･4後		2			○			1				隔年
				感情社会学演習（ジェンダーとアイデンティティ）	2･3･4前		2			○		1					隔年
				感情社会学演習（模倣と変身）	2･3･4後		2			○		1					隔年
				感情労働論演習（外見・装飾の演出）	2･3･4前		2			○		1					隔年
				感情労働論演習（対人労働のスキル）	2･3･4後		2			○		1					隔年
				親密性の社会学演習（ホームの社会学）	2･3･4前		2			○		1					隔年
				親密性の社会学演習（家族と表象をめぐるジェンダー）	2･3･4後		2			○		1					隔年
				親密性の社会学演習（親密性とジェンダー）	2･3･4前		2			○		1					隔年
				親密性の社会学演習（親密性とセクシュアリティ）	2･3･4後		2			○		1					隔年
				性現象論演習（ジェンダーと文化）	2･3･4前		2			○		1					隔年
				性現象論演習（セクシュアリティと文化）	2･3･4前		2			○		1					隔年
				クィア・スタディーズ演習（クィア理論という方法）	2･3･4後		2			○		1					隔年

別記様式第２号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（人文学部社会学科）

科目区分				授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	専任教員等の配置 教授	専任教員等の配置 准教授	専任教員等の配置 講師	専任教員等の配置 助教	専任教員等の配置 助手	備考	
				クィア・スタディーズ演習（クィアをめぐる視覚文化）	2･3･4後		2			○		1						隔年
				産業社会学演習（産業構造の転換と市場経済の変容）	2･3･4後		2			○		1						隔年
				産業社会学演習（グローバル化とポスト産業社会）	2･3･4後		2			○		1						隔年
				消費社会論演習（モード／ファッション／トレンド／ブーム）	2･3･4前		2			○		1						隔年
				消費社会論演習（ハビトゥス／身体化／ディスタンクシオン）	2･3･4前		2			○		1						隔年
				宗教社会論演習（日本の祭り･行事）	2･3･4前		2			○			1					隔年
				宗教社会論演習（パワースポットとツーリズム）	2･3･4後		2			○			1					隔年
				宗教社会論演習（神話･伝説･物語の世界）	2･3･4前		2			○			1					隔年
				宗教社会論演習（キリスト教と文化）	2･3･4後		2			○			1					隔年
				伝統文化論演習（歴史･民俗とまちづくり）	2･3･4前		2			○			1					隔年
				伝統文化論演習（民俗学の視点と方法）	2･3･4後		2			○			1					隔年
				伝統文化論演習（都市の民俗学）	2･3･4前		2			○			1					隔年
				伝統文化論演習（地域文化とレジリエンス）	2･3･4後		2			○			1					隔年
				マイグレーション・スタディーズ演習（移民をめぐる政治と経済）	2･3･4前		2			○			1					隔年
				マイグレーション・スタディーズ演習（移民政策と社会統合）	2･3･4後		2			○			1					隔年
				マイグレーション・スタディーズ演習（広島と移民の歴史）	2･3･4前		2			○			1					隔年
				マイグレーション・スタディーズ演習（国内移住とライフコース）	2･3･4後		2			○			1					隔年
				社会問題の社会学演習（個人化社会と自己責任論）	2･3･4前		2			○			1					隔年
				社会問題の社会学演習（社会的排除／包摂）	2･3･4後		2			○			1					隔年
				社会問題の社会学演習（疎外と自己アイデンティティ）	2･3･4前		2			○			1					隔年
				社会問題の社会学演習（デジタル化によって構成されていく現実）	2･3･4後		2			○			1					隔年
				比較社会学演習（多文化社会の理論）	2･3･4前		2			○			1					隔年
				比較社会学演習（人種と民族）	2･3･4後		2			○			1					隔年
				比較社会学演習（歴史と記憶）	2･3･4前		2			○			1					隔年
				比較社会学演習（多文化社会としての日本）	2･3･4後		2			○			1					隔年
				量的社会調査演習	3通		4			○		1						
				質的社会調査演習	3通		4			○			2					
				社会学文献講読演習Ⅰ	3･4①		2			○					1			
				社会学文献講読演習Ⅱ	3･4②		2			○					1			
				社会学文献講読演習Ⅲ	3･4③		2			○					1			
				社会学文献講読演習Ⅳ	3･4④		2			○					1			
				社会学英書講読演習Ⅰ	3･4①		2			○					1			
				社会学英書講読演習Ⅱ	3･4②		2			○					1			
				社会学英書講読演習Ⅲ	3･4③		2			○					1			
				社会学英書講読演習Ⅳ	3･4④		2			○					1			
				社会学特論演習（外国人と日本社会）	2･3･4前		2			○		1						隔年
				社会学特論演習（現代日本社会におけるエスニシティ）	2･3･4後		2			○		1						隔年
				社会学特論演習（ネットワーク分析の理論と方法）	2･3･4前		2			○		1						隔年
				社会学特論演習（社会的格差と貧困）	2･3･4後		2			○		1						隔年
				卒業研究	4通	4				○		8	3		1			
				小計（95科目）	－	4	192	0	－			8	3	0	1	0	兼0	－
			特殊演習科目	応用社会学特殊演習	2･3前		2			○							兼1	
				マスメディア論特殊演習	2･3前		2			○							兼1	
				ジャーナリズム論特殊演習	2･3後		2			○							兼1	
				社会安全政策論特殊演習	2･3後		2			○		2					兼1	共同(一部)
				小計（4科目）	－	0	8	0	－			2	0	0	0	0	兼3	－
		社会学情報処理科目		情報リテラシー	1前	2			○								兼4	
				社会学情報処理Ⅰ	1前	2			○								兼3	共同
				社会学情報処理Ⅱ	1後	2			○								兼3	共同
				社会学情報処理Ⅲ	2･3前		2		○								兼1	
				社会学情報処理Ⅳ	2･3後		2		○								兼1	
				社会学情報処理Ⅴ	2･3後		2		○								兼1	
				社会学情報処理特殊講義Ⅰ	2･3前		2		○								兼1	
				社会学情報処理特殊講義Ⅱ	2･3後		2		○								兼1	
				社会学情報処理特殊講義Ⅲ	2･3前		2		○								兼2	共同･集中

別記様式第２号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（人文学部社会学科）

科目区分			授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	専任教員等の配置 教授	専任教員等の配置 准教授	専任教員等の配置 講師	専任教員等の配置 助教	専任教員等の配置 助手	備考	
			社会学情報処理特殊講義Ⅳ	2･3前		2		○								兼2	共同･集中
			社会学情報処理特殊講義Ⅴ	2･3後		2		○								兼1	
			Web調査論	2･3前		2		○								兼1	
			社会学情報処理特殊演習Ⅰ	2･3前		2			○							兼1	
			社会学情報処理特殊演習Ⅱ	2･3後		2			○							兼1	
			小計（14科目）	－	6	22	0	－			0	0	0	0	0	兼4	－
資格課程に関する科目		教職に関する科目	教育原理	1前			2	○								兼1	
			教職入門	1前			2	○								兼1	
			教育心理学	2前			2	○								兼1	
			教育制度・教育課程論	1後			2	○								兼1	
			特別なニーズ教育の基礎と方法	1後			2	○								兼1	
			道徳教育論	2後			2	○								兼2	
			特別活動及び総合的な学習の時間の指導法	2後			2	○								兼1	
			教育方法論（情報通信技術の活用を含む）	2後			2	○								兼1	
			生徒・進路指導論	2後			2	○								兼1	
			教育相談	2後			2	○								兼1	
			中等教育実習事前事後指導	3･4通			1	○								兼2	オムニバス
			中等教育実習Ⅰ	3･4通			2			○						兼1	
			中等教育実習Ⅱ	4通			2			○						兼1	
			教職実践演習（中・高）	4後			2		○							兼1	
			人権教育論	1後			2	○								兼1	
			社会福祉論	2前			2	○								兼1	
			特別支援教育概論	2後			2	○								兼1	
			中等社会科教育法（地理歴史分野）	3後			2	○								兼1	
			社会科・地理歴史科教育法	3後			2	○								兼2	
			中等社会科教育法（公民分野）	3前			2	○								兼2	
			社会科・公民科教育法	3後			2	○								兼1	
			小計（21科目）	－	0	0	41	－			0	0	0	0	0	兼16	－
合計（454科目）				－	27	775	41	－			8	3	0	1	0	兼158	

学位又は称号	学士（社会学）		学位又は学科の分野	社会学・社会福祉学関係

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
全学共通科目20単位以上（地域理解科目1単位以上、国際理解科目4単位以上、一般教養科目4単位以上、キャリアデザイン科目1単位以上を含む）、主専攻科目84単位以上（人文学部総合科目12単位以上、専門講義科目40単位以上及び専門演習科目12単位以上並びに社会学情報処理科目6単位以上を含む社会学専門科目を64単位以上）を修得し、124単位以上を修得すること。 履修制限単位数：前期または後期24単位(ただし4年次に限り28単位)、年間44単位	１学年の学期区分	２　期
	１学期の授業期間	15　週
	１時限の授業時間	90　分

（注）

1　学部等，研究科等若しくは高等専門学校の学科の設置又は大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科における通信教育の開設の届出を行おうとする場合には，授与する学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等，研究科等若しくは高等専門学校の学科（学位の種類及び分野の変更等に関する基準（平成十五年文部科学省告示第三十九号）別表第一備考又は別表第二備考に係るものを含む。）についても作成すること。

2　私立の大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合，大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は，この書類を作成する必要はない。

3　開設する授業科目に応じて，適宜科目区分の枠を設けること。

4　「授業形態」の欄の「実験・実習」には，実技も含むこと。

5　「授業形態」の欄は，各授業科目について，該当する授業形態の欄に「○」を記入すること。ただし，専門職大学等又は専門職学科を設ける大学若しくは短期大学の授業科目のうち，臨地実務実習については「実験・実習」の欄に「臨」の文字を，連携実務演習等については「演習」又は「実験・実習」の欄に「連」の文字を記入すること。

6　課程を前期課程及び後期課程に区分する専門職大学若しくは専門職大学の学部等を設置する場合又は前期課程及び後期課程に区分する専門職大学の課程を設置し，若しくは変更する場合は，次により記入すること。

（１）各科目区分における「小計」の欄及び「合計」の欄には，当該専門職大学の全課程に係る科目数，「単位数」及び「専任教員等の配置」に加え，前期課程に係る科目数，「単位数」及び「専任教員等の配置」を併記すること。

（２）「学位又は称号」の欄には，当該専門職大学を卒業した者に授与する学位に加え，当該専門職大学の前期課程を修了した者に授与する学位を併記すること。

（３）「卒業・修了要件及び履修方法」の欄には，当該専門職大学の卒業要件及び履修方法に加え，前期課程の修了要件及び履修方法を併記すること。

学生の確保の見通し等を記載した書類

(1) 学生の確保の見通し及び申請者としての取組状況 2
ア．設置又は定員を変更する学科等を設置する大学等の現状把握・分析 2
イ．地域・社会的動向等の現状把握・分析 2
ウ．新設学科等の趣旨目的、教育内容、定員設定等 3
エ．学生確保の見通し 8
A. 学生確保の見通しの調査結果 8
B. 新設学部等の分野の動向 9
C. 中長期的な 18 歳人口の全国的、地域的動向等 9
D. 競合校の状況 10
E. 既設学部等の学生確保の状況 11
オ．学生確保に向けた具体的な取組と見込まれる効果 13
(2) 人材需要の動向等社会の要請 15
①人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的（概要） 15
②上記①が社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであることの客観的な根拠 16

学生の確保の見通し等を記載した書類

（1）学生の確保の見通し及び申請者としての取組状況

ア．設置又は定員を変更する学科等を設置する大学等の現状把握・分析

本学は、昭和 48 年、英語英文学科と人間関係学科の 2 学科で人文学部を開設した。人間関係学科は心理学、社会学、教育学の 3 専攻から成る学科としてスタートした。以来、本学の教育目標に基づいた教育を展開し、地域社会の多様な分野へ多くの人材を送り出してきた。平成 27 年に学校法人修道学園は、学校法人鈴峯学園と合併し、平成 28 年 4 月に人間関係学科教育学専攻を廃止し、その教員組織を移行・拡充して人文学部に教育学科として開設した。そして、平成 29 年 4 月に人間関係学科心理学専攻を廃止し、その教員組織を移行・拡充し、健康科学部心理学科として開設した。その結果、平成 29 年 4 月より人間関係学科は社会学専攻のみとなり、一学科一専攻という組織の配置となっているが比較的競争力を有する人文学部の教育組織および教育内容を向上させるため、令和 6 年度より人間関係学科社会学専攻を廃止し、社会学科を開設することとした。

イ．地域・社会的動向等の現状把握・分析

本学が位置する広島市は、人口 120 万人を有する政令指定都市であり、広島県のみならず中国地方における中枢都市でもある。これまでは製造業を中心とする産業により発展を遂げてきた地域であり、大企業の支店や官公庁の出先機関も多い。また、原爆ドームや宮島厳島神社など世界遺産の存在により、近年、外国からの観光客も増え、平和都市・観光都市としての特色もある。このように発展を遂げてきた広島市あるいは広島県も、現代日本社会が直面する「地方の問題」からは無縁ではない。急速にではないにせよ、この地域の人口は減少に向かいつつあり、さらに中国山地地域では限界集落や過疎化の問題も深刻化しているといわざるをえない。これらの課題に対して、人文社会科学系の総合大学である本学は、これまでも学問研究や様々なプロジェクト等で取り組んできた経緯もあり、さらに地域において長い歴史を有する本学に対しては、地域社会からもこうした取り組みを望む声も一定程度存在している。

一方、現代社会のあり方に目をやると、地域における諸問題は地球的規模で他の地域や全世界とつながっていることが明らかとなっている。いわゆるグローバル社会化により、それぞれの地域は個別に存在するのではなく、グローバルなネットワークに位置づけられ、地域や国を超えた枠組みにより思考する必要性が主張されている。Covid-19 によるパンデミックを経験した現代社会は、まさにこうしたことを痛感しているといえるし、また社会構造の大きな変革を迫られてもいる。こうした状況のもと、地域に根差す大学においても、グローバルな視野や視点に立って思考・判断することのできる人材の育成が要請されている。

ウ．新設学科等の趣旨目的、教育内容、定員設定等

新設学科の趣旨目的

社会学は、西欧を中心とした近代化への移行期＝大きな社会変動の転換期に成立した学問である。既存の社会システム・規範・秩序が崩壊し、近代社会が理想とした「人間の平等と自由」を達成するための「個人と社会」の関係が混迷する中で、対立や矛盾が顕わとなり、社会の不確実性に直面した人々が抱える社会不安を背景として、次から次へと生起する新たな問題の解決を探るという問題意識を背負って、社会学は登場した。そのなかで社会学は、それぞれ生活世界を有する主体としての個々人の意識・価値観や行為へと焦点を当てる一方で、個々に還元されない集合体としての組織・制度・システムや集団意識が織り成す「社会」「社会現象」を研究対象とする独自の学問体系を築き上げてきた。

現代社会は、西欧近代化への移行期以上に大規模かつ急激な社会変動に直面している。世界経済のグローバル化による資源の争奪や貧富の格差の拡大、ジェノサイドや人権侵害、領土をめぐる国際的緊張の高まり、地球規模の自然環境の破壊や気候変動など、多くの課題に直面している。ジェンダーやセクシュアリティをめぐる差別、雇用の不安定化やメンタルヘルスなど、人々の生活世界に密接に関わる問題も、一国内にとどまることなく、グローバル社会と関連づけて考察すべき課題となっている。

とりわけ Covid-19 によるパンデミックは、人類社会全体を捲き込み、イデオロギーや政治・経済体制の違いを超えて、各国家による対応が一斉に実施され、（感染者数や死者、ワクチンの確保から摂取率などを含めて）それぞれの国家政策がグローバルな規模で問われ、国民国家の枠に囚われない連携をさぐることが重要な課題となっている。そして、グローバル化による急激な社会変動は、Covid-19 によるパンデミックによって、さらに急速になりつつある。また、近代社会が理想とした「平等と自由」は、格差の拡大とその顕在化、個人の自由制限をめぐって、新たな課題に直面している。

社会的現実を解明する社会学は、社会の変化に応じて生起する社会問題を認識・理解するだけでなく、社会問題の解決へ向けた制度設計を提示していく学問でもあり、「誰一人として取り残さない(leave no one behind)」という考え方の下、国連が提唱する持続可能な開発のための目標(SDGs)に掲げられている課題「人権の尊重、平等、豊かさを享受できる公正で恐怖と暴力のないインクルーシブ（包括的）な世界」「貧困と飢餓を終わらせ、ジェンダー平等を達成し、全ての人に健康的な生活の保証」「責任ある消費と生産など、地球環境が守られること」に対して、「自らの問題として捉え、身近なところから取り組む(think globally, act locally)ことにより」「持続可能な社会を創造していくことを目指す」[『中教審』]学問である。近代化以降の人類にとって未曾有の転換期へ直面している現代社会において、社会の中に存在し、社会との関係の中で絶えず自らを更新し続けていく自己反省的な学問である社会学は、まさに「いま、ここ」で必要とされている。

社会学科を設置することによって、「社会現象を相対化し他者への寛容な態度を獲得するという特性をもつ」社会学を体系的に教育することを通じて、「現代社会に潜む差別や偏見、

不公平を発見し、他者と連帯しながら足元から是正し、平和で民主的な社会を築いてゆく市民の形成に寄与」[日本学術会議・社会学委員会・社会学分野の参照基準検討分科会報告『大学教育の分野別質保証のための参照基準 社会学分野』平成 26(2014)年] (以下、『参照基準』)することは、人文学部の「現代社会の課題を発見・理解・解決する能力の育成、コミュニケーション能力の育成、そして情報リテラシーの修得を通して」「個性的、自律的な人間」を育成するというポリシーのもとで、本学の「地球的視野を持って、地域社会の発展に貢献できる人材」を育成するという理念を具現化できるものと考えている。

ここに挙げた社会学という学問の特性は、広島の地域あるいは広く中国地方の直面する地域的諸課題の解決に向けて貢献することになり、さらに社会学科で養成されるグローバルな視野や視点での思考力や判断力は、地域的諸課題をグローバルに発信し、グローバルな枠組みのなかで問題解決をはかることができる将来の人材や能力につながっていくものになるだろう。

新設学科の教育内容

社会学科の研究対象は大きく三つに分けられる。

①社会問題を発見し、社会現象を説明するための社会学理論・枠組みを理解することである。社会学理論とは、「それなしに理解不可能な社会的現実を論理整合的に理解するための道具」[『参照基準』]である。社会学が研究対象とする社会問題や社会現象は、多岐に渡っているとともに、変化し続けていくため、社会学には、これまで蓄積されてきた多様な社会学理論・枠組みがあり、それらを研究・理解することは、社会学を研究するための基本となる。

②社会問題・社会現象を解明するための資料を収集し分析する社会調査の社会学的方法である。社会学の社会調査は、量的社会調査法(サーヴェイ調査)と、インタビュー調査や参与観察調査などの質的社会調査法(フィールドワーク)の大きく二つに分けることができるけれども、これらの手法を適切に理解し、組み合わせることによって社会問題・社会現象を複眼的に解明することが可能となる。

③社会の諸領域に関する研究である。社会学が研究対象とする社会の諸領域は、多岐に渡っており、『参照基準』では「社会を構成する諸領域」として以下のように整理されている。

ア 相互行為と自我や意味の形成についての基本的な知識と理解
イ 家族などの親密な関係性についての基本的な知識と理解
ウ ジェンダーとセクシュアリティについての基本的な知識と理解
エ 労働・消費などの活動と企業などの集団・組織についての基本的な知識と理解
オ 人間の自然環境との関係や科学技術の影響についての基本的な知識と理解
カ 医療・福祉・教育についての基本的な知識と理解
キ 逸脱行動、社会病理あるいは社会問題についての基本的な知識と理解
ク 階層・階級・社会的不平等についての基本的な知識と理解
ケ 都市・農村など地域社会・コミュニティについての基本的な知識と理解

コ グローバリゼーションとエスニシティについての基本的な知識と理解
サ 文化・表象・宗教についての基本的な知識と理解
シ メディア・情報・コミュニケーションについての基本的な知識と理解
ス 社会運動、NPO・NGO など社会変革・改革の動きへの基本的な知識と理解
セ 国家・政治・権力と政策提言についての基本的な知識と理解

多岐に渡る社会の諸領域を研究対象とする社会学は、時間軸と空間軸を延長することによって、「社会から距離をとって認識する足場を確保してきた」[『参照基準』]。つまり、社会学は、自らが所属している現にある社会を、過去に存在した社会や未来に現れるかもしれない社会と比較し、同時代に存在する別の社会と比較することによって、自分が所属する社会から距離をとって、その自明性を解体し、新しい社会に関する認識を可能にする学問である。

社会学科のカリキュラムでは、上述のように非常に多岐にわたる社会学の諸領域を可能な限り網羅できるような科目を設置し、学生の幅広いニーズに対応できるようにしている。人間関係学科社会学専攻のときの科目に加えて、社会学科ではさらに「伝統文化論」「宗教社会論」「マイグレーション・スタディーズ」「比較社会学」「社会問題の社会学」等の新規科目を設置するとともに、社会学の根幹をなす実証的研究のための調査法に関しては専任教員を配して、社会調査士資格取得に向けて注力しつつ、学生に対しては資格取得の選択肢のひとつとして提示できるようにしている。

社会学科は、人間社会における問題を発見し、人々や文化の多様性を理解し、社会調査による実証的方法に基づいて論理的に思考し、問題を解決に導くために社会を構想し提言する能力を携えて、異なる価値観や文化・属性を人々と共存していくために多様な社会・職業領域で活躍し、社会と関わり続けていく人材を育成することを目的とする。

その際、社会学科の教育課程は以下のように整理できる。

①社会学科の主専攻科目は、一年次必修科目の「専門導入科目」から、専門教育へと繋げていく二年次必修科目、二年次生から四年次生までが学年を横断し複数履修できる「専門演習科目」及び四年次に配当される必修科目「卒業研究」を学科教育の中心的な柱として構成されている。

②社会学科の主専攻科目は、「人文学部総合科目」と「社会学専門科目」(「専門講義科目」「演習科目」「社会学情報処理科目」という三科目群に区分）に属する科目が、有機的に関連付けられて構成されている。

③「専門講義科目」には、「理論・方法に関する科目」「社会の諸領域に関する科目」「社会構想に関する科目」「社会調査関連科目」を配置する。

④「演習科目」は、「専門演習科目」と「特殊演習科目」に区分する。

⑤「専門演習科目」は、「専門講義科目」に配置されている「理論・方法に関する科目」と

「社会の諸領域に関する科目」と連動している。これらの演習科目では、二年次より学生自身が自らの関心に合わせて複数履修することが可能であり、学年を横断して議論することにより社会学に関する専門的知識を深化させていく。学生自身の主体的な関心にもとづいて、学年の垣根を超えて複数の専門演習を履修可能となっていることから、演習授業が個々の担当教員の教育研究に閉塞されることを避け、学生が「何を学び、身に付けることができるのか」を主体的に意識することが可能となる。したがって、本演習科目は、「(学生) 自らの可能性を最大限に発揮するとともに、多様な価値観を持つ人材が協働して社会と世界に貢献していくため」の「知的共通基盤」となり、「学修者本意の多様性と柔軟性を持った高等教育」[『中教審』]を具現化できるものとなる。

⑥「特殊演習科目」は、「専門講義科目」に配置されている「社会構想に関する科目」と連動している。この「特殊演習科目」は、学生自身が社会への関わりと社会学的知識の応用を学ぶことを目的として、公共・民間で活躍・活動している人たちを兼任講師として実施する演習である。そうしたことから、「生まれ育った地域で、個人の価値観を尊重して生活し、その地域を豊かな者にしていくための継続的な営みができる」「地域創生を目指す社会」[『中教審』]の実現のために、社会学的応用力を養う演習科目となっている。

⑦「社会調査関連科目」は、社会学的社会調査の方法を体系的に修得することを目的としている。また、一般社団法人・社会調査協会が定める認定科目を配置し、「量的社会調査演習」「質的社会調査演習」と合わせて単位修得することによって、「社会調査士」資格を取得可能とする。

⑧「社会学情報処理科目」には、社会学を学ぶ上で必要とされる情報リテラシーや社会調査に必要とされる情報スキルを身につけるとともに、職業領域においても必要とされる情報処理スキルを修得するための科目を体系的に配置している。

⑨卒業研究は「社会学教育においてとくに重要な位置をしめる」[『参照基準』]科目という位置付けであり、社会学科では、社会学教育の集大成として、四年次必修科目として「卒業研究」を配置する。

目標とする人材の育成

社会学科は、ジェネリックスキルとして「社会の成員として自己を理解する能力／他者に寛容な態度をもつ能力／根拠をもった論理的な主張をして人を説得する能力／グループで作業する能力とコミットメント／情報リテラシーとプレゼンテーション能力／自分が得た知識や価値観を反省し相対化する能力」[『参照基準』]を身につけ、人間社会における問題を発見し、人々や文化の多様性を理解し、社会調査による実証的方法に基づいて論理的に思考し、問題を解決に導くために社会を構想し提言する能力を携えて、異なる価値観や文化・属性をもつ人々と共存していくために多様な社会・職業領域で活躍し、社会と関わり続けていく人材を育成することを目標とする。

学生に修得させる能力

社会の一員として社会学を学んだ者は、「社会に生起する問題を発見」し、多様な価値観や文化・属性を有する人々の「多様性を理解」し、社会的現実を解明するために「社会調査による実証研究を実施」し、社会学が蓄積した理論的枠組みや方法に基づいて論理的に思考し、社会に生起する問題を解決に導くために「社会を構想し提言する」能力をもつ。社会学科は、学生が卒業するまでに身につけるべき能力を、学士課程の学位の授与方針(ディプロマ・ポリシー)として、以下のように定める。

学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

社会学科は、現代社会の課題を発見・理解・解決する能力の養成、コミュニケーション能力の育成をとおして、学生一人ひとりが「地球的視野を持って、地域社会の発展に貢献できる人材」となり、かつ個性的、自律的な人間となることができるよう、以下の 3 点を身につけるべき学士力として明示します。

1)知識・技能

社会学の知識に基づく視角・方法・理論の成り立ちと現代的展開を修得し、実社会における現象や問題・課題について、社会学的に理解・分析し、自身の考えを表現する技能を身につけている。

2)思考力・判断力・表現力

修得した社会学的知識と技能を基礎に、自ら社会的な課題を発見し、社会問題の解決に取り組み、その成果を表現するために必要な社会学的思考力・判断力・コミュニケーション能力を身につけている。

3)協創力

激しく変動する現代社会において、自ら身につけた社会学的知識を多様な科学や学問に照らしつつ、主体性をもって多様な人々と協力し、学び合い、新たな価値を創造する意欲と実行力を身につけている。

定員設定の理由

本学人文学部は、現在、入学定員 270 名、収容定員 1,080 名であり、内訳は人間関係学科社会学専攻、入学定員 60 名（収容定員 240 名）、教育学科、入学定員 100 名（収容定員 400 名）、英語英文学科、入学定員 110 名（収容定員 440 名）である。人文学部人間関係学科社会学専攻は、これまで安定した志願者数及び多岐にわたる就職実績を維持しており、今後もさらなる地域の要請に応えるため、専攻から学科とし、定員を 35 名増員する。併せて、入学定員・収容定員の適正な管理および少人数教育のさらなる充実のため、人文学部英語英文

学科の定員を 10 名減員する。この定員変更により、人文学部は入学定員 295 名、収容定員 1,180 名とし、内訳は社会学科、入学定員 95 名（収容定員 380 名）、教育学科、入学定員 100 名（収容定員 400 名）、英語英文学科、入学定員 100 名（収容定員 400 名）となる。また、大学全体の入学定員は 25 名増の 1,440 名、収容定員は 100 名増の 5,760 名となる。

学生納付金の設定の考え方

社会学科は、人文学部人間関係学科社会学専攻を基礎として改組する学科である。そのため、学生納付金については、平成 28 年度に改定した人間関係学科の諸納付金をそのまま適用することとした。

平成 28 年度に納付金を改定した際には、入学金を 6 万円値下げし 22 万円とすることで、入学初年度の負担額を軽減した。一方で、授業料は教育上の必要経費を考慮したうえで、全国私大人文・社会学系の平均額や、県内近隣諸大学、県外同規模競合校などの納付金と比較し、年額 78 万円に値上げした。納付金の額は下表の通りである。

社会学科の学生納付金

入学金	授業料	施設設備資金	初年度納付金	4 年間納付金
220,000 円	780,000 円	220,000 円	1220,000 円	4,220,000 円

エ．学生確保の見通し

A. 学生確保の見通しの調査結果

人文学部社会学科の設置構想に伴い、第三者機関（株式会社紀伊國屋書店）によるニーズアセスメント調査を実施した。この調査は、新設予定の人文学部社会学科について、学生確保の見通しを示す高校生向けアンケート調査と人材需要の見通しを示す各種事業所向けアンケート調査からなっている。ここでは前者の高校生向けアンケート調査の結果について簡潔に述べる。

この調査では、本学が社会学科の設置を予定している 2024 年度（令和 6 年度）に大学を受験する可能性が最も高い高校 2 年生（2024 年 3 月卒業予定者）を対象とし、本学への入学が見込まれる、広島県をはじめとする中国地方・四国地方・九州地方の高校に対して、令和 4 年（2022 年）8 月から 10 月の期間に回答を依頼した。アンケートの実施は、事前に了承の得られた高校に対して必要部数のアンケート用紙を送付し、各校の教職員の監督のもとで行った。回答者（高校生）には『広島修道大学令和 6 年度社会学科新設構想の概要』を読んだうえで質問項目に回答するように求めた。調査内容の主な質問項目は、「興味のある学問分野」「進学先の希望について」「広島修道大学人文学部社会学科への進学意欲」「回答者の基本情報」などであった。実施協力を得た 79 校より、10,220 名の有効回答を得た。

まず回答者の 6.0%にあたる 612 名（学科定員の 6.4 倍）が「広島修道大学人文学部社会学科を受験したい」と回答した。さらに、このうちの 42.3%にあたる 259 名（学科定員の 2.7 倍）が「合格した場合、入学したい」と回答した。また、57.5%にあたる 352 名（学科定員の 3.7 倍）が「合格した場合、併願校の合否により入学を検討する」と回答した。

上記の「広島修道大学人文学部社会学科を受験したい」と回答し、かつ、「合格した場合、入学したい」と回答した 259 名について、問３（高校卒業後の希望進路）問４（興味ある学問分野）とのクロス集計を行った。その結果、高校卒業後に「進学」を希望し、興味のある学問分野が「社会学」としている高校生は、100 名であった。これは、本学人文学部社会学科が予定する入学定員の 95 名を上回る数値となった。

今回の調査では、広島県を中心とした中国地方 5 県・四国地方 2 県および北部九州地方 2 県を調査対象地域としたが、本学への入学者が最も多い広島県での調査対象校は、公立・私立合わせて 44 校であり、広島県下の全日制高校 126 校の 35%であったことを考えると、実際の受験者数・入学希望者数は当然ながらこれより増加すると考えられる。したがって、以上のニーズアセスメント調査の結果より、社会学科の入学定員を確保することは十分に可能であると考える【資料１】。

B. 新設学部等の分野の動向

社会学科の主要な学問分野は社会学である。この学問分野の近年の志願者動向について、豊島継男事務所編『一般入試志願状況レポート』に基づき、説明する。

「私立大学学科系統別　入学定員＆一般選抜志願者数増減表」によると、学科系統別では「社会」では、2021 年度に比較して 22 年度のほうが定員を増加させており、また 2010 年度に比べるとそれ以上に定員を増やしていることがわかる。この 10 年間に全国の私立大学ではわずかではあるが定員増となっていることがわかる。この定員増を社会的要請とみることが可能である。他方、一般選抜志願者数について見てみると、2022 年度にはその前年度と比較すると志願者数を若干ではあるが減らしている【資料２-１】【資料２-２】。しかし、本学では後述の D.競合校の状況及び E.既設学部等の学生確保の状況において説明の通り、中国地方では他に競合する大学が少なく、安定した学生を確保していることから、定員の充足は可能と考える。

C. 中長期的な 18 歳人口の全国的、地域的動向等

本学は、入学者の県内依存率が高い大学であり、2022 年度（2023 年 1 月 11 日現在）の在籍者 6,079 名のうち 4,800 名が広島県出身者である。その割合は、80%である。また、3,004 名が広島市出身者であり、その割合は 49.4%である。

資料 3 は、2021 年文部科学省「学校基本調査」から算出された、地域別・都道府県別減少予測動向である。この資料によれば、2032 年までの 18 歳人口減少率に関しては、広島県は、東京、沖縄、福岡、神奈川、熊本、鹿児島、愛知に次いで、7 番目に減少率が低い県と

なっている【資料 3】。

また、令和 2 年の国勢調査に基づく 18 歳人口予想によれば、広島県の 18 歳人口は漸次減少していく傾向にあるが、広島市の 18 歳人口減少に関しては、減少割合は低く、また本学が所在している安佐南区の 18 歳人口の減少に関しても広島市同様それほど大きくはない【資料 4】。

本学が所在する安佐南区は広島市内 8 区のなかでももっとも人口が多い地域であり、また郊外住宅地であるということから、2025 年までは人口が増加する予想がたてられている。予測によると、2030 年以降に人口が減少に転じるとされているが、本学が所在する伴・大塚地区では、住宅造成の計画が複数見込まれており、そうしたエリアでの若い世代の居住者の増加が見込まれる。そうした状況を加味すると、本学の周辺地域での 18 歳人口はある程度維持できるという見通しである。

以上のことから、定員の充足は可能であると考える。

D. 競合校の状況

広島県内で、本学以外に社会学関連の学部・学科を擁していたのは、広島国際学院大学現代社会学部であった。1999 年、前広島電機大学を改組し、校名変更をきっかけにこの現代社会学部が設置された。2013 年には、情報学部と現代社会学部を統合・改組し、情報文化学部のなかに情報デザイン学科と現代社会学科を設置している。ただ、1990 年の現代社会学部設置以降、本学人文学部人間関係学科社会学専攻への入学者で広島国際学院大学との併願者は確認されていない。2019 年度以降、広島国際学院大学ではすべての学部と大学院での学生募集の停止を行うと発表した。

中国四国地方に視点を拡大すると、四国地方の愛媛県には、本学が人文学部を開設した 1 年後の 1974 年に松山大学が人文学部を開設し、そのなかに英語英米文学科と社会学科を配している。松山大学人文学部社会学科の 2018 年度から 2022 年度までの定員は 120 名ないし 125 名となっており、入学者数を見ると 2018 年度 116 名、2019 年度 113 名、2020 年度 141 名、2021 年度 118 名、2022 年度 120 名で、年度ごとに多少の増減は見られるがほぼ 120 名前後で一定しているといえる【資料 5】。

松山大学人文学部社会学科は、開設時期も本学人文学部人間関係学科社会学専攻とほぼ同じであり、受験者の高校レベル等も近似しており、これまでは本学社会学専攻の競合校として考えられてきた。とはいえ、松山大学は立地として四国地方に位置するので、主要な受験生は四国在住者が多く、本学の社会学専攻は中国地方在住者が多いという傾向は否めない。実際、これまで本学人間関係学科社会学専攻の入学者には、松山大学人文学部社会学科との併願者はほとんど確認されていない。したがって、学部学科等の成り立ちは似通っていても、受験者層の重なりはほとんどないと思われる。

尚、これまで本学人文学部人間関係学科社会学専攻の入学者・志願者には、関西地方において関西大学社会学部・関西学院大学社会学部・立命館大学産業社会学部・同志社大学社会

学部との併願者が一定数存在してきた。実際、同志社大学社会学部は 2005 年に同大学文学部社会学科を基礎として開設されたが、その際にも本学人文学学部社会学専攻の入学者・志願者に影響はなかった。したがって、本学人文学部社会学科設置以降も一定の併願者が存在することが見込まれるが、これら四大学の社会学系学部はいずれも収容定員 1,000 名を超える大規模な学部であり、また地理的に離れていることから、収容定員が 380 名という小規模な本学人文学部社会学科とは実質的な受験層の重なりに影響はないと思われる。

広島市内では、広島県公立大学法人叡啓大学が 2021 年に開設された。この大学は、ソーシャルシステムデザイン学部ひとつを擁する単科大学であり、「社会を俯瞰する視野を持ち、他者との協働のもと、文理の枠を越えた知識やスキルを組み合わせて課題の解決を図り、新たな価値を創り出すことのできる人材を育成し、地域から国際社会まで広く貢献する」という理念から推察するに、本学の教育理念に重なる部分も多いと考えられる。「ソーシャル・デザイン」という、いわゆる「社会計画・社会構想」を教育の主軸に据えている。入学定員は 100 名と設定しているが、総合型選抜入試と学校推薦型選抜入試で 70 名、一般入試で 10 名、留学生入試で 20 名という内訳となっており、総合型選抜入試や学校推薦型選抜入試では、受験者層が一部重なる可能性はあるかもしれないが、「社会学」という学問領域により焦点化することになる本学社会学科と「社会構想」に重きを置き、リベラルアーツ的な教育を導入する叡啓大学ソーシャルシステムデザイン学部の受験者層のニーズは異なっているといえる【資料 5】。

E. 既設学部等の学生確保の状況

広島修道大学の過去 5 年間の入学志願者状況

広島県内には 15 校の私立大学、広島市内には 10 校の私立大学があり、広島県約 279 万人、広島市約 120 万人の総人口、広島県 26,125 人、広島市 11,775 人の 18 歳人口に比して、多くの大学が存在する【資料 4】。そのため、私立大学間において学生確保の激しい競争が生じており、入学定員を確保できない大学も多い。本学は、広島県内の私立大学としてはもっとも多い入学定員、収容定員を有する大学であるが、過去 5 年間、大学全体として入学定員を充足してきたことはもちろんのこと、学部単位で見ても、入学定員を充足できなかったことは過去 5 年間一度もない。広島県内において、過去 5 年間入学定員未充足の学部がない大学は、近畿大学、日本赤十字広島看護大学、本学の 3 校のみであり、単科大学である近畿大学工学部、日本赤十字広島看護大学看護学部を除けば、複数の学部を持つ総合大学では、本学のみである。

本学の過去 5 年間の志願者状況は、2018 年度 10,611 名、2019 年度 11,457 名、2020 年度 11,236 名、2021 年度 11,071 名、2022 年度 9,804 名であり、平成 28 年度にそれ以前の 15 年間においてはじめて 1 万人を超えて、2019 年度に 1 万 1 千人を超えて以降は、やや減少傾向にある。全学的な志願倍率は 2019 年度に 8.1 倍であったが、2020 年度以降は 6 倍強から 7 倍強にとどまっている【資料 6】。

本学の入学定員は、平成 4 年度から平成 21 年度まで 1,255 名、平成 22 年度から平成 27 年度まで 1,260 名であり、平成 28 年度に 50 名増員して 1,310 名、平成 29 年度に 105 名増員して 1,415 名となったが、志願倍率は、約 7 倍から 8 倍を維持している。したがって、大学全体としても十分な志願者を確保できているといえる。

人文学部人間関係学科社会学専攻の過去 5 年間の志願者状況

人文学部人間関係学科社会学専攻の過去 5 年間の入学者は、2018 年度 72 名、2019 年度 54 名、2020 年度 67 名、2021 年度 49 名、2022 年度 69 名であり、2019 年度と 2021 年度を除き定員を充足している。毎年度、定員管理を厳格に行った合格発動をしているが、2019 年度と 2021 年度については、他大学等との併願者のなかで他大学への入学を決めた受験生が多かったと推測され、入学者が想定よりも減少したものと考えられる。なお、この 2 年度においても、志願者数それ自体は減少しておらず一般選抜の志願者数も多い【資料 6 】。

過去 5 年間の志願者の状況に関して、2018 年度志願者延べ人数は 679 名（403 名）[以降カッコ内は他学科併願者の内数]、受験者延べ人数 673 名（402 名）、合格者延べ人数 249 名（100 名）であった。2019 年度志願者延べ人数 655 名（392 名）、受験者延べ人数は 648 名（388 名）、合格者延べ人数は 172 名（55 名）であった。2020 年度志願者延べ人数は 557 名（299 名）、受験者延べ人数は 548 名（295 名）、合格者延べ人数は 227 名（76 名）であった。2021 年度志願者延べ人数は 669 名（384 名）、受験者延べ人数は 662 名（376 名）、合格者延べ人数は 234 名（82 名）であった。2022 年度志願者延べ人数は 549 名（317 名）、受験者延べ人数は 544 名（314 名）、合格者延べ人数は 253 名（101 名）であった。志願者、受験者、合格者及び他学科併願者の 2018 年度から 2022 年度入試における実人数については、添付資料を参照されたい【資料 6 】。志願者数に関しては、この 5 年間ではおおよそ 500 人台後半から 600 人台後半のあいだを維持している。この 5 年間の定員に対する志願倍率は、延べ人数では 9.2 倍から 11.3 倍であり、実人数では 4.3 倍から 5.5 倍であった。この 5 年間における大学全体の定員に対する延べ人数の志願倍率が 6.9 倍から 8.1 倍であり、実人数の志願倍率が 2.3 倍から 2.6 倍であることを考えると、人文学部人間関係学科社会学専攻は十分な志願者を確保できているといえる【資料 6 】。

また、人文学部人間関係学科社会学専攻の延べ人数での競争率（志願者／合格者）は、2018 年度 2.7 倍、2019 年度 3.8 倍、2020 年度 2.4 倍、2021 年度 2.8 倍、2022 年度 2.2 倍となっており、2 倍強から年度によっては 3 倍強になっている。実人数での競争率は 2018 年度 2.2 倍、2019 年度 2.5 倍、2020 年度 1.9 倍、2021 年度 2.1 倍、2022 年度 1.6 倍となっている。したがって、十分な入学者選抜試験を実施することが可能な状況にあるといえる【資料 6】。

オ．学生確保に向けた具体的な取組と見込まれる効果

魅力的な大学づくり

本学学生の 80%が広島県出身者で占められ、本学は広島県内のみならず中国地方では高い競争力を維持している。しかし、今後の学生確保に向けては一層魅力的な大学づくりを行うことは喫緊の課題といえよう。現在あるいは社会学科が開設を予定している 2024 年度に向けて、広島修道大学が取り組んでいる「魅力ある大学づくり」は以下の点に要約される。

①全学的なカリキュラム改定の一環としての全学共通科目の改革とワールドステージプログラムの開設

2024 年度より全学的なカリキュラム改定の一環として、「全学共通科目」の内容を一新する。「全学共通科目」は全学部の学生を対象にし、学問分野を領域別、目的別に配置した科目であり、「地域理解科目」、「国際理解科目」、「一般教養科目」、「スポーツ・健康科目」、「キャリアデザイン科目」、「データサイエンス科目」という 6 つのカテゴリーで構成する。これらは 4 年間の大学教育を通じて、深い教養と総合的な判断力を培い、豊かな人間性を養っていくための土台となる幅広い知識・技能を、自ら選び身につけることを目的として設置している。

地域理解科目と国際理解科目は、本学の理念でもある「地球的視野を持って、地域社会の発展に貢献できる人材育成」を目指すということと呼応する科目群となっている。また、これまで「情報処理科目群」としていたものを新たに「データサイエンス科目」として設置し、社会変化によって要請される能力育成に対応するものである。

本学では、教育目標のひとつとして、「地球的視野を持つ人材の養成」を掲げ、体験と教育の両面から支援してきた。そのひとつが留学支援であり、15 の国・地域の 32 の海外協定大学で行われる海外セミナーや交換留学などがプログラムとして設置されている。こうした体験プログラムを教育面から支えてきたのが「グローバル科目」である。

この留学体験を支援する仕組みとして、2024 年度よりワールド・ステージ・プログラムが開始される。カリキュラム面では、全学共通の「国際理解科目」が支えることになる。

ワールド・ステージ・プログラムは、「修道スペシャルプログラム」の一つとして位置づけられ、「ステージ」には、留学に必要な語学要件や留学後の語学力向上の目安を示す「段階的ステージ」と世界とつながる経験をする「舞台（ステージ)」の二つの意味を含ませ、学生個々のニーズに合ったさまざまな「ステージ創出」を支援するプログラムを策定する。このプログラムは、英語圏だけではなく、英語以外の言語圏への留学プログラムに対しても対応できるようになっており、また、留学希望者の語学能力に合わせて推奨プログラムを配する工夫もしている。

近年、人文学部人間関係学科社会学専攻の入学生のなかにも、留学を希望する学生も以前より増加してきており、また留学先の志望としては英語圏以外の国を選ぶ学生も増えていることから、ワールド・ステージ・プログラムのような、学生の語学能力に合わせ、多様な

内容をもつ留学支援制度の開始は、入学希望学生にとっては魅力的なものになると考える。

②人文学部総合科目の充実化

人文学部では、ディシプリン（学問的規律）によって学問領域に拘束された対象や方法論に依拠した知のあり方を「専門知」と位置づけている。他方、専門的ディシプリンから比較的自由な知のあり方で、むしろ専門領域を領域横断的に結んでいくときに用いられる知を「総合知」として位置づける。これは、ディシプリンから自由な思考や発想に基づくものであり、また専門知・専門領域にも柔軟に影響を与え、さらに変化を迫るような学問領域ともいえるものである。

人文学が探究する対象が「人間」であるとすれば、その「人間」を思考する場合、一面的なアプローチでの考察では不十分であり、多様な視点から「人間」を考察の対象とするための「総合知」は意味あるものとなり、また必要である。こうした視点は、人文学部カリキュラムポリシーにおける「視野の拡大」に大きくかかわる部分となる。

「総合知」は、時間的な広がりとして過去から未来までの「歴史」、そして「空間的広がり」として自分が生活している場所や地域だけでなく、異なる社会や国家についても考察を広げていくことが含まれる。こうした科目の特徴から、受講者は、自己について考えるとともに、「自己とは異なる他者」「自分が生きる社会とは異なる社会」など、他者や異なる社会を理解する方法を習得する。この習得には、自らが生きる場所に立ちながら、他者や異なる社会や他国を想像するための「想像力」も含まれる。

従来、人文学というと座学中心に展開する傾向にあったが、学知とは、思考のみを対象とするだけでなく、実践とも密にかかわるものといえる。人文学部ディプロマ・ポリシーにおける「多様な人々との『協創』」項目および同学部カリキュラムポリシーにおける「経験の拡充」の項目を具体化すべく、思考と実践の相互の連関と、学生の主体的な学びを重視するという観点から、人文学部では実践や体験に重点を置いた科目の配置にも注力していく。

③社会調査士資格関連の科目の配置

これまで社会学を修得することによって得られる資格はほとんどなかったといってよい。社会学科開設に伴い、社会調査士資格関連の授業を配置し、履修・単位修得することにより社会調査協会より認定されることで、社会調査士の資格を得られるように整備する。

社会調査による実証的研究を理解し、量的・質的調査法を修得することは、社会学を学ぶ上で極めて重要である。社会調査に関する社会学的スキルは、学生が社会学的調査法を理解して自ら調査を設計し、実施した調査結果を分析して報告書を作成するというプロセスを経て修得するものである。社会学科では、一年次必修科目で「社会調査概論」「社会調査方法論」を導入科目として配置し、二年次から選択科目として社会調査関連科目を、三年次に社会調査実習に相当する「量的社会調査演習」「質的社会調査演習」を履修修得することで、学生が社会調査のスキルを身につけ、社会調査士資格(社会調査協会認定資格)を取得可能と

なるように配置している。社会学科では、社会調査に関連した科目は言うまでもなく、講義・演習・卒業研究にあっても、調査(計画・設計)における作業やコミュニケーション、体験的フィールドワークなど、社会調査実習の要素がある程度組み込まれることになる。

社会学科を開設する 2024 年度に向けて広島修道大学が取り組んでいる「魅力ある大学づくり」のためのカリキュラム改定・留学支援制度や「人文学部総合科目の充実化」と「社会調査士資格関連科目の配置」など社会学科専門カリキュラムとを体系的・有機的に構成することを通じて、社会学科が養成する人材に対する社会的要請がより高まることによって、受験生のニーズに応える効果が見込まれると考える。

（2）人材需要の動向等社会の要請

①人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的（概要）

社会学科の学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）は、次の 3 つに分類される能力を修得した者に学位を授与することとしており、これらの能力を学生に修得させることが社会学科の教育上の目的となる。

学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

社会学科は、現代社会の課題を発見・理解・解決する能力の養成、コミュニケーション能力の育成をとおして、学生一人ひとりが「地球的視野を持って、地域社会の発展に貢献できる人材」となり、かつ個性的、自律的な人間となることができるよう、以下の 3 点を身につけるべき学士力として明示します。

1)知識・技能

社会学の知識に基づく視角・方法・理論の成り立ちと現代的展開を修得し、実社会における現象や問題・課題について、社会学的に理解・分析し、自身の考えを表現する技能を身につけている。

2)思考力・判断力・表現力

修得した社会学的知識と技能を基礎に、自ら社会的な課題を発見し、社会問題の解決に取り組み、その成果を表現するために必要な社会学的思考力・判断力・コミュニケーション能力を身につけている。

3)協創力

激しく変動する現代社会において、自ら身につけた社会学的知識を多様な科学や学問に

照らしつつ、主体性をもって多様な人々と協力し、学び合い、新たな価値を創造する意欲と実行力を身につけている。

社会学科では、以上のような能力を社会学を体系的に教育することを通じて涵養するなかで、個性的で自律的な人間を育成するというポリシーのもと、本学の「地球的視野を持って、地域社会の発展に貢献できる人材」を育成することがめざされる。

また、これらの教育上の目的とそれに沿った人材育成によって、学科の卒業生は次のような分野において就職をめざすことになる。

マスメディア、公務（行政・警察・消防など）、卸売・小売、服飾関係、観光、金融、情報通信、製造、教育関係、大学院進学など。

②上記①が社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであることの客観的な根拠

客観的根拠―ニーズアセスメント調査結果

人文学部社会学科の設置構想に伴い、第三者機関（株式会社紀伊國屋書店）によるニーズアセスメント調査を実施した。この調査は、新設予定の人文学部社会学科について、学生確保の見通しを示す高校生向けアンケート調査と人材需要の見通しを示す各種事業所向けアンケート調査からなっている。ここでは後者の人材需要の見通しを示す各種事業所向けアンケート調査の結果について簡潔に述べる。

この調査では、設置構想中の社会学科が養成する人材の採用が見込まれる、広島県を中心とした中国・四国地方ならびに東京都・大阪府などに本社を置く企業のほか、中国地方の地方自治体（県・市・町）を対象とし、令和 4 年（2022 年）7 月～8 月の期間に回答を依頼した。

調査内容の項目は、回答者の所属する事業所（機関・施設・会社）の属性に関する項目（質問１・質問２・質問３）、広島修道大学人文学部社会学科を卒業した人材の社会的ニーズの高さ（質問４）、広島修道大学人文学部社会学科を卒業した人材の採用可否（質問５）およびその人数（質問６）であり、質問７では広島修道大学人文学部社会学科に対する意見・要望を自由記述で回答していただいた【資料７】。調査票は、1,225 か所の事業所に送付し、そのうちの 415 か所より回答があった。有効回答率は 33.9%である。415 か所の内訳で主なものを挙げると、「卸売業・小売業」101、「製造業」59、「公務」49、「建設業」32、「医療・福祉」29、「情報サービス業」25、「複合サービス業・その他サービス」23、「金融業・保険業」22、「運輸業」17、「学術研究、専門・技術サービス業」10、などである【資料８】。

社会学科のニーズについては、「ニーズが極めて高い」と回答した事業所が、19.3%、「ニーズはある程度高い」と回答した事業所は 68.7%となり、二つの回答カテゴリーを合計す

ると 88%の事業所が、ニーズがあると認めている。また、採用の意向については、「採用したい」と回答した事業所は 33.7%、「採用を検討したい」と回答した事業所は 41.2%となり、合計すると 7 割強の事業所は採用意向を示している。そのうえで、採用可能人数をみてみると、641 人であり、この数字は入学定員 95 名を大きく上回っている【資料 9】。

以上のように、こうした企業に対するニーズ調査によって、社会学科に対するニーズは高く、社会学科を卒業した人材の採用可能性も非常に高いということがわかった。さらに、本調査で特筆すべき点は、自由回答記述欄に見られるような、社会学を専攻した人材に対する期待の高さであった。自由記述欄の回答で多く見られたのは、企業・事業所として「VUCA の時代」、すなわち「Volatility（変動性）」「Uncertainty（不確実性）」「Complexity（複雑性）」「Ambiguity（曖昧性）」という特徴により規定される時代や社会の将来を見極め、見通す力が求められていることであり、こうした力を社会学という学問領域に期待しているということである。たとえば、「VUCA 時代に対応していくためには、社会学的知識を活かし、主体的に課題を発見し、多角的に解決に導く人材が必要不可欠です。多様な価値観が存在する組織において、その能力を発揮できる人材の育成に期待しております。」（製造業、小売業　広島市 500 人～999 人規模）、「VUCA 時代と呼ばれる昨今、御学科において学ばれる学生、そして教育内容が、これからの社会を創っていくことと思われます。社会学科（仮称）の学生だけではなく、御校をご卒業される学生 1 人ひとりに期待をしております。」（複合サービス業、その他のサービス、岡山県　1,000 人～2,999 人規模）。また、社会学科は教育内容等で「多様性」や「多様な価値観の理解や受容」を重視しているが、そうした「多様性」や「多様な価値観」という観点で社会学科に対して期待している自由回答も見られる。「多様化する社会で将来職に就いた際に多角的な視点で企業の問題をみつけ、少しでも改善していける人材となる学生が出てくる点を期待しております。」（卸売業・小売業　島根県　1,000 人～2,999 人規模）「公務部門においては、多様性や市民との協創によりまちづくりが求められていますので、ぜひ、養成する人材を育成してほしいと思います。」（公務　山口県　500 人～999 人規模）このように、自由記述欄の回答を見ると、社会学科の目指す教育内容を企業や事業所が理解し、教育により涵養される能力に対して、現代の企業社会が抱える諸問題という観点から期待してくれていることがわかる【資料 10】。

以上のように、人材に関するニーズアセスメント調査の結果から、社会学科の卒業生の企業・事業所への採用可能性を考慮しても、社会学科の入学定員を 95 名とすることが適切であると考える。

学生の確保の見通し等を記載した書類

添付資料　目次

資料１……社会学科 学生確保の見通し調査報告書

資料２-１…私立大学 社会学科入学定員＆一般選抜志願者数 増減表

資料２-２…私立大学 学科系統別入学定員＆一般選抜志願者数 増減表

資料３……都道府県別 18 歳人口予測値推移

資料４……広島県・広島市・安佐南区年齢別人口（令和 2 年国勢調査）に基づく 18 歳人口予想

資料５……競合校の入学定員・入学者数・定員充足率の推移

資料６……広島修道大学全学及び人文学部人間関係学科社会学専攻 入試統計

資料７……社会学科 人材需要の見通し調査票及び設置構想資料

資料８……社会学科 人材需要の見通し調査報告書 回答企業内訳

資料９……社会学科 人材需要の見通し調査報告書 ニーズと採用意向

資料 10……社会学科 人材需要の見通し調査報告書 自由記述回答

資料1

広島修道大学
人文学部「社会学科（仮称）」
設置に係る学生確保の見通し調査
（設置構想についての学生確保アンケート調査）
報告書

令和４年１１月

株式会社紀伊國屋書店

株式会社高等教育総合研究所

広島修道大学

人文学部「社会学科（仮称）」

設置に係る学生確保の見通し調査

（設置構想についての高校生アンケート調査）

報告書　目次

1. 高校生アンケート調査　実施概要　3

2. 高校生アンケート調査　集計結果　4

3. 高校生アンケート調査　集計結果ポイント　7

（添付資料）高校生アンケート調査用紙／人文学部「社会学科（仮称）」リーフレット　11

1. 高校生アンケート調査　実施概要

調査対象	広島修道大学が人文学部に設置構想中の「社会学科（仮称）」への入学が見込まれる、広島県をはじめとする中国地方・四国地方・九州地方の高校に、高校2年生（令和4年度時点）を対象とした高校生アンケート調査の実施を依頼し、79校から実施協力を得た（地域別高校数一覧は以下参照）。
調査内容	● 回答者の基本情報（居住地、性別） ● 回答者の希望進路、興味のある学問分野 ● 広島修道大学人文学部「社会学科（仮称）」への受験・入学意向 全7問ですべて選択肢式。
調査時期	令和4（2022）年8月～10月
調査方法	アンケート用紙、「社会学科（仮称）」リーフレットを必要部数送付。ホームルームで配付の上、その場で回答し回収いただいた。
回答件数	有効回答数10,220人

高校生アンケート調査実施の地域別高校数

	公立	私立	合計	%
鳥取県	0	1	1	1.3%
島根県	6	2	8	10.1%
岡山県	3	3	6	7.6%
広島県	29	15	44	55.7%
山口県	7	2	9	11.4%
香川県	0	1	1	1.3%
愛媛県	5	3	8	10.1%
長崎県	0	1	1	1.3%
大分県	1	0	1	1.3%
合計	51	28	79	100.0%
%	64.6%	35.4%	100.0%	

高校生アンケート調査実施の高校所在地別・回答者数

	公立	私立	合計	%
鳥取県	0	97	97	0.9%
島根県	956	179	1,135	11.1%
岡山県	368	290	658	6.4%
広島県	3,878	2,459	6,337	62.0%
山口県	729	78	807	7.9%
香川県	0	101	101	1.0%
愛媛県	637	216	853	8.3%
長崎県	0	164	164	1.6%
大分県	68	0	68	0.7%
合計	6,636	3,584	10,220	100.0%
%	64.9%	35.1%	100.0%	

2. 高校生アンケート調査　集計結果

※「構成比」(%)はいずれも、小数点第二位を四捨五入。

問1　あなたがお住まいの市町村または都道府県をお答えください。(あてはまるもの1つにマーク)

選択肢		回答数	構成比(%)
1	広島市	3,212	31.4%
2	広島県(広島市以外)	3,078	30.1%
3	山口県	835	8.2%
4	島根県	1,113	10.9%
5	鳥取県	87	0.9%
6	岡山県	653	6.4%
7	愛媛県	853	8.3%
8	その他	372	3.6%
	無回答	17	0.2%
合計		10,220	100.0%

問2　あなたの性別をお答えください。(あてはまるもの1つにマーク)

選択肢		回答数	構成比(%)
1	女性	5,481	53.6%
2	男性	4,462	43.7%
3	どちらでもない	51	0.5%
4	わからない	57	0.6%
5	答えたくない	115	1.1%
6	その他	32	0.3%
	無回答	22	0.2%
合計		10,220	100.0%

問3　高校卒業後の希望進路についてお答えください。(あてはまるもの1つにマーク)

選択肢		回答数	構成比(%)
1	進学	9,509	93.0%
2	就職	496	4.9%
3	その他	169	1.7%
	無回答	46	0.5%
合計		10,220	100.0%

問4　あなたの興味のある学問分野をお答えください。（あてはまるもの3つまでマーク）

選択肢		回答数	回答率（%）
1	社会学	1,327	13.0%
2	文学、史学、哲学、心理学、外国語学など	2,659	26.0%
3	教育学・保育学	2,227	21.8%
4	経営学・経済学	2,476	24.2%
5	法学・政治学	1,065	10.4%
6	理学（数理科学、物理学、化学など）	779	7.6%
7	工学（機械工学、電気電子工学、応用化学、建築学など）	1,292	12.6%
8	農学（農学、農業経済学、林学、水産学、獣医学など）	611	6.0%
9	医学・歯学・薬学	1,207	11.8%
10	保健衛生学（看護学、リハビリ、臨床検査学など）	2,006	19.6%
11	家政学（生活科学、栄養学、住居学、被服学など）	941	9.2%
12	芸術学（音楽、デザイン、美術など）	1,458	14.3%
13	その他	1,111	10.9%

※複数回答の結果。回答率＝各回答数÷回答対象者（10,220人）である。

問5以降は広島修道大学人文学部「社会学科（仮称）」概要を確認の上、回答を求めた。

問5　あなたは広島修道大学が開設予定の人文学部「社会学科(仮称)」を受験したいと思いますか。（あてはまるもの1つにマーク）

選択肢		回答数	構成比（%）
1	受験したい	612	6.0%
2	受験したいと思わない	9,210	90.1%
	無回答	398	3.9%
合計		10,220	100.0%

問6は問5で「受験したい」とした612人に回答を求めた。

問6　あなたは問5で「受験したい」とした広島修道大学人文学部「社会学科(仮称)」に合格した場合、入学したいと思いますか。（あてはまるもの1つにマーク）

選択肢		回答数	構成比（%）
1	合格した場合、入学したい	259	42.3%
2	合格した場合、併願校の合否により入学を検討する	352	57.5%
	無回答	1	0.2%
合計		612	100.0%

問7は問5で「受験したいと思わない」とした9,210人に回答を求めた。

問7 あなたが問5で広島修道大学人文学部「社会学科(仮称)」を「受験したいと思わない」とされた理由をお答えください。（あてはまるもの3つまでマーク）

選択肢		回答数	回答率（%）
1	広島修道大学人文学部「社会学科(仮称)」に興味・関心はあるが、詳細を知った上で検討したい	747	8.1%
2	興味・関心のある学科ではないから	5,009	54.4%
3	国公立大学への進学を希望しているから	2,654	28.8%
4	他の私立大学への進学を希望しているから	1,579	17.1%
5	短期大学・専門学校への進学を希望しているから	946	10.3%
6	就職を希望しているから	388	4.2%
7	進路は未定だから	1,286	14.0%
8	通学に時間がかかりそうだから	510	5.5%
9	学費が高いから	801	8.7%
10	その他	203	2.2%

※複数回答の結果。回答率＝各回答数÷回答対象者（9,210人）である。

3. 高校生アンケート調査　集計結果ポイント

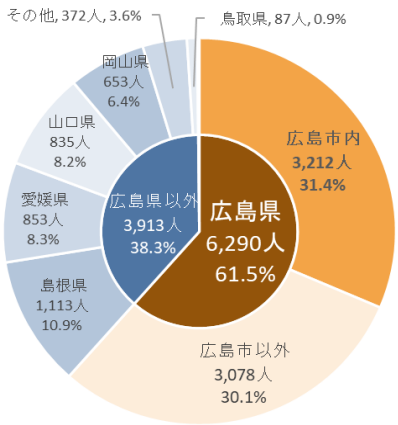
①回答者の基本情報1

Point 1	広島修道大学が学生確保の基盤とする広島県や周辺県の高校生10,220人がアンケートに回答。性別では「男性」4,462人に対して「女性」5,481人が上回る。

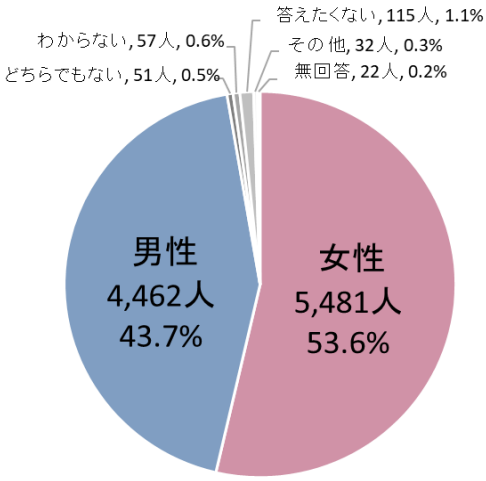
広島修道大学が人文学部に設置構想中の人文学部「社会学科（仮称）」の学生確保の見通しを検証するため、高校生アンケート調査を実施し、10,220人から回答を得た。

回答者の居住地として、全体の約6割にあたる6,290人は広島県内（広島市内・広島市以外が各3割ずつ）であり、その他は、島根県、愛媛県、山口県、岡山県など広島修道大学が学生確保の基盤とする地域の高校生からの回答であった。性別は、「女性」5,481人（53.6%）が最も多く、ついで「男性」4,462人（43.7%）であった。

グラフ1：回答者の居住地（問1結果より）



グラフ2：回答者の性別（問2結果より）

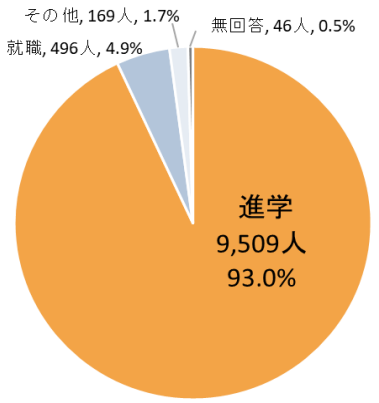


②回答者の基本情報2

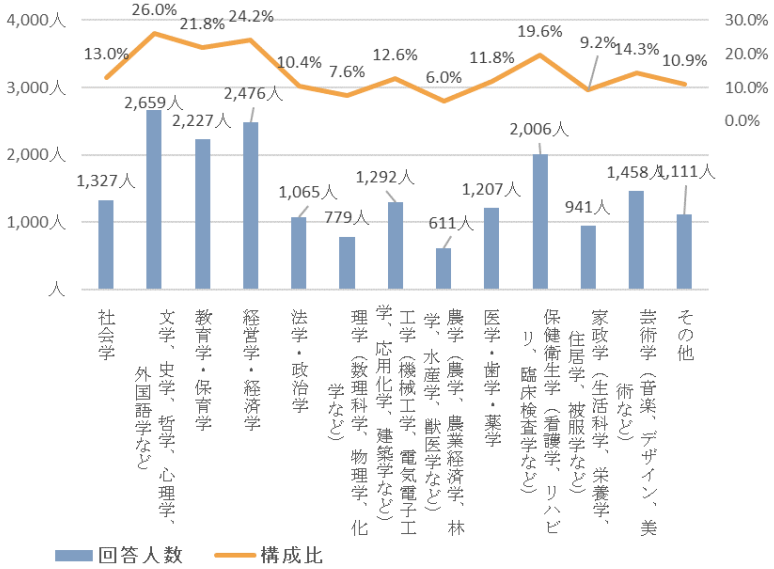
Point 2	回答を得た高校生の9割以上が進学希望者で、興味のある学問分野は「社会学」1,327人のほか、「経営学・経済学」「文学、史学、哲学、心理学、外国語学」など文系希望者が中心。

高校卒業後に希望する進路先については、「進学」が9,509人（93.0%）で全体の9割以上を占めた。さらに興味のある学問分野については、本学科に関連する「社会学」は1,327人（13.0%）の他、同じ社会科学系の「経営学・経済学」2,476人（24.2%）や文系分野の「文学、史学、哲学、心理学、外国語学など」2,659人（26.0%）が多かった（興味のある学問分野は複数回答の結果）。

グラフ3：回答者の希望進路（問3結果より）



グラフ4：回答者の興味のある学問分野（問4結果より）

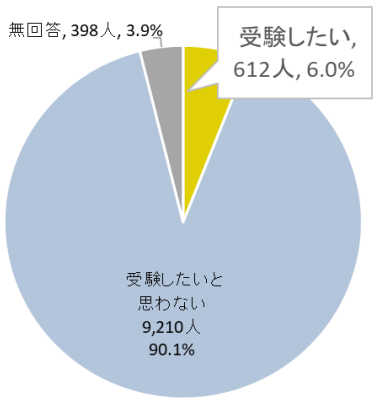


③広島修道大学 人文学部「社会学科（仮称）」の受験・入学意向について

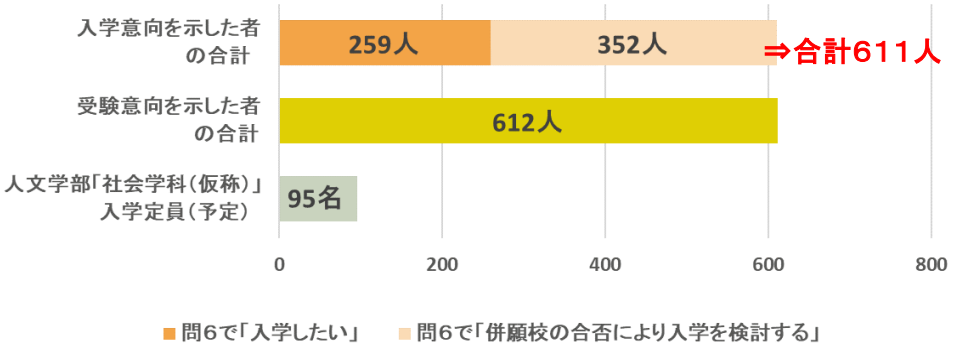
Point 3	広島修道大学の人文学部「社会学科（仮称）」に対し入学定員95名の6.4倍となる612人が受験意向を示し、その上で2.7倍となる259人が合格した場合の入学を強く希望。

広島修道大学人文学部「社会学科（仮称）」の概要リーフレットを提示した上で、受験・入学意向について回答を求めた。結果、「社会学科（仮称）」を「受験したい」としたのは612人（6.0％）で、「社会学科（仮称）」が予定する入学定員95名の6.4倍の水準であった。これらの受験意向を示した高校生に対し、合格した場合の入学意向について回答を求めたところ、強い入学意向を持つと考えられる「合格した場合、入学したい」とした回答者は259人で、入学定員の2.7倍に及ぶ水準であった。他にも「合格した場合、併願校の合否により入学を検討する」は352人であった。

グラフ5：広島修道大学人文学部「社会学科(仮称)」受験意向（問5結果より）



グラフ6：広島修道大学人文学部「社会学科（仮称）」入学意向の状況（問6結果より/一部、問5結果より）



④クロス集計結果

Point 4	高校卒業後に「進学」を希望し、興味のある学問分野について「社会学」と回答した高校生のうち、広島修道大学人文学部「社会学科（仮称）」に「合格した場合、入学したい」と回答した高校生は、広島修道大学人文学部「社会学科（仮称）」が予定する入学定員95名を上回る100人。

広島修道大学人文学部「社会学科（仮称）」を「受験したい」と回答した上で、「合格した場合、入学したい」と回答した259人について、問3（高校卒業後の希望進路）、問4（興味のある学問分野）とのクロス集計を行った。その結果、高校卒業後に「進学」を希望し、興味のある学問分野について「社会学」としている高校生は、広島修道大学人文学部「社会学科（仮称）」が予定する入学定員95名を上回る100人存在した。

「合格した場合、入学したい」とした回答者を問3・問4のクロス集計結果別にみた場合、高校卒業後は「進学」で興味のある学問分野は「社会学」と回答した上記の100人が最も多い。次いで、多いのは高校卒業後「進学」とし同じ社会科学系の「経営学・経済学」に興味があるとした95人、その次に多いのは「文学、史学、哲学、心理学、外国語学など」は88人であった（いずれも複数回答の結果）。社会学が対象とする領域は幅広く、これらの分野も社会学に関わりが深い分野である。よって、「社会学」以外のこれらの分野に興味を持つ高校生が、広島修道大学人文学部「社会学科」への入学意向を示していることはなんら不自然ではない結果であると言える。

表1： 高校卒業後「進学」を希望する者のうち、広島修道大学人文学部「社会学科（仮称）」に「合格した場合、入学したい」と回答した者について、興味のある学問分野の回答状況

興味のある学問分野（問4）	高校卒業後「進学」を希望（問3）
社会学	100人
文学、史学、哲学、心理学、外国語学など	88人
教育学・保育学	75人
経営学・経済学	95人
法学・政治学	45人
理学（数理科学、物理学、化学など）	10人
工学（機械工学、電気電子工学、応用化学、建築学など）	16人
農学（農学、農業経済学、林学、水産学、獣医学など）	12人
医学・歯学・薬学	17人
保健衛生学（看護学、リハビリ、臨床検査学など）	29人
家政学（生活科学、栄養学、住居学、被服学など）	20人
芸術学（音楽、デザイン、美術など）	28人
その他	15人

※問3は択一式、問4は複数回答。

人数多い　　人数少ない

広島修道大学
人文学部「社会学科(仮称)」

設置構想についての高校生アンケート調査

（対象：現在 高校２年生の皆さん）

広島修道大学は2024(令和6)年度、人文学部人間関係学科社会学専攻を改組し、人文学部「社会学科(仮称)」(定員95名)の開設を構想しています。本学ではこのアンケート調査を通して、2024(令和6)年度に大学進学時期をむかえる現・高校2年生の皆さんからさまざまなご意見をお聞きし、さらなる計画の充実を図っていきたいと考えています。皆さんから回答いただいた情報は広島修道大学の新設学科設置構想に係る統計資料としてのみ活用いたします。

皆さんのアンケート調査へのご協力を、よろしくお願いいします。

※このアンケート調査は広島修道大学から委託された第三者機関（株式会社紀伊國屋書店・株式会社高等教育総合研究所）が実施しています。

【記入例】 正しい回答 ● ✓　誤った回答 ◯ ✓

・上の記入例を参考に、黒鉛筆またはシャープペンでご回答ください。
・誤って記入した回答は消しゴムでしっかりと消してください。

問１ あなたがお住まいの市町村または都道府県をお答えください。（あてはまるもの1つにマーク）

- ◯ 広島市
- ◯ 広島県（広島市以外）
- ◯ 山口県
- ◯ 島根県
- ◯ 鳥取県
- ◯ 岡山県
- ◯ 愛媛県
- ◯ その他 ［　　］

問２ あなたの性別をお答えください。（あてはまるもの１つにマーク）

- ◯ 女性
- ◯ 男性
- ◯ どちらでもない
- ◯ わからない
- ◯ 答えたくない
- ◯ その他

問３ 高校卒業後の希望進路についてお答えください。（あてはまるもの1つにマーク）

- ◯ 進学
- ◯ 就職
- ◯ その他

問４ あなたの興味のある学問分野をお答えください。（あてはまるもの3つまでマーク）

- ◯ 社会学
- ◯ 教育学・保育学
- ◯ 法学・政治学
- ◯ 工学（機械工学、電気電子工学、応用化学、建築学など）
- ◯ 医学・歯学・薬学
- ◯ 家政学（生活科学、栄養学、住居学、被服学など）
- ◯ その他
- ◯ 文学、史学、哲学、心理学、外国語学など
- ◯ 経営学・経済学
- ◯ 理学（数理科学、物理学、化学など）
- ◯ 農学（農学、農業経済学、林学、水産学、獣医学など）
- ◯ 保健衛生学（看護学、リハビリ、臨床検査学など）
- ◯ 芸術学（音楽、デザイン、美術など）

本アンケート調査用紙に印刷されている
QRコードは集計時に使用するものです。
個人の特定を目的とするものではありません。

問５以降は広島修道大学人文学部「社会学科(仮称)」リーフレットをご覧いただき、お答えください。

問５ あなたは広島修道大学が開設予定の人文学部「社会学科(仮称)」を受験したいと思いますか。
（あてはまるもの１つにマーク）

- ( ) 受験したい ⇒ 問6 にお答えください。
- ( ) 受験したいと思わない ⇒ 問7 にお答えください。

問５で「受験したい」と回答した方は、以下の問６にお答えください。

問６ あなたは問5で「受験したい」とした広島修道大学人文学部「社会学科(仮称)」に合格した場合、入学したいと思いますか。
（あてはまるもの１つにマーク）

- ( ) 合格した場合、入学したい
- ( ) 合格した場合、併願校の合否により入学を検討する

問５で「受験したいと思わない」と回答した方は、以下の問７にお答えください。

問７ あなたが問5で広島修道大学人文学部「社会学科(仮称)」を「受験したいと思わない」とされた理由をお答えください。
（あてはまるもの3つまでマーク）

- ( ) 広島修道大学人文学部「社会学科(仮称)」に興味・関心はあるが、詳細を知った上で検討したいから
- ( ) 興味・関心のある学科ではないから
- ( ) 国公立大学への進学を希望しているから
- ( ) 他の私立大学への進学を希望しているから
- ( ) 短期大学・専門学校への進学を希望しているから
- ( ) 就職を希望しているから
- ( ) 進路は未定だから
- ( ) 通学に時間がかかりそうだから
- ( ) 学費が高いから
- ( ) その他 [　　]

質問は以上となります。ご協力をいただき、ありがとうございました。

本アンケート調査用紙に印刷されている
QRコードは集計時に使用するものです。
個人の特定を目的とするものではありません。

数字でみる

Hiroshima Shudo University

広島修道大学は60年を超える歴史を持つ中四国トップクラスの伝統校

幅広い多様な学び **7**学部**13**学科**4**研究科	中四国最大級の学生数 **6,276**名 （2022年5月1日現在）	充実のキャリア支援と 高い就職率 **97.8**% （2022年5月1日現在）
中四国私立大学トップクラスの 公務員合格者数 **4**年連続 **200**名超	中四国最大規模の 海外協定校数 **15**の国と地域 **32**大学	中国公私立大学最多の 蔵書数 約**92**万冊 （2022年5月1日現在）

ACCESS

広島駅	約**3**分 JR山陽本線 JR可部線	JR新白島駅/ アストラムライン白島駅	約**32**分 アストラムライン	広域公園前駅 （修道大学前）
	約**5**分 JR山陽本線 JR可部線	横川駅	約**19**分 広電バス	広島修道大学 キャンパス バス停
広島バスセンター	約**26**分 広電バス			
西広島駅	約**24**分 ボンバス「五月が丘団地行」			五月が丘団地 （修道大学南口）

広島修道大学

お問い合わせ

広島修道大学 学長室総合企画課

〒731-3195 広島市安佐南区大塚東1-1-1
Tel.（082）830-1102 Fax.（082）830-1324

設置構想中

2024年 4月 設置予定

人文学部

社会学科

（仮称）

広島修道大学

広島修道大学人文学部人間関係学科社会学専攻は、人文学部社会学科に生まれ変わります。

概　要

学部・学科名称	人文学部 社会学科	入学定員	95名（収容定員380名）
開設時期	2024(令和6)年4月	修業年限	4年
開設場所	広島修道大学（広島市安佐南区大塚東1-1-1）	取得学位	学士（社会学）

育成する人材像

社会の**課題解決力**と**多様性理解力**、そして**社会を構想し提言できる能力**を携え、
異なる価値観や文化・属性の人々と共存し、
多様な社会・職業領域で活躍できる人材を育成します。

想定される進路

- マスメディア
- 公務（行政、警察、消防など）
- 卸売・小売
- 服飾関係
- 観光
- 金融
- 情報通信
- 製造
- 教育関係
- 大学院進学　など

取得可能な資格

所定の単位取得（選択制）により、下記の資格・免許状を取得できます。

- 社会調査士
- 中学校教諭一種免許状（社会）
- 高等学校教諭一種免許状（地理歴史/公民）
- 社会教育主事（任用資格）
- 児童福祉司（任用資格）

想定する学費（周辺他大学含む）

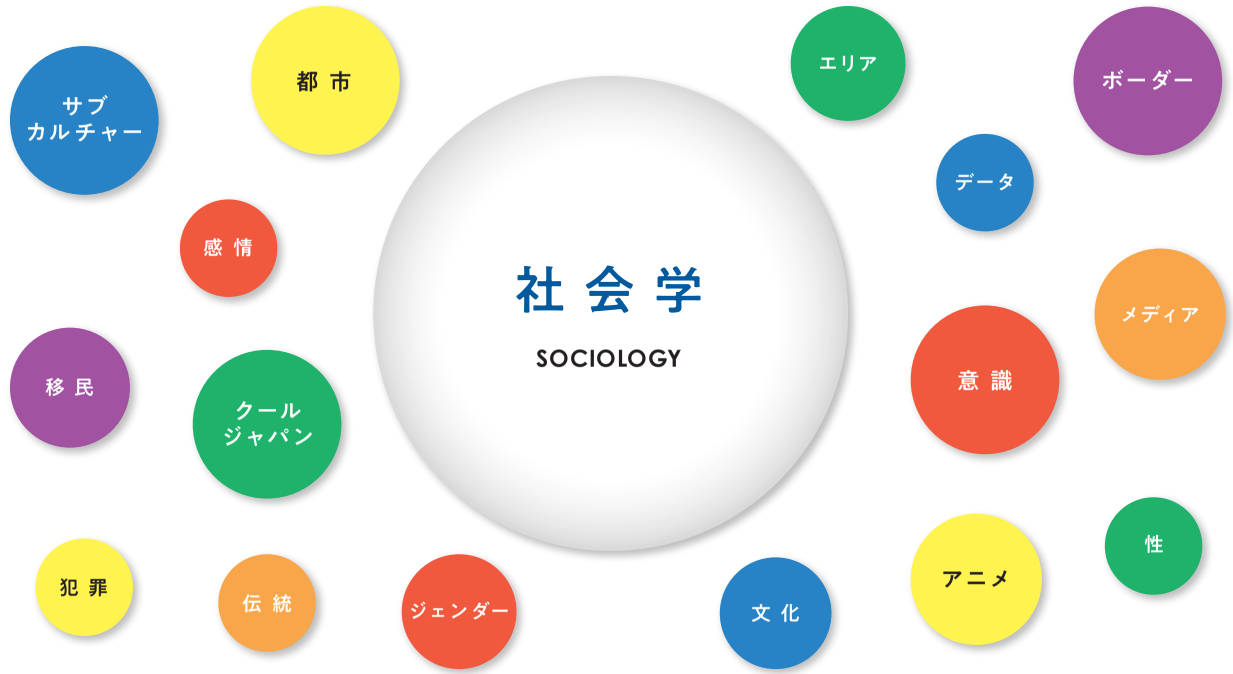
大学名 学部名 学科名（所在地）	入学金	授業料他	初年次納付金 合計
広島修道大学 人文学部 社会学科（広島県広島市）	220,000円	1,000,000円	1,220,000円
近畿大学 総合社会学部 総合社会学科（大阪府東大阪市）	250,000円	1,085,000円	1,335,000円
甲南大学 文学部 社会学科（兵庫県神戸市）	300,000円	926,000円	1,226,000円
神戸学院大学 現代社会学部 現代社会学科（兵庫県神戸市）	300,000円	1,020,000円	1,320,000円
松山大学 人文学部 社会学科（愛媛県松山市）	200,000円	780,000円	980,000円

※広島修道大学 人文学部 社会学科の納付金は予定であり、変更となる場合があります。
※各他大学の納付金は2022年5月現在、各公式WEBサイト掲載データに基づきます。
※いずれも委託徴収費（同窓会費、保険代等）は含みません。　※上記5大学は高等教育修学支援新制度の対象機関です。

社会学科で学ぶ、多種多様な領域

- 社会学の研究対象は幅広く、世の中のあらゆる現象が学びの題材です。
  その現象がなぜ起こるのか、どのような意味を持つのかを、分析・考察します。
- 社会学科の専門科目は3科目群に区分されており、社会学の諸領域や理論・方法に関する知識を修得するための**「専門講義科目」**、その領域の理解をさらに深める科目として**「演習科目」**、社会調査や社会学を学ぶ上で必要とされる情報スキルを身につけるための**「社会学情報処理科目」**があります。
- 「演習科目」はゼミナールに相当し、**多種多様な領域の中から、異なる教員が担当する複数のテーマを選択する**ことができます。2年次生から4年次生までが一緒に学ぶので、学年を超えたディスカッションを通じて、多角的に専門知識を深めることができます。
  4年次生では、自らが発見・設定した1つのテーマで集大成として「卒業研究」をまとめます。

▼「演習科目」のキーワードを例示しています。



※学科の名称は仮称です。また、学科の概要等は予定であり、今後、変更になる場合があります。

資料２-１

１．書類等の題名

私立大学　社会学科入学定員＆一般選抜志願者数　増減表（【資料２-１】16 ページ）

２．出典

豊島継男事務所　一般入試志願状況レポート

資料２-２

１．書類等の題名

私立大学　学科系統別入学定員＆一般選抜志願者数　増減表（【資料２-２】17 ページ）

２．出典

豊島継男事務所　一般入試志願状況レポート

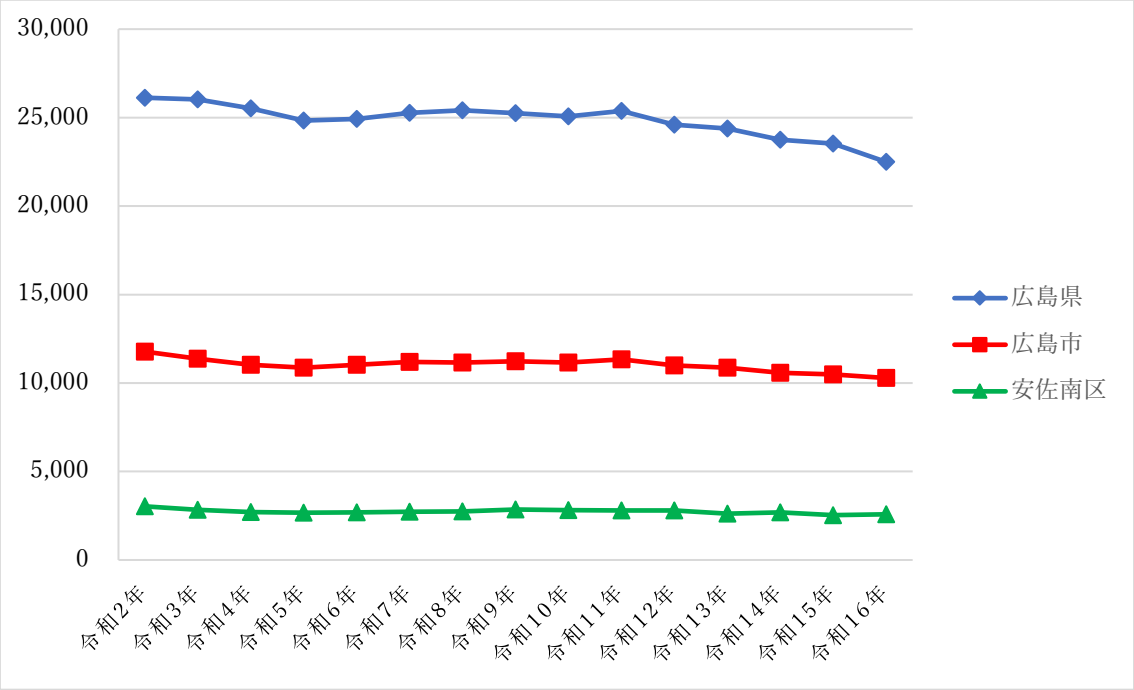
資料３

１．書類等の題名
都道府県別 18 歳人口予測値推移（【資料３】18 ページ）

２．出典
株式会社教育企画センター

３．引用範囲
都道府県別 18 歳人口予測推移　文部科学省「学校基本調査」に見る募集ターゲットの地域別減少予測［2021 最新版］（2022.06.07）
「都道府県別 18 歳人口予測値推移」
https://www.pcpe.jp/blog/20220607-204/

資料 4 広島県・広島市・安佐南区年齢別人口（令和 2 年国勢調査）に基づく 18 歳人口予想



付表　広島県・広島市・安佐南区の人口推移　（単位 人）

	広島県	広島市	安佐南区
令和 2 年	26,125	11,775	3,031
令和 3 年	26,031	11,367	2,833
令和 4 年	25,523	11,035	2,716
令和 5 年	24,830	10,873	2,668
令和 6 年	24,932	11,037	2,689
令和 7 年	25,275	11,187	2,725
令和 8 年	25,410	11,152	2,742
令和 9 年	25,245	11,233	2,845
令和 10 年	25,074	11,158	2,811
令和 11 年	25,377	11,332	2,805
令和 12 年	24,592	10,989	2,804
令和 13 年	24,387	10,863	2,615
令和 14 年	23,748	10,585	2,695
令和 15 年	23,535	10,487	2,535
令和 16 年	22,495	10,283	2,583

資料5　競合校の入学定員・入学者数・定員充足率の推移

単位：人

	項目	2018	2019	2020	2021	2022
松山大学/ 人文学部社会学科	入学定員	120	120	125	125	125
	入学者数	116	113	141	118	120
	定員充足率	0.96	0.94	1.12	0.94	0.96
叡啓大学/ ｿｰｼｬﾙｼｽﾃﾑﾃﾞｻﾞｲﾝ学部 ｿｰｼｬﾙｼｽﾃﾑﾃﾞｻﾞｲﾝ学科	入学定員				100	100
	入学者数				94	88
	定員充足率				0.94	0.88

※叡啓大学は2021年度開学
※定員充足率は小数点以下第3位を切り捨て

資料6 広島修道大学全学及び人文学部人間関係学科社会学専攻 入試統計

※社会学専攻のカッコ内は、他学科併願者の内数　　単位：人

	項目		2018	2019	2020	2021	2022
全学	入学定員(a)		1,415	1,415	1,415	1,415	1,415
	志願者数(b)	延べ人数	10,611	11,457	11,236	11,071	9,804
		実人数	3,486	3,656	3,686	3,634	3,325
	受験者数(c)	延べ人数	10,520	11,350	11,031	10,956	9,701
		実人数	3,472	3,638	3,660	3,614	3,309
	合格者数(d)	延べ人数	4,402	4,345	4,975	4,929	5,195
		実人数	2,459	2,482	2,730	2,698	2,668
	志願倍率 (b/a)	延べ人数	7.5	8.1	7.9	7.8	6.9
		実人数	2.5	2.6	2.6	2.6	2.3
	競争率 (c/d)	延べ人数	2.4	2.6	2.2	2.2	1.9
		実人数	1.4	1.5	1.3	1.3	1.2
社会学専攻	入学定員(a)		60	60	60	60	60
	志願者数(b)	延べ人数	679 (403)	655 (392)	557 (299)	669 (384)	549 (317)
		実人数	327 (199)	315 (188)	283 (153)	319 (186)	258 (142)
	受験者数(c)	延べ人数	673 (402)	648 (388)	548 (295)	662 (376)	544 (314)
		実人数	324 (199)	313 (187)	280 (150)	318 (185)	257 (141)
	合格者数(d)	延べ人数	249 (100)	172 (55)	227 (76)	234 (82)	253 (101)
		実人数	147 (50)	124 (34)	149 (52)	150 (56)	165 (65)
	志願倍率 (b/a)	延べ人数	11.3	10.9	9.3	11.2	9.2
		実人数	5.5	5.3	4.7	5.3	4.3
	競争率 (c/d)	延べ人数	2.7	3.8	2.4	2.8	2.2
		実人数	2.2	2.5	1.9	2.1	1.6

入学者数及び入学定員充足率　　単位：人

	項目	2018	2019	2020	2021	2022
全学	入学定員	1,415	1,415	1,415	1,415	1,415
	入学者数	1,573	1,465	1,575	1,516	1,534
	充足率	1.11	1.03	1.11	1.07	1.08
社会学専攻	入学定員	60	60	60	60	60
	入学者数	72	54	67	49	69
	充足率	1.20	0.90	1.11	0.81	1.15

広島修道大学
人文学部「社会学科(仮称・設置構想中)」

設置構想についての人材需要アンケート調査
（対象：人事採用担当者様）

広島修道大学(広島市安佐南区大塚東1-1-1)は2024(令和6)年度、人文学部人間関係学科社会学専攻を発展的改組し、人文学部「社会学科(仮称・設置構想中)」の開設を構想しております(定員95名)。本学ではこのアンケート調査を通して、将来的に卒業生の採用をご検討いただく皆様からさまざまなご意見をお聞きし、さらなる計画の充実を図っていきたいと考えています。回答いただいた皆様から得られた情報は、広島修道大学の新設学科設置構想に係る統計資料としてのみ活用いたします。アンケートへのご協力を、謹んでお願い申し上げます。

※このアンケート調査は広島修道大学から委託された第三者機関（株式会社紀伊國屋書店・株式会社高等教育総合研究所）が実施しています。

【記入例】 正しい回答 ● ✓　誤った回答 ◯ ✓

・上の記入例を参考に、黒鉛筆またはシャープペンでご回答ください。
・誤って記入した回答は消しゴムでしっかりと消してください。

はじめに、貴社・貴機関についてお尋ねいたします。

問１ 貴社・貴機関の主業種として、あてはまるものをお答えください。（最もあてはまるもの１つにマーク）

- ◯ 農業、林業、漁業、鉱業
- ◯ 建設業
- ◯ 製造業　製造品目：［　　］
- ◯ 電気、ガス、熱供給、水道業
- ◯ 通信業、放送業
- ◯ 情報サービス業
- ◯ インターネット付随サービス業
- ◯ 映像・音声・文字情報制作業
- ◯ 運輸業
- ◯ 卸売業、小売業
- ◯ 金融業、保険業
- ◯ 不動産業、物品賃貸業
- ◯ 宿泊業、飲食サービス業
- ◯ 教育、学習支援
- ◯ 医療、福祉
- ◯ 学術研究、専門・技術サービス業
- ◯ 複合サービス業、その他サービス
- ◯ 公務
- ◯ その他［　　］

問２ 貴社・貴機関の本社または主たる事業所の所在地をお答えください。（あてはまるもの１つにマーク）

- ◯ 広島市内
- ◯ 広島県（広島市以外）
- ◯ 鳥取県
- ◯ 島根県
- ◯ 岡山県
- ◯ 山口県
- ◯ 徳島県
- ◯ 香川県
- ◯ 愛媛県
- ◯ 高知県
- ◯ 東京都
- ◯ 大阪府
- ◯ 福岡県
- ◯ その他［　　］

問３ 貴社・貴機関の従業員または職員数の規模をお答えください。（あてはまるもの１つにマーク）

- ◯ ～99人
- ◯ 100～299人
- ◯ 300～499人
- ◯ 500～999人
- ◯ 1,000～2,999人
- ◯ 3,000人～

本アンケート調査用紙に印刷されている
QRコードは集計時に使用するものです。
個人の特定を目的とするものではありません。

問4以降は別紙・広島修道大学人文学部「社会学科(仮称・設置構想中)」をご覧の上お答えください。

問４ 広島修道大学が開設予定の人文学部「社会学科(仮称・設置構想中)」が養成する人材は社会的ニーズが高いと思われますか。（あてはまるもの１つにマーク）

○ ニーズは極めて高い　○ ニーズはある程度高い　○ ニーズはあまり高くない　○ ニーズは高くない

問５ 広島修道大学が開設予定の人文学部「社会学科（仮称・設置構想中）」が養成する人材を採用したいと思われますか。（あてはまるもの１つにマーク）

○ 採用したい　○ 採用を検討したい　○ どちらとも言えない　○ 採用はしない

問６は問５で「採用したい」「採用を検討したい」と回答いただいた場合にお答えください。

問６ 広島修道大学が開設予定の人文学部「社会学科(仮称・設置構想中)」で養成する人材について、採用したい、または採用を検討したいと思われる人数をお答えください。（あてはまるもの１つにマーク）

○ １名　○ ２名　○ ３名　○ ４名　○ ５名

○ ６名以上（よろしければ人数を記載ください）

問７ 広島修道大学が開設予定の人文学部「社会学科(仮称・設置構想中)」について期待される点、ご要望等がありましたら、ご自由にご記入ください。

質問は以上となります。ご協力をいただき、ありがとうございました。

本アンケート調査用紙に印刷されている
QRコードは集計時に使用するものです。
個人の特定を目的とするものではありません。

広島修道大学 人文学部 社会学科（仮称）

設置構想中

社会の課題を発見するとともに社会の多様性を理解し、社会を構想し提言できる人材を育成

学科の概要

開設時期：2024年(令和6)年4月(予定)
開設場所：広島修道大学(広島市安佐南区大塚東1-1-1)
修業年限：4年
入学定員：95名(収容定員:380名)
取得学位：学士(社会学)
取得できる資格：所定の単位修得(選択制)により、下記の免許状・資格が取得できます。
◆社会調査士(一般社団法人社会調査協会認定資格) ◆中学校教諭一種免許状(社会) ◆高等学校教諭一種免許状(地理歴史／公民) ◆社会教育主事(任用資格) ◆児童福祉司(任用資格)

養成する人材

社会学科(仮称・設置構想中)は、次の三つの資質を備えた人材を養成します。

① 知識と技能

社会学の知識に基づく視角・方法・理論の成り立ちと現代的展開を自ら学び考えることによって、実社会における現象や問題に関する実証的調査を行い、社会学的に理解・分析できる人

② 思考力・判断力・表現力

社会学的知識に基づく視角・方法・理論をもって、自ら課題を発見し、社会問題の解決に取り組み、その成果を表現するために必要な社会学的思考力・判断力・コミュニケーション能力を有する人

③ 多様な人々との協創

多様な人々が存在し、激しく変動していく現代社会において、自ら身につけた社会学的知識を多様な科学や学問に照らし自己反省的に捉え返し、自身と異なる価値観や文化・属性を有する人々と共存していくための社会を構想し提言する能力を備えた人

学科の特色

予測不可能な現代社会において、多様な価値観を持つ人々が協働して社会・世界に貢献していくために、社会学科(仮称・設置構想中)は、以下のような三つの特色を備えています。

① 社会に潜んでいる課題を発見する

社会学の独自性は、幅広い研究対象にあるだけでなく、それらの対象に関するものの見方・考え方にあります。社会学の理論と方法を学修することを通じて、社会学的なものの見方・考え方や社会調査の方法などを修得します。そして、社会学の研究対象は広く多岐に渡っており、人間の生の営みと社会のあり方にかかわるあらゆる社会現象を含んでいます。多彩な「社会の諸領域に関する科目」を理解することを通じて、現実の社会に対する視野を広げ、社会に潜んでいる課題を発見していきます。

② 社会の多様性を理解し、理論的に思考する

2年次より履修する演習科目は、複数の専門演習科目が履修可能となっています。演習では、学生と教員、学生同士の議論によって、学生自身が主体的に問題を発見し、自分と異なる意見・価値観に遭遇し、理論的に思考するスキルを修得します。演習科目は講義科目と連動しており、社会に関する視野をさらに拡張し、自らの関心をより深化させていきます。

③ 社会を構想し、提言する

社会学を学ぶものには、社会に対する関わりの中で、問題を解決に導くための提言を行い、現にある社会が別様にもありうる可能性を構想し、提言していくことが求められます。社会学を学んだ集大成として、学生自らがテーマを発見し、課題を設定し、調査・資料収集を実施し、作成計画をもとに、4年次に卒業論文を作成します。卒業論文の作成を通じて、自らの関心を一般化・普遍化して社会的課題を設定し、情報処理リテラシーなどを駆使し根拠にもとづいて説明する力、他者を説得するために論理を組み立てる能力を修得します。

卒業後の進路(例)

◆マスメディア ◆公務(行政・警察・消防など) ◆卸売・小売 ◆服飾関係 ◆観光
◆金融 ◆情報通信 ◆製造 ◆教育関係 ◆大学院進学 など

上記内容は構想中の内容であり、今後変更となる場合があります。

3. 人材需要アンケート調査　集計結果ポイント

①回答元の基本情報

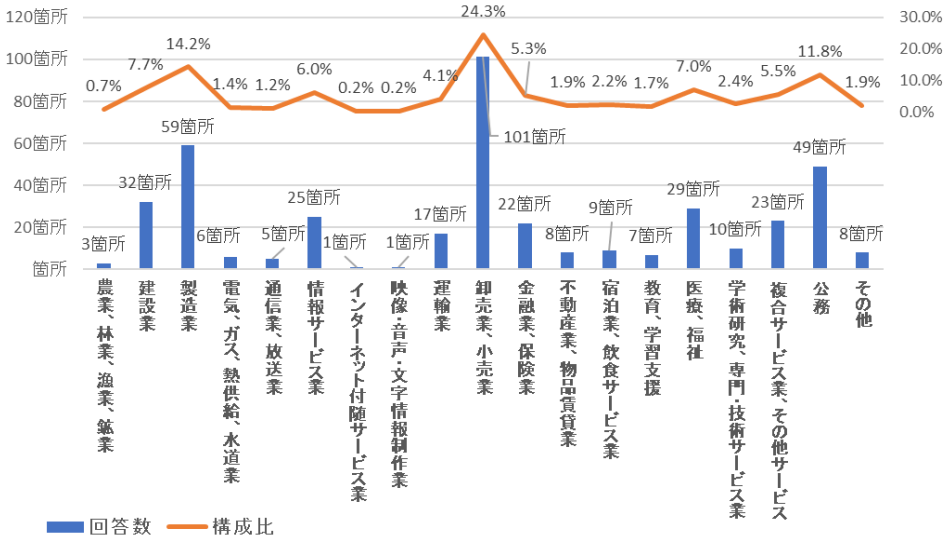
Point 1	本アンケート調査に対し、広島県内をはじめ、中国・四国地方、首都圏・関西圏が本社所在地の幅広い業種、さまざまな規模の企業や行政など計415箇所が回答。

広島修道大学が人文学部に設置構想中の「社会学科（仮称）」の人材需要の見通しを検証するため、人材需要アンケート調査を実施し、本学科開設予定の広島市をはじめとする地域の企業等415箇所より回答を得た。

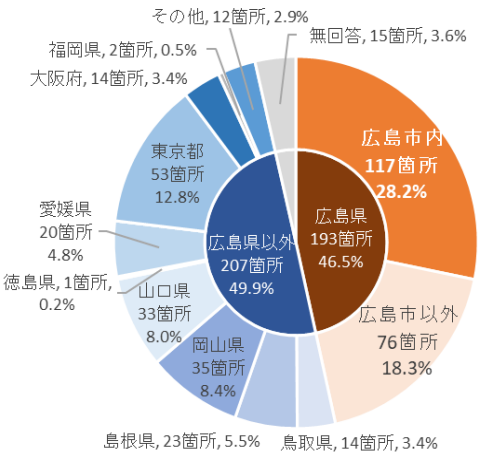
回答元の業種としては「卸売業、小売業」101箇所（24.3%）が最も多く、次いで「製造業」59箇所（14.2%）、「公務」49箇所（11.8%）の他、幅広い業種の企業から回答を得た（グラフ1）。所在地としては「広島県」193箇所（46.5%）で、内訳は「広島市内」117箇所（28.2%）、「広島市以外」76箇所（18.3%）であった。この他、「岡山県」35箇所（8.4%）、「山口県」33箇所（8.0%）を含む中国地方や「愛媛県」20箇所（4.8%）を含む四国地方、さらに「東京都」53箇所（12.8%）、「大阪府」14箇所（3.4%）であった（グラフ2）。従業員等規模別では「100～299人」100箇所（24.1%）が最も多く、次いで「500～999人」89箇所（19.5%）、「300～499人」76箇所（18.3%）などであった（グラフ3）

以上の通り、本アンケート調査は広島県を中心とする中国地方、四国地方、東京・大阪などの都市圏の幅広い業種のさまざまな規模の企業や行政などから回答を得た。

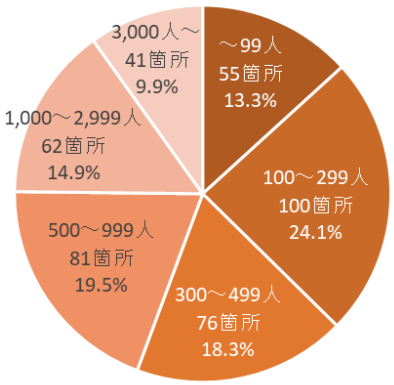
グラフ1：　回答元の業種



グラフ2：　回答元の本社等所在地



グラフ3：　回答元の従業員等規模



②広島修道大学 人文学部「社会学科（仮称）」について

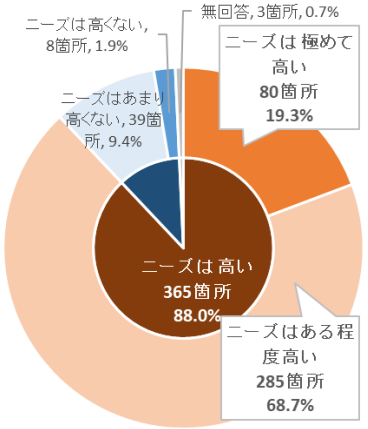
Point 2	広島修道大学の「社会学科（仮称）」が養成する人材の社会的ニーズについて、約9割の365箇所（88.0%）が認める結果。

Point 3	広島修道大学の「社会学科（仮称）」が養成する人材について、7割強の311箇所（74.9%）が採用意向を示し、採用可能人数は卒業見込人数95名を大きく上回る641人。

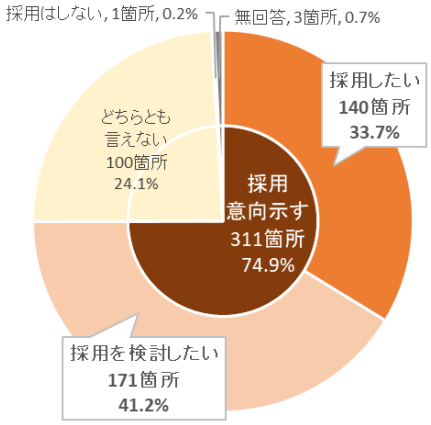
広島修道大学の人文学部「社会学科（仮称）」の概要を示した上で、養成する人材の社会的ニーズ、各回答元における採用意向について回答を求めた。

社会的ニーズについては「ニーズは極めて高い」80箇所（19.3%）、「ニーズはある程度高い」285箇所（68.7%）で、合計すると約9割の365箇所（88.0%）が本学科の社会的ニーズは高いとの認識を示した（グラフ4）。また、採用意向については「採用したい」140箇所（33.7%）、「採用を検討したい」171箇所（41.2%）で、合計すると7割強の311箇所（74.9%）が採用意向を示し（グラフ5）、その上で提示された採用可能人数は、卒業見込人数（入学定員）95名を大きく上回る合計641人であった。

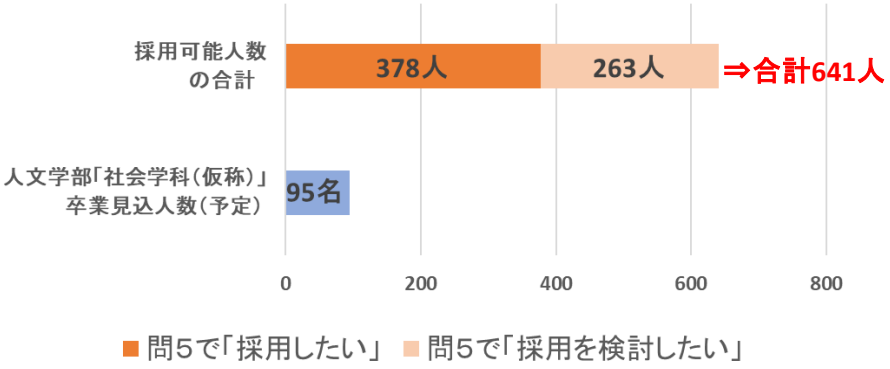
グラフ4： 人文学部「社会学科（仮称）」社会的ニーズについて



グラフ5： 人文学部「社会学科（仮称）」養成人材の採用意向



グラフ6： 人文学部「社会学科（仮称）」養成人材の採用可能人数



問7　広島修道大学が開設予定の人文学部「社会学科(仮称・設置構想中)」について期待される点、ご要望等がありましたら、ご自由にご記入ください。

※72箇所から回答を得た。末尾の【】内は、回答元の業種/本社等所在地/従業員等規模(いずれも回答項目に基づく)。

	回答内容
1	学部ではなく、弊社は人物で採用を決めています【製造業(塗料) / 大阪府 / 100～299人】
2	VUCA時代に対応していくためには、社会学的知識を活かし、主体的に課題を発見し、多角的に解決に導く人材が必要不可欠です。多様な価値観が存在する組織において、その能力を発揮できる人材の育成に期待しております。【製造業(機械) / 広島市内 / 500～999人】
3	近年、学生はインプットは得意な傾向にありますが、アウトプットに関しては苦手としている学生が多いように感じます。せっかく良い学びのできる学部を開設されるのであれば、ぜひアウトプット能力も高めていけるカリキュラムを期待しています。【卸売業、小売業 / 広島市内 / 500～999人】
4	実際にどのような教育をして、どのような人材が育つのかイメージできないので判断に迷うというのが正直な感想です。【製造業(自動車部品) / 広島県(広島市以外) / 300～499人】
5	「自ら考え行動できる人」になれるよう期待します。社会人として、基本的な礼節を身に付ける下地は、学生のうちにつけてほしい。(業務上の知識やスキルは会社に入ってから十分に教育するので)【製造業(自動車内装部品) / 広島市内 / 100～299人】
6	貴学生様とお会いできることを楽しみにしております。【製造業(木製品) / 広島県(広島市以外) / 100～299人】
7	中国地方に集中的な店舗展開をしているため、地域社会に根ざした人材を供給していただきたいです。【金融業、保険業 / 東京都 / 500～999人】
8	学術研究だけでなく、現実の課題から過去を学び、将来を予見できる内容を望みます【卸売業、小売業 / 広島県(広島市以外) / 100～299人】
9	何もない0の状態から1を作り出せる、提案できる人物人材を期待します。【情報サービス業 / 広島県(広島市以外) / ～99人】
10	採用人数は1名に印をつけておりますが、良い人材がいれば積極的に採用したいと考えています。【情報サービス業 / 岡山県 / 100～299人】
11	今後ともよろしくお願いいたします。【卸売業、小売業 / 岡山県 / 100～299人】
12	地域貢献できる人材の育成【複合サービス業、その他サービス / 山口県 / 100～299人】
13	多様性が増す社会で新たな構想を持った学生の方たちが活躍されることを期待します。【教育、学習支援 / 東京都 / 1,000～2,999人】
14	課題発見について、物事の本質や背景を見極めることが出来る学生を育成して頂きたい。【公務 / 鳥取県 / 100～299人】
15	本資料にもある通り、自分と異なる意見や価値観に遭遇することはどの職場においてもあり得ることです。 貴学にある3つの資質を備えた人材を養成することは、これからの社会を担う若者にとってとても重要なことであり、予測不可能な現代社会において求められるものだと思います。【公務 / 山口県 / 100～299人】
16	2023年卒の学生を採用致しました。 山口県内の就職をお考えの学生を継続して貴校から採用したいと思っております。 今後ともよろしくお願いいたします。【医療、福祉 / 山口県 / 100～299人】
17	文系学生の志望動機は専門性の観点から難しく採用数が見込めない(本人の資質によるため)【建設業 / その他(愛知) / 300～499人】
18	弊社採用への多数の応募をお待ちしております。 よろしくお願いいたします。【複合サービス業、その他サービス / 島根県 / 100～299人】
19	柔軟な考えを持ち、その考えをコミュニケーション能力を発揮して発信できれば、どの業界でも活躍できると考えます。【学術研究、専門・技術サービス業 / 大阪府 / 300～499人】
20	現在の日本では未だに提案力を身に付けた若者が少ないため、なかなか海外への進出が困難だったりする中、貴学の学科で学習することにより、日本だけでなく海外でも役に立つ人材へと育つことが期待できると考えます。【卸売業、小売業 / 広島市内 / ～99人】
21	貴大学の卒業生をR4年度も2名採用させていただきました。学部を問わず、良い人材であれば採用したいと考えています。新たな学科にも期待させていただきます。【公務 / 島根県 / ～99人】
22	しっかりと社会のあり方を見つめ、将来の社会のあり方を踏まえた提案ができる人材、そしてマーケティングが出来る人材になってほしい。【製造業(ゴム製品製造業) / 広島県(広島市以外) / 300～499人】

	回答内容
23	学生の間に、社会性、社会にひそむ問題を解決する力を身に付けていたら、即戦力として仕事をしてもらえそうと期待できる。【卸売業、小売業 / 広島県(広島市以外) / 100～299人】
24	専門知識を活かし働いていただける部署はない。 他の文系と変わらず営業もしくは事務になるので、特徴的な専門知識がないと難しい。【製造業(食品) / 広島県(広島市以外) / 100～299人】
25	社会学の観点から幅広い知識を身に付け、会社の課題点について行動、解決できる人材が入社してくれる事を期待します。【卸売業、小売業 / 広島県(広島市以外) / 1,000～2,999人】
26	社会地域ニーズを把握し、具体的に課題解決をしていくことはこの業界にとっても大切なことなので、養成される人物像や特色にそって学生を育てていただきたい。 また、課題解決には高いコミュニケーション能力や調整力が必要なので、学生の時にその体験値を多く与えられるようにしていただければと思います。【医療、福祉 / 広島県(広島市以外) / 100～299人】
27	どの学部、学科も一生懸命に学業やサークル活動に取り組まれた学生さんに魅力を感じます。【金融業、保険業 / 広島市内 / 300～499人】
28	現代社会において、法律などの知識や一側面の考え方など情報を簡単に得られるようになったことで、情報とどのように付き合うか、情報をどう活かしていくか、という部分の能力が必要となっていることから、社会学の価値は高いと思います。 弊社においても、このような複雑化した社会を生き抜く力を持った人材は必要不可欠と考えており、採用においてこのようなことを学習してきた学生は是非とも採用したいと考えます。【その他(警備業) / 広島市内 / 300～499人】
29	自ら学び、考え、様々な視点から課題を発見し、解決に導く能力が社会学科で鍛えられるように感じました。 思考力、判断力、表現力のレベルが高い学生を弊社としても求めていますので、期待しております。【製造業(プラスチックフィルム) / 広島県(広島市以外) / 100～299人】
30	思考力、判断力、コミュニケーション能力のリテラシー向上に期待します。 自ら考え、どう動けばいいか思考、行動できる人に期待します。【その他(製作会社) / 広島市内 / ～99人】
31	学科による採用の可否はありませんので。学生とのマッチができれば人数に上限はありません。 既存の学科との違いが明確にあれば良いと思います。【卸売業、小売業 / 広島市内 / 3,000人～】
32	入社後の働き方は、色々な課題をクリアする必要があります。 人と関わる職業であれば、社会学科が必ず必要と思われます。 学生自身が考え、問題解決に向け取り組める人材を育成して下さい。【建設業 / 広島県(広島市以外) / 100～299人】
33	保育士、介護関係の資格もあればより採用しやすいです。【医療、福祉 / 広島市内 / 300～499人】
34	多様化する社会で将来職についた際に多角的な視点で企業の問題をみつけ、少しでも改善していける人材となる学生が出てくる点を期待しております。【卸売業、小売業 / 島根県 / 1,000～2,999人】
35	・資料を読み取る力、分析できる力 ・自分で考え、自分の意見を多くの人の前で述べる力 最近の職員を見ると、こうした力が不足してるように感じられます。 大学時代にこうした力を少しでも身に付けておいてほしいです。【公務 / 鳥取県 / 500～999人】
36	地元で活躍し、広島発信で地域を盛り上げていただけるような人材教育を期待します。【卸売業、小売業 / 広島市内 / 1,000～2,999人】
37	予測不可能な現代社会において、自ら課題を発見し、解決する能力や多様な価値観があることを受容することのできる人材が必要となっていますのでそのような人材を養成される事を期待しています。【公務 / 岡山県 / 500～999人】
38	我々の仕事は、建設業とはいっても大手ゼネコンやデベロッパーからの下請けがほとんどです。その際、その職種に応じた専門的知識と同時に人間的に幅のある説得力がとても大切です。 我慢強く持続する人間的な資質が最も大切な資質と思われますので、御大学が目指すべき方向は、同じ方向性とも思われます。【建設業 / 東京都 / ～99人】
39	分析力、判断力に優れた学生の教育、育成に期待致します。【製造業(作業用手袋) / 広島県(広島市以外) / 100～299人】
40	当方は福祉事業を展開しています。 養成する人材②思考力、判断力、表現力はどの事業もそうでしょうが 福祉サービスにおいても重要視されます。 我々の業界にとって大変プラスとなる人材が育つことを期待します。【医療、福祉 / 広島県(広島市以外) / ～99人】

	回答内容
41	弊社はLPガスを取り扱っておりますが、エネルギー業界は現在脱炭素という大きなトレンドにあります。 今後は水素エネルギーが普及するかもしれません。 このように変革期にあるエネルギーに興味を持って頂ける人材の育成をよろしくお願いいたします。【卸売業、小売業 / 島根県 / ～99人】
42	現在は天候が急に変化したり新型コロナウイルス等、予測不能な事がいつ起きるかわからない。 このような時候です。いろんな角度から見て原因を追求し、視野を広げていくことにより自分の成長になると思います。 その時の状況判断ができるように将来社会に貢献できる人物を求めます。前向きに！【卸売業、小売業 / 広島県（広島市以外） / ～99人】
43	社会という大きな規模のみならず、地域社会（主に広島市を中心とした中国地方）の抱える課題の発見にフォーカスした講義（ゼミ）を設けてほしい【金融業、保険業 / 広島市内 / 100～299人】
44	資料にも記載のある通りですが、変化のスピードが加速している今、自ら課題を見つけ分析し解決に向けてチームで動くことのできる人材を期待しています。【不動産業、物品賃貸業 / 徳島県 / ～99人】
45	情報を判断し、ニーズに応えられる行動力のある人材に育てていただきたい。社会貢献、自己肯定力、考動する努力を惜しまない人に育ってほしいです。【不動産業、物品賃貸業 / 大阪府 / ～99人】
46	公務部門においては、多様性や市民との協創によるまちづくりが求められていますので、ぜひ、養成する人材を育成してほしいと思います。 なお、採用検討人数については、根拠はありません。【公務 / 山口県 / 500～999人】
47	いつもお世話になります。 大学として人の教育という在り方への挑戦を続けられる事にとても感銘を受けます。 私たちも社会人の教育の場として更に覚悟を決めて取り組みますのでこれからもよろしくお願い致します。【卸売業、小売業 / 広島市内 / ～99人】
48	御校様からは毎年栄養士の学生様を採用させて頂いておりますが、2018年には総合職の学生様にもご縁を頂いております。総合職では問題解決能力や課題発見力等が求められ、社会学科でこれらの資質を身に付けられた学生様にぜひご縁を頂ければと思っております。【宿泊業、飲食サービス業 / 東京都 / 3,000人～】
49	VUCA時代と呼ばれる昨今、御学科において学ばれる学生、そして教育内容が、これからの社会を創っていくことと思われます。 社会学科（仮称）の学生だけではなく、御校をご卒業される学生様1人ひとりに期待をしております。【複合サービス業、その他サービス / 岡山県 / 1,000～2,999人】
50	課題を見つけ、主体的に対応できる人材の育成を期待します【卸売業、小売業 / 広島市内 / ～99人】
51	今年も貴学の優秀な生徒さまを積極的に採用したく考えております。【複合サービス業、その他サービス / 東京都 / 1,000～2,999人】
52	弊社は学部学科不問で採用活動を行なっているため、お人柄や考えなどマッチすれば、何人でも採用可能です。【情報サービス業 / 東京都 / 300～499人】
53	幅広く対応できそう【製造業（金属加工品） / 広島県（広島市以外） / ～99人】
54	弊社では特に学部学科関係なくその人の個性を見て採用をしているため、その学科を卒業するからとい理由での採用にはなりません。 よって社会学科で養成された人材かどうかは合否に関係ないため「どちらとも言えない」としています。【卸売業、小売業 / 広島市内 / 300～499人】
55	これから激しく変化してゆく時代を迎えますが、就職時にどの業界に関わろうとも、その業界でより愛情深い社会実現に向けたリーダー的存在として成長しうる人材の育成を期待しております。【複合サービス業、その他サービス / 東京都 / 3,000人～】
56	今は、あまりにも色々なジャンルの学部や学科があり、学生さんが自分はどういうことを学んで、それがどう自分の人格形成の基になっているのかや、社会に出て活かすことができるかを、アピールできる学生は少ないように感じます。わかりやすい専門職系の学科ではないからこそ、そこがうまくできるようであれば、人事担当としても学生さんのことが理解しやすいです。【卸売業、小売業 / 山口県 / 300～499人】
57	論理的思考ができる人材【宿泊業、飲食サービス業 / 所在地無回答 / 1,000～2,999人】
58	どの様な進路に進んだにせよ、課題発見能力及び問題解決能力、そして自主性を発揮できる学生が育つ学部である事を期待しております。【教育、学習支援 / 広島市内 / 300～499人】
59	幅広い観点で物を捉え思考する力、様々な視点で検討する力が養われると考えるので、弊社の行っている業態においてその力が大変生かされると感じた。【卸売業、小売業 / 広島市内 / 100～299人】

	回答内容
60	自分が学生として「社会学」を学んだ先のキャリアが不明瞭。御校ならば、その上でどうキャリアを積んでも良いという自由さも感じるが、高校生が社会学という漠然とした表現に何を感じるのかが創造がつかないというのが正直なところです。【建設業 / 広島市内 / ～99人】
61	人文系の学科に希望するのはきちんと学生に勉強させてほしいということです。また情報リテラシーも身につけさせてほしい【建設業 / 東京都 / 1,000～2,999人】
62	確かな知識と客観的現実的な視点に基づいて物事や社会を見て、 自らの基準で判断・行動できる人材を期待します！【複合サービス業、その他サービス / 広島県（広島市以外） / 1,000～2,999人】
63	自ら課題を発見し、解決に向けて論理的に思考できる方は非常に期待できると考えています。また、それらを提言出来る姿勢もあれば既に基礎があるので、育成カリキュラムをより高いレベルのものへ出来ると楽しみになりました。【製造業（くりーむパン） / 広島県（広島市以外） / 100～299人】
64	人との関わりが少なくなりつつある現代の中でより幅広い感覚や知識を習得し、県内をリードする学生の養成に期待ししたい。【金融業、保険業 / 広島県（広島市以外） / 300～499人】
65	特になし【卸売業、小売業 / 広島市内 / ～99人】
66	特に魅力を感じる点が「学科の特色②」記載の「学生自身が主体的に問題を発見し、自分と異なる意見・価値観に遭遇し、理論的に思考するスキルを習得」および、「同所③」記載の「現にある社会が別様にもありうる可能性を構想し、提言していく」です。 変化・進化を求められる現代において、既存の形に捉われることなく、自発的に課題を発見・解決できる学生様がより多く育たれることを、僭越ながら楽しみにしております。【金融業、保険業 / 広島市内 / 100～299人】
67	上記採用人数は未定のため選択できる最小人数を選択いたします【金融業、保険業 / 東京都 / 3,000人～】
68	必ずしも医療事務を学んだり資格をとっていなくても生協活動に強く興味関心を持たれたり、当法人の理念に共感される学生の方であれば総合事務職として採用を検討したいと思います。（採用人数は年によって変わります）【医療、福祉 / 広島市内 / 500～999人】
69	問4のニーズについての補足ですが、ニーズの高い業種または職種はあるとは思います。ただ限られてくるのではないかと感じます。【建設業 / 広島市内 / ～99人】
70	我々の職種では様々な視点から課題を発見し、チームでその課題を解決して行く事を大切にしています。 【養成する人材】 ①知識と技能 ②思考力・判断力・表現力③多様な人々との協創は、まさに我々が求める人物像です。【卸売業、小売業 / 岡山県 / 100～299人】
71	現行の設置してある学科と比較した際の違いがよくわかりませんが、貴大学の人材であれば、弊社としては年に数名は採用したいと考えております。【卸売業、小売業 / 広島市内 / 300～499人】
72	特段要望はありません。【建設業 / 広島県（広島市以外） / 1,000～2,999人】

別記様式第３号（その１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　　員　　名　　簿

学　長　の　氏　名　等						
調書番号	役職名	フリガナ 氏名 ＜就任(予定)年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	現　職 （就任年月）
－	学長	ﾔﾉ（ﾀﾆｸﾞﾁ）　ｲｽﾞﾐ 矢野（谷口）　泉 ＜令和6年4月＞		博士 （農学）		広島修道大学学長 （令和4．4）

（注）　高等専門学校にあっては校長について記入すること。

審査意見への対応を記載した書類（７月）

（目次）人文学部　社会学科

１．「大学の設置等に係る提出書類の作成の手引（令和６年度開設用（改正前学設置基準））」のⅣ「１　各手続の提出書類」において提出を求めている「収容定員の充足状況」について、申請時の設置認可申請書類として提出されていないことから、適切に作成した上で提出すること。（是正事項）……p.2

２．本学の学則において、学校教育法施行規則第４条第１項第９号に規定する「寄宿舎に関する事項」について記載が見受けられないことから、適切に改めること。（是正事項）‥‥p.3

（是正事項）人文学部　社会学科

１.「大学の設置等に係る提出書類の作成の手引（令和６年度開設用（改正前学設置基準））」のⅣ「１　各手続の提出書類」において提出を求めている「収容定員の充足状況」について、申請時の設置認可申請書類として提出されていないことから、適切に作成した上で提出すること。

（対応）

「収容定員の充足状況」について、申請時の設置認可申請書類として提出していなかったため、この度作成し提出する。

（是正事項）人文学部　社会学科

２.本学の学則において、学校教育法施行規則第４条第１項第９号に規定する「寄宿舎に関する事項」について記載が見受けられないことから、適切に改めること。

（対応）

本学の学則を改め、学校教育法施行規則第４条第１項第９号に規定する「寄宿舎に関する事項」を明記した。

（新旧対照表）学則（15、29 ページ）

新	旧
第１条～第45条　略 第10章　厚生及び保健 （厚生・保健施設） 第46条　本学に厚生・保健のための施設を設ける。 ２　前項の各施設に関する規程は、別にこれを定める。 第46条の２　前条に設ける施設とは別に、本学に寄宿舎を設けることができる。 ２　前項の寄宿舎に関する規程は、別にこれを定める。 第47条～第56条　略 附　則 １～79　略 80　この学則は、第10条第１項別表２、第16条第２項、第48条第２項及び第５項を改正し、第46条の2を追加し、第48条第３項を削り、以下項数を繰り上げて、2023（令和５）年４月１日から施行する。ただし、2022（令和４）年度以前に入学した者については、第46条の2を除き、改正後の規定にかかわらず、なお従前の例による。 81　略 別表１～別表３　略	第１条～第45条　略 第10章　厚生及び保健 （厚生・保健施設） 第46条　本学に厚生・保健のための施設を設ける。 ２　前項の各施設に関する規程は、別にこれを定める。 第47条～第56条　略 附　則 １～79　略 80　この学則は、第10条第１項別表２、第16条第２項、第48条第２項及び第５項を改正し、第48条第３項を削り、以下項数を繰り上げて、2023（令和５）年４月１日から施行する。ただし、2022（令和４）年度以前に入学した者については、改正後の規定にかかわらず、なお従前の例による。 81　略 別表１～別表３　略